

河川局部改良事業二級河川奥の谷川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

加賀市

三木 A 遺跡

2009

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター

三^み木^き A 遺跡

2009

石川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター



三木A遺跡と周辺地



調査区俯瞰



第3次調査区全景



第2次調査 焼石土坑 (SK2009)

例 言

- 1 本書は三木A遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は加賀市三木町地内である。
- 3 調査原因は河川局部改修事業二級河川奥の谷川であり、同事業を所管する石川県土木部河川課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は、石川県立埋蔵文化財センターが、昭和61(1986)年度、平成6(1994)年度から平成7(1995)年度にかけて現地調査を実施した。また平成18(2006)年度から平成20(2008)年度にかけて、財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて出土品整理、報告書刊行を実施した。
- 5 調査に係る費用は石川県土木部河川課が負担した。
- 6 現地調査は昭和61(1986)年度及び平成6年度、平成7年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者(職名は当時)は下記のとおりである。
 - (1)第1次調査
 - 期 間 昭和61年5月15日～昭和61年9月24日
 - 面 積 700㎡
 - 担 当 課 調査班(農林以外の県関係担当)
 - 担 当 者 田嶋明人(調査研究専門員)、中島俊一(主査)
 - (2)第2次調査
 - 期 間 平成6年7月1日～平成6年11月7日
 - 面 積 1,150㎡
 - 担 当 課 調査第一課
 - 担 当 者 木立雅朗(主事)、端 猛(主事)
 - (3)第3次調査
 - 期 間 平成7年7月31日～平成7年9月13日
 - 面 積 400㎡
 - 担 当 課 調査第一課
 - 担 当 者 垣内光次郎(主任主事)、端 猛(主事)
- 7 出土品整理は平成18年度および平成19(2007)年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書刊行は平成20年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。編集・執筆は垣内光次郎(調査部特定事業調査グループ グループリーダー)が行い、端 猛(調査部特定事業調査グループ専門員)、加藤克郎(調査部特定事業調査グループ主任主事)が補助した。
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。(五十音順、敬称略)
石川県土木部河川課、石川県南加賀土木総合事務所、加賀市教育委員会、金三津英則、合田幸美、酒井中、田畑直彦、中村徹也、乗安和二三、豆谷和之、吉田広
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2)水平基準は海拔高であり、T. P.(東京湾平均海面標高)による。
 - (3)出土遺物番号は挿図、観察表、写真とで対応する。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 遺跡発見の経緯	1
第2節 現地調査の経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 遺 構	9
第4章 遺 物	37

挿図目次

第 1 図	調査区位置図	3	第 34 図	第 1 次調査出土遺物実測図 2	40
第 2 図	三木 A 遺跡周辺航空写真	4	第 35 図	第 1 次調査出土遺物実測図 3	41
第 3 図	三木 A 遺跡の位置	5	第 36 図	第 1 次調査出土遺物実測図 4	42
第 4 図	三木 A 遺跡と周辺の遺跡	7	第 37 図	第 1 次調査出土遺物実測図 5	43
第 5 図	第 2・3 次調査グリッド配置図	10	第 38 図	第 1 次調査出土遺物実測図 6	44
第 6 図	基本層序	10	第 39 図	第 1 次調査出土遺物実測図 7	45
第 7 図	第 2・3 次調査遺構面範囲図	11	第 40 図	第 1 次調査出土遺物実測図 8	46
第 8 図	第 2 次調査遺構配置・実測断面図 1	12	第 41 図	第 1 次調査出土遺物実測図 9	47
第 9 図	第 2 次調査遺構配置・実測断面図 2	13	第 42 図	第 1 次調査出土遺物実測図 10	48
第 10 図	第 2 次調査 4 区遺構図 1	14	第 43 図	第 1 次調査出土遺物実測図 11	49
第 11 図	第 2 次調査 4 区遺構図 2	15	第 44 図	第 1 次調査出土遺物実測図 12	50
第 12 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 1	16	第 45 図	第 2 次調査出土遺物実測図 1	51
第 13 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 2	17	第 46 図	第 2 次調査出土遺物実測図 2	52
第 14 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 3	18	第 47 図	第 2 次調査出土遺物実測図 3	53
第 15 図	第 2 次調査 1・2 区遺構図 4	19	第 48 図	第 2 次調査出土遺物実測図 4	54
第 16 図	第 2 次調査 1・2 区、第 3 次調査遺構図	20	第 49 図	第 2 次調査出土遺物実測図 5	55
第 17 図	第 2 次調査平面図 1	21	第 50 図	第 2 次調査出土遺物実測図 6	56
第 18 図	第 2 次調査平面図 2	22	第 51 図	第 2 次調査出土遺物実測図 7	57
第 19 図	第 2 次調査平面図 3	23	第 52 図	第 2 次調査出土遺物実測図 8	58
第 20 図	第 2 次調査平面図 4	24	第 53 図	第 2 次調査出土遺物実測図 9	59
第 21 図	第 2 次調査平面図 5	25	第 54 図	第 2 次調査出土遺物実測図 10	60
第 22 図	第 2 次調査平面図 6	26	第 55 図	第 2 次調査出土遺物実測図 11	61
第 23 図	第 2 次調査平面図 7	27	第 56 図	第 2 次調査出土遺物実測図 12	62
第 24 図	第 2 次調査平面図 8	28	第 57 図	第 2 次調査出土遺物実測図 13	63
第 25 図	第 2 次調査平面図 9	29	第 58 図	第 2 次調査出土遺物実測図 14	64
第 26 図	第 2 次調査平面図 10	30	第 59 図	第 2 次調査出土遺物実測図 15	65
第 27 図	第 2 次調査平面図 11	31	第 60 図	第 2 次調査出土遺物実測図 16	66
第 28 図	第 2 次調査平面図 12	32	第 61 図	第 2 次調査出土遺物実測図 17	67
第 29 図	第 2 次調査平面図 13	33	第 62 図	第 3 次調査出土遺物実測図 1	68
第 30 図	第 2 次調査平面図 14	34	第 63 図	第 3 次調査出土遺物実測図 2	69
第 31 図	第 3 次調査平面図 1	35	第 64 図	第 3 次調査出土遺物実測図 3	70
第 32 図	第 3 次調査平面図 2	36	第 65 図	第 3 次調査出土遺物実測図 4	71
第 33 図	第 1 次調査出土遺物実測図 1	39	第 66 図	第 3 次調査出土遺物実測図 4	72

表 目 次

第 1 表	土器・陶磁器観察表 1	73	第 7 表	土器・陶磁器観察表 7	79
第 2 表	土器・陶磁器観察表 2	74	第 8 表	土器・陶磁器観察表 8	80
第 3 表	土器・陶磁器観察表 3	75	第 9 表	土器・陶磁器観察表 9	81
第 4 表	土器・陶磁器観察表 4	76	第 10 表	石器観察表	82
第 5 表	土器・陶磁器観察表 5	77	第 11 表	金属製品観察表	82
第 6 表	土器・陶磁器観察表 6	78			

図版目次

巻頭図版 1	三木 A 遺跡と周辺地／調査区俯瞰	図版 17	1・2 区（2 面目）遺構検出の様子／ SD2028（D43 区）土器出土状況
巻頭図版 2	第 3 次調査区全景／第 2 次調査焼石土坑 （S K 2009）	図版 18	SD2022（E41 区）土器出土状況／SD2022 調査状況
図版 1	遺跡の垂直空中写真	図版 19	1・2 区（2 面目）完掘状況
図版 2	遺跡近景／三木の集落より調査区を望む	図版 20	1・2 区（3 面目）完掘状況／SD2020 （C46 区）完掘状況
図版 3	調査着手前／表土掘削の様子	図版 21	第 3 次調査完掘状況
図版 4	第 1 次調査完掘状況／遺物出土状況	図版 22	第 3 次調査完掘状況／SD2204 完掘状況
図版 5	第 1 次調査完掘状況	図版 23	第 1 次調査出土遺物 1
図版 6	第 2 次調査 4 区完掘状況	図版 24	第 1 次調査出土遺物 2
図版 7	4 区北端（F 1・2 区）SX2401、SX2402 土器細片検出状況／4 区北壁土層断面	図版 25	第 1 次調査出土遺物 3
図版 8	4 区遺構検出状況／4 区調査の様子	図版 26	第 1 次調査出土遺物 4
図版 9	4 区完掘状況	図版 27	第 2 次調査出土遺物 1
図版 10	4 区完掘状況／SK2403（H12 区）土層断面	図版 28	第 2 次調査出土遺物 2
図版 11	4 区土層断面／4 区 SD2405 周辺土層断面	図版 29	第 2 次調査出土遺物 3
図版 12	3 区調査状況／3 区遺構検出状況	図版 30	第 2 次調査出土遺物 4
図版 13	第 2 次調査 1・2 区完掘状況	図版 31	第 2 次調査出土遺物 5
図版 14	1・2 区（1 面目）遺構検出状況	図版 32	第 3 次調査出土遺物
図版 15	1・2 区（1 面目）完掘状況		
図版 16	1・2 区（1 面目）完掘状況（D 45 区周辺） ／SK2002（C 45 区）		

第1章 調査の経緯と経過

第1節 遺跡発見の経緯

本遺跡の発掘調査は、三木町地内を流れる奥の谷川局部改良工事に伴うものである。奥の谷川は、二級河川大聖寺川の下流域に位置する支流で、加賀市奥谷町地内の福井県との県境山間部に源を發し、橘町から三木町地内を北方へ流下する延長約4km、流域面積約5.4km²の小河川である。三木町地内で大聖寺川へ合流し、塩屋町地内で日本海へ注ぎ、福井県と境界をなしている。

本改良工事では、4m程度の川幅であったものを約10mまでに拡幅・掘削する計画であったことから、昭和60年度には、石川県大聖寺土木事務所（当時）から石川県立埋蔵文化財センター（当時）に対して分布調査実施の依頼があり、同年10月から昭和61年3月にかけて、三木町地内の奥の谷川右岸部分を踏査及び重機による試掘で分布調査を実施した。その結果、縄文時代中期から中世までの遺跡を確認したことから、全体改修延長1050mのうち、約350mの築堤範囲については発掘調査が必要となった。この右岸部分に関しては、昭和61年度に発掘調査を実施した（第1次調査）。

昭和63年度には、奥の谷川左岸の丘陵裾部分の分布調査実施の依頼があり、7月20日、市道の雁田橋から上流延長160m（約3,600m²）について試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。12月23日には、7月に実施した箇所より更に上流部（約10,000m²）で分布調査を実施した結果、多量の土器片の散布が確認され、埋蔵文化財包蔵地であることが判明した。なお、立木や下草が繁茂していたため踏査不能部分については、下草等伐採後に分布調査を再度行うことになった。

平成3年6月、大聖寺土木事務所より県立埋文センターに分布調査の依頼があり、6月5日には重機での試掘調査、9月19日は人力による試掘調査を実施し、左岸部分の事業用地内では約1,000m²の区域において発掘調査が必要であることを確認した。この左岸部分に関しては、平成6・7年度に発掘調査を実施した（第2・3次調査）。

第2節 現地調査の経緯と経過

1. 昭和61（1986）年度 第1次調査

昭和61年5月15日付けで、大聖寺土木事務所から県立埋文センターに対して、築堤部分約700m²の調査依頼があり、奥の谷川右岸調査区の発掘調査を実施した。5月15日に現地調査を着手し、丘陵の裾部に位置した低湿地において、縄文時代から中世にかけての土坑、溝状遺構などを確認した。9月24日に現地作業を終了した。

2. 平成6（1994）年度 第2次調査

平成6年度は第2次調査に当たり、奥の谷川左岸約1,150m²が調査対象であった。5月10日付けで大聖寺土木事務所から県立埋文センターに調査依頼があり、7月1日から現地調査に着手した。しかし、調査開始後になり、遺跡の範囲が下流側（北側）に広がることが確認された。また、遺構面も一部複数面あることが確認された。さらに、当初の対象範囲の内350m²相当（3区）を精査したところ、遺構・遺物がほとんど確認されなかったため遺跡の範囲からは除外することとした。協議の結果、平成6年度は下流側に延びた約350m²（4区）、及び当初調査範囲のうち約800m²（1、2区）の第1面、

第2面及び第3面の一部の調査を終了させ、第3面の残り以下の調査は次年度以降に実施することになった。

4区では10～12世紀代の製塩土器細片が大量に出土している。溝、土坑、ピットなどを検出しているが、炉跡などの煎熬作業に関する遺構は今回の調査範囲からは確認していない。1、2区では、丘陵の小谷部があることを確認し、その谷を中心として第1面（古代～中世）、第2面（古墳時代）、第3面（弥生時代）の3つの遺構面を確認し、最下層に縄文土器を含む層を確認した。しかし、縄文土器を含む層が厚く（2m以上）、縄文時代の遺構面の有無については確認できなかった。

なお、10月30日に主に三木町住民を対象とした現地説明会を行い、50人以上の参加があった。この説明会を含め発掘調査全般において地元三木町から多大な協力を得ている。記して感謝したい。現地調査は11月7日に終了した。

3. 平成7（1995）年度 第3次調査

平成7年度は第3次調査に当たる。4月27日付けで大聖寺土木事務所から県立埋文センターに1、2区約400㎡の調査依頼があった。現地調査は7月31日に着手し、前年度調査で未了であった弥生時代以前の遺構面（第3面）の調査を実施した。この遺構面の下部は水面下の高さであり、増水時には水没するおそれがあることから、関係機関との協議により、現地調査は鋼矢板で調査区を締め切った上で、夏の渇水期に実施した。

調査では、溝、土坑、柱穴等の遺構を検出し、縄文土器、弥生土器等が出土している。遺構面は丘陵斜面に沿うように傾斜し、溝は斜面に沿ったものと直交するものが存在する。柱根の遺存するものも含め複数の柱穴を確認している。下層部分からは縄文土器や石器などが出土しているが、明確な遺構面は存在せず、丘陵上からの流れ込みの遺物であると考えられる。

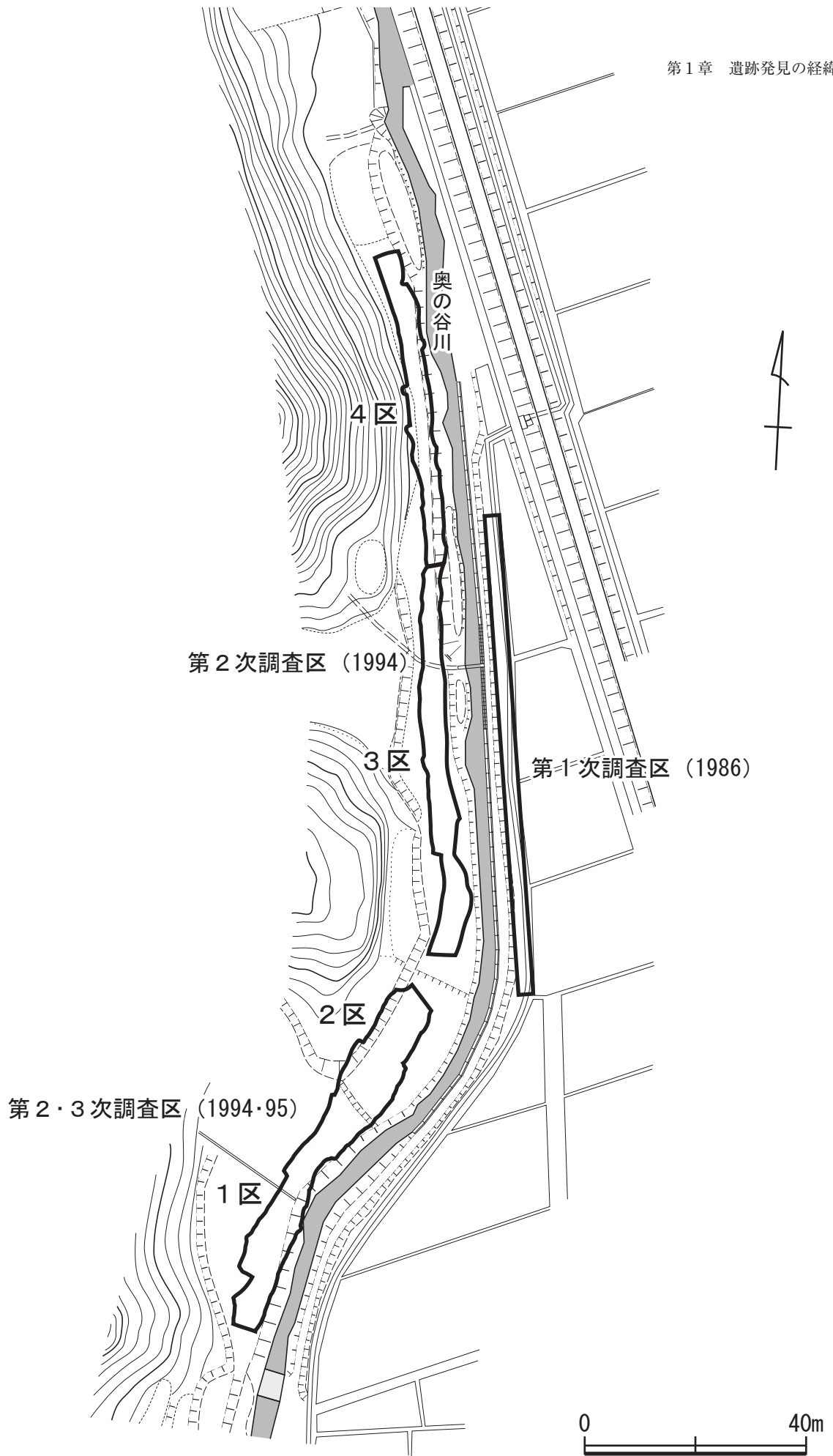
現地調査は9月13日に終了した。



SK2009 調査の様子



現地説明会の様子



第1図 調査区位置図



第2図 三木A遺跡周辺航空写真（昭和22年米軍撮影）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本書で報告する三木A遺跡は、加賀市三木町地内に所在する。

加賀市は、石川県の南西端に位置する南加賀地域の中核都市である。西側は日本海に面しており、北側は小松市、南側は福井県あわら市、坂井市、勝山市と接する県境に立地する自治体である。市域の面積は306km²、人口は74,551人である（平成21年3月1日現在）。平成17年10月に旧来からの加賀市と南東に隣接する江沼郡山中町と新設合併し市域を拡大した。

市域南東部は丘陵地帯であり、市内最高峰である大日山（標高1,368m）が市域南東端に位置する。ここを水源として、動橋川は市域東部を流れ柴山潟へ注ぎ、大聖寺川は市域西部を北流し、平野部で西へ向きを変え日本海へ注ぐ。この両河川の下流域である市域北西部は、平坦な江沼盆地と柴山潟を含む低地が形成されている。また、河口に潟湖が形成された地形は、日本海沿岸に広く見いだされるが、加賀市周辺でも、北東側に加賀三湖の一つである柴山潟があり、本遺跡の西方約3kmには北潟湖（福井県）がある。また加賀市域は県内屈指の温泉地であり、片山津温泉、山代温泉、山中温泉といった全国的にも著名な温泉地がある。

三木町は、大聖寺川とその支流奥の谷川合流部に位置する集落である。奥の谷川は、奥谷町地内の福井県との県境山間部を水源とし、橋町を経て三木町地内北西部で大聖寺川と合流する延長約4km、流域面積5.4km²の小河川である。周辺は奥の谷川が形成した細長い狭小な小平野となっている。

なお三木町は、近世には右村と称し、寛永16年（1639）以降は加賀藩の支藩である大聖寺藩領であった。明治4年（1871）7月廃藩置県により大聖寺県が成立。同年11月に金沢県に編入され、翌5年には石川県と改称され、右村は石川県江沼郡管下となる。明治22年（1889）町村制施行により、江沼郡内の右・橋・奥谷・永井・熊坂の5ヵ村が合併し三木村が成立。昭和33年（1958）には大聖寺町、山代町、片山津町、橋立町、動橋町、三木村、三谷村、南郷村、塩屋村の5町4村が合併して加賀市が成立した。旧三木村のうち大字右は三木町と改称され、残余の大字は同市の町名に継承されている。

さて当地域は、古代以来交通の要衝である。古代の北陸道経路については不明な点が多いが、『延喜式』記載の朝倉駅は、大聖寺川河口付近にあったと推定され、三木町南東の橋町付近とも推定されており（『大日本地名辞書』）、三木町周辺を通過していた可能性が指摘できる。中世には加越国境を通過する経路は2ルートあり、1つは越前吉崎から現在の橋町、三木町地内を通過していたことが知られる。戦国時代初頭の文明18年（1486）聖護院道興が橋宿に逗留し、「旅立つもさつきの後の身也けり我に宿かせ橋のさと」と和歌を詠んでいる（『廻国雑記』）。また延徳3年（1491）には、室町幕府の管領であった細川政元の一行が、越後下向の途次に橋を通過し、「右」、「三ツ村」を経て荻生へ向かったとの記録が残る（『為広卿越後下向日記』）。これらの史料から、遅くとも室町時代中期には現在の橋町・三木町地内を経路とする北陸道が成立していたことがわかる。近世には、越前国細呂木から加賀国に入り、現在の橋町、三木町地内を経て笠取山の麓をたどって大聖寺に至る経路であった。



第3図 三木A遺跡の位置

また三木町の北側を西流する大聖寺川は古くから水上交通路として利用されており、大聖寺川と奥の谷川との合流地点付近には「フナツキバ」という小字名も遺存している。

現代でも、集落北側の大聖寺川沿いには国道305号線（吉崎道）、集落南東側には北陸自動車道加賀インターチェンジが設置されており、また東隣の熊坂町地内を国道8号線（北陸道）、J R北陸本線が通過し、今もなお交通の大動脈である。

第2節 歴史的環境

縄文時代 加賀市域での縄文時代の遺跡は、本遺跡北東約10kmに位置する早期の押型文土器片が出土した伊切新保遺跡などが知られる。中期では上山田式や大杉谷式土器の良好な一括資料が出土している藤ノ木遺跡が東北約4kmにある。後・晩期では、東約10kmに県内屈指の大集落遺跡である横北遺跡が知られ、異形注口土器など特殊な資料が多く出土している。

本遺跡では早期から晩期までの土器が出土しているが、本遺跡周辺に目を向けると、西方約2.8km、大聖寺川河口の鹿島森遺跡（06003）では、中期～後期の土器が採取されている。南西約2kmの永井遺跡（06004）からは石斧が単独出土している。また三木だいまん遺跡（06016）では、石鏃・磨製石斧と、後期～晩期にかけての独鈷石が出土している。

弥生時代 本遺跡の北東約13kmの柴山出村遺跡が中期初頭の標式遺跡として知られ、後期では、北東約8.5kmの八日市川の自然堤防上に営まれた猫橋遺跡が著名である。多量の木製品が出土しており、猫橋式土器の標式遺跡である。炭化米の出土や立地条件から付近に水田遺構が存在することが推定されている。これらはいずれも市域北東の低地部の遺跡である。

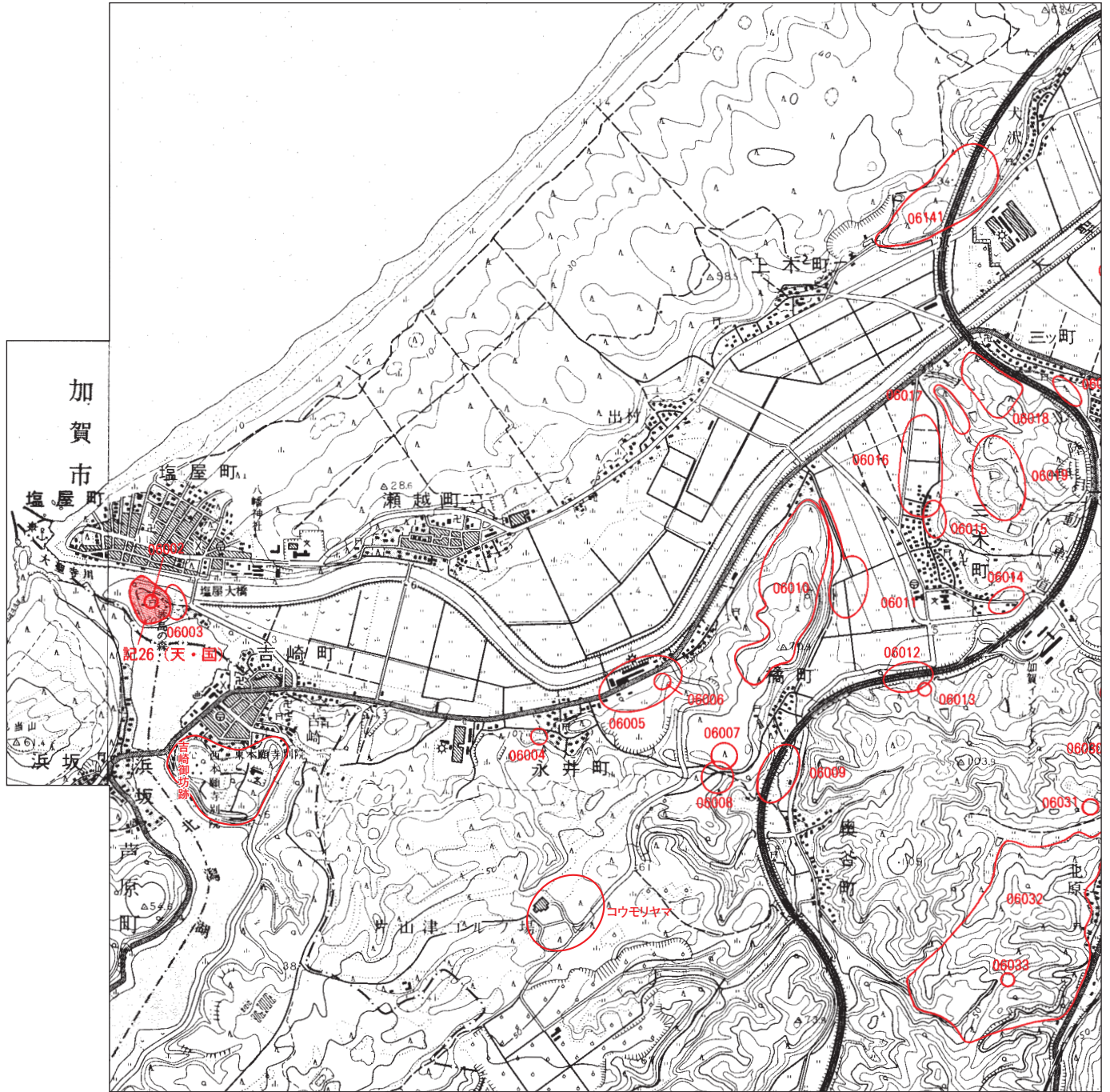
本遺跡では、弥生時代前期～終末期の遺物が出土しているが、本遺跡周辺において弥生時代とされる遺跡は比較的少なく、鹿島森遺跡で発見された土器の事例、また三木だいまん遺跡出土の中期～終末期の土器が知られる。

古墳時代 江沼盆地には複数の古墳群が確認されるが、大聖寺川水系では、南郷・黒瀬古墳群、山代古墳群、三谷古墳群、三木・三ツ古墳群が認められる。三木・三ツ地域の古墳は、大聖寺川支流である奥の谷川等により形成された狭域の沖積地を基盤とした諸集団墓域と推定され、小規模な古墳群が点在して分布している。三木集落東側の笠取山北西の尾根筋には三木古墳群（06017）があり、円墳3基、方墳1基確認されている。三木1号墳（上皇古墳）からは須恵器や金環が出土しており、古墳時代後期と推定されている。笠取山東方の尾根筋には三ツ町A古墳群（円墳3基）のほか、詳細は未確認であるが円墳・方墳が3～4基程度あると推定される三ツ町B古墳群（06020）がある。また当遺跡南東約400mには、円墳と推定される石城の尾古墳（06013）が確認される。

集落遺跡では、三木B遺跡（06012）で隅円方形竪穴建物が確認されており、5世紀前半に比定されている。また三木E遺跡（06015）では古墳時代の遺物の散布が確認できる。

奈良・平安時代 加賀市域は古代寺院の集中分布する地域として知られており、白鳳寺院では津波倉廃寺跡、保賀廃寺跡、弓波廃寺跡、宮地廃寺跡が知られ、奈良・平安時代では、高尾廃寺跡が知られるが、本遺跡周辺では未確認である。ところで加賀国は、平安時代前期の弘仁14年（823）2月に、越前国から加賀郡・江沼郡を分割・立国した地域である。これは律令体制下では最も新しい国で、同年6月には加賀郡の南半分を石川郡、江沼郡の北半分を能美郡としている。本遺跡は加賀国江沼郡に属し、『和名類聚抄』記載の「長江郷」（遺称地は永井町）に含まれると推定されている。

本遺跡周辺の古代遺跡としては、東約500mの三木C遺跡（06014）、南600mの橋遺跡（06009）、



第4図 三木A遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

遺跡番号	名称	種別	時代	遺跡番号	名称	種別	時代
06003	鹿島森遺跡	散布地	縄文～古墳	06014	三木C遺跡	散布地	奈良・平安
06004	永井遺跡	散布地	縄文	06015	三木E遺跡	散布地	古墳
06005	永井新遺跡	散布地	奈良・平安	06016	三木だいもん遺跡	散布地	縄文・弥生 平安～南北朝
06006	永井イスズ焼窯跡	窯跡	安土桃山	06017	三木古墳群	古墳	古墳
06007	銭亀家跡	屋敷跡	室町～江戸	06018	三ツ堡跡	堡跡	不詳
06008	橋の関跡	関跡	江戸	06019	勝林院跡	寺院跡	中世
06009	橋遺跡	散布地	奈良・平安	06020	三ツ町B古墳群	古墳	古墳
06010	小森堡跡	城跡	不詳	06031	庄司谷窯跡	窯跡	近代
06011	三木A遺跡	集落跡	縄文～江戸	06032	熊坂北原城跡	城跡	不詳
06012	三木B遺跡	集落跡	古墳前期	06033	熊坂西子谷首塚	塚	不詳
06013	石城の尾古墳	古墳	古墳				

南東約700mの永井新遺跡(06005)で奈良・平安時代の土師器・須恵器の散布を確認している。

鎌倉～戦国時代 本遺跡の北東約400mには三木だいもん遺跡がある。発掘調査では、掘立柱建物跡90棟、柵42列、溝51条、井戸4基が検出され、その最盛期は12世紀後半から13世紀後半で、大溝で南北に区画された館跡が確認されている。出土遺物は、中国製の白磁、青磁の碗皿類、常滑焼の甕、加賀焼・越前焼・珠洲焼の壺・甕や播り鉢、漆椀、曲物、下駄、銅銭、鉄鍋など日常生活用具の他、礫石経のような信仰に関わる遺物も出土している。これら調査成果から寄進地系荘園の一つ「右荘」を直接管理経営した在地領主の居館と推定されている。

勝林院跡(06019)は、笠取山西麓にあり、「カンノドウ」「テラタニ」「ビシャモンドウ」「アマイケ」等の小字名が伝承されている。もと真言宗であったが、後に浄土真宗に改宗され、現在三木町集落に勝林寺として遺存する。

また本遺跡の西方約2.4kmには、三方を北潟湖に囲まれた要害の地に吉崎御坊跡(国史跡：福井県あわら市)がある。文明3～7年(1471～1475)に蓮如が滞在し、浄土真宗北陸布教の拠点であった場所である。蓮如の吉崎退去後は和田本覚寺が留守職を勤めていたが、永正3年(1506)越前朝倉氏により破却されている。加賀・越前地域の中世真宗史を考える上で非常に重要な遺跡である。永井イズズ焼窯跡(06006)は、磁器成立直前期の陶器を焼成した窯跡とも推定されるが、詳細は不明である。

小森堡跡(06010)は、遺跡地図では本遺跡西側丘陵上に位置するが、踏査では遺構は確認されず、南西約1kmの永井町地内通称コウモリヤマで土塁等が確認されている。また三ツ堡跡(06018)では主郭部分で切岸が明瞭に遺存している。熊坂北原城跡(06032)では、尾根に沿うように土塁状高まりと堀状遺構が確認できるが、地元では北原と奥谷町との地境といわれており、城郭遺構であるか検討が必要である。熊坂西子谷首塚(06033)は『加賀江沼古城跡図』に記載される塚と推定されるが、詳細は不明である。

江戸時代以降 慶長5年(1600)前田利長の攻撃により小早川秀秋の老臣山口宗永が拠る大聖寺城は落ち、この一戦を通じて前田家は江沼郡を領域とした。寛永16年(1639)、加賀藩3代藩主前田利常は小松に隠居し、三男利治に大聖寺藩7万石を分封して大聖寺藩が成立し、以後14代明治維新まで存続している。さて銭亀家跡(06007)は近世の橋宿に関連した遺跡である。休息を中心とした茶屋が数軒所在し、その中でも銭亀家は江戸時代には茶屋と共に旅籠も営み、宿場役人を勤めていたという。現地には屋敷地であったと推定される平坦面が複数確認できるが、現在では杉林となっている。橋の関跡(06008)は、吉崎・熊坂・風谷と共に大聖寺藩が設置した番所跡である。明治天皇の北陸行幸を翌年に控えた明治10年(1877)に大聖寺町から熊坂を経て牛ノ谷(福井県あわら市)に通じる新道が開通し、同13年には本道となり、旧街道は廃止され、昭和10年代には橋茶屋も姿を消した。

本遺跡の南東約1.3kmに位置する庄司谷窯跡(06031)は、近代の煉瓦を焼成した窯跡で、明治30年(1897)に開通した北陸本線福井・小松間の鉄道工事に伴う遺跡と推定されている。

参考文献

- 「加賀市三木町・橋町調査報告」(『郷土』7)大聖寺高等学校郷土研究部 1969
『加賀市史通史上巻』加賀市 1978
田嶋明人・湯尻修平・梶幸夫「江沼古墳群分布調査報告」(『石川考古学研究会々誌』21)石川考古学研究会 1978
『三木だいもん遺跡』加賀市教育委員会 1987
『熊坂庄司谷窯跡』加賀市教育委員会 1993
『歴史の道調査報告書1 北陸道』石川県教育委員会 1994
『石川県中世城館跡調査報告書Ⅲ(加賀Ⅱ)』石川県教育委員会 2006

第3章 遺 構

調査の概要 第2次及び第3次調査では国土座標（日本測地系）に基づく4mグリッドを組み、諸作業にあたった。グリッドは北西隅を起点として、西から東方向へアルファベットを、北から南方向へアラビア数字を4m間隔で振りわけて設定した。遺構の掘削、遺物の取り上げに際してはこのグリッドの北西隅の杭を基に「F-41区」「G-4区」などと呼称した。調査区北端G-2杭が $X = + 32.854$ 、 $Y = - 79.336$ 、南端B-50杭が $X = + 32.662$ 、 $Y = - 79.356$ である。なお、第2次調査着手時には調査区を大きく4つに分け南から1区、2区、3区と呼称した。前述のとおり着手後さらに北へ遺跡の広がりが確認されたことから新たに4区とし調査した。

第2次調査1・2区では、調査当初より複数の堆積層が見られ（第6図）、トレンチ等により3面以上の面が確認された。それぞれ弥生時代（4層上面）、古墳時代（3層上面）、古代（2層上面）の生活面であると認識し層位発掘を試みた。ただし、出土遺物を精査した結果、この層位の時期差が平面の広がりを持っているとまでは言い切れない様である。当初トレンチで確認した地点（土層断面1-2）周辺での遺物の出土状況からは概ね層位で時期差がうかがえるが、別地点では様相が違っていた。

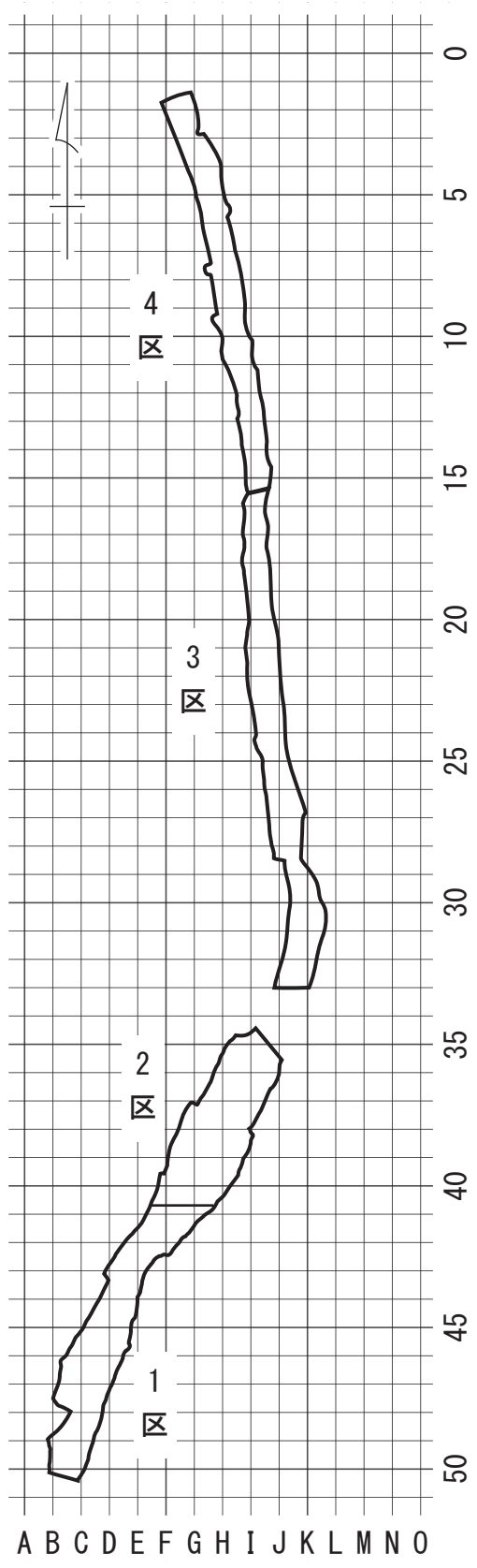
丘陵裾にある本遺跡では、それぞれの面は丘陵の傾斜に沿って傾いており、生活面として適しているとは言えない。SD2022のように大量の土器を伴う遺構もあり、ある時期には面として存在していたようだが前述のようにそれが広がってはいない。多種多様な出土遺物が物語る様に、堆積土中の遺物については丘陵上部からの流れ込みを考えるのが妥当であり、堆積層に時期差はあるものの覆土中の遺物が必ずしもその層の時期を示してはいないようである。

この他、第2次調査4区の遺構は溝、ピットともに不定形なものが多く、岩盤のひびに入り込んだ木根等の痕跡を検出した可能性もある。遺構覆土に木根が入り込んだことも想定できるが、現地ではその区別ができなかった。

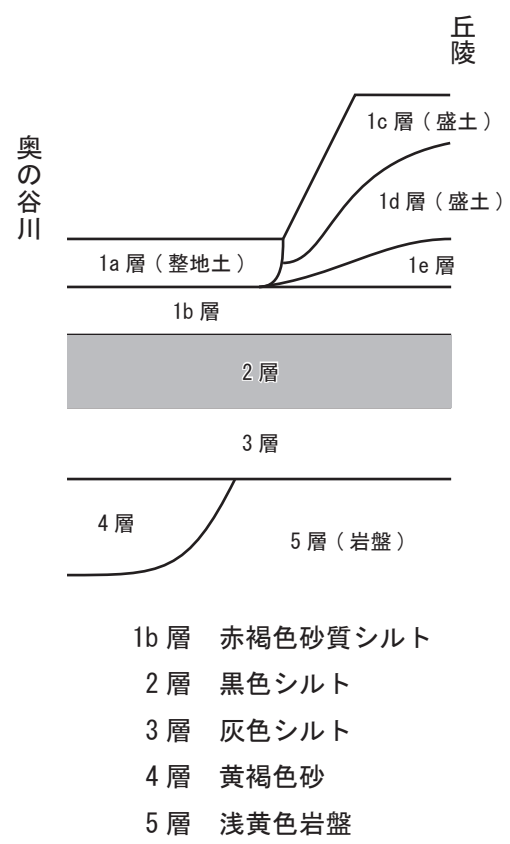
遺構 第2次調査4区では、不定形な土坑状の遺構（SX2401、SX2402）やその周辺から製塩土器細片が大量に出土している。また、第1次調査でも製塩土器が出土しているが、いずれの調査でも焼土等の製塩炉の明確な痕跡は確認されていない。特に、SX2401やSX2402の製塩土器の出土状況は覆土の一部としてほぼ均質に堆積しているように見え、製塩土器片を含んだ土が2次堆積したものと考えられる。

SK2009（第16図）は底付近に5～20cm大の礫が敷き詰められた直径1m、深さ30cm程度の土坑である。第2次調査2区の砂質の地山面で検出したため3面目（4層上面）の遺構として記録したが土師質土器細片が少量出土するのみで時期の特定には至っていない。礫は被熱しており、礫とともに黒色炭化物層が検出されている。付近の溝（SD2035）から製塩土器が出土しており、それに伴う可能性がある^(註)。

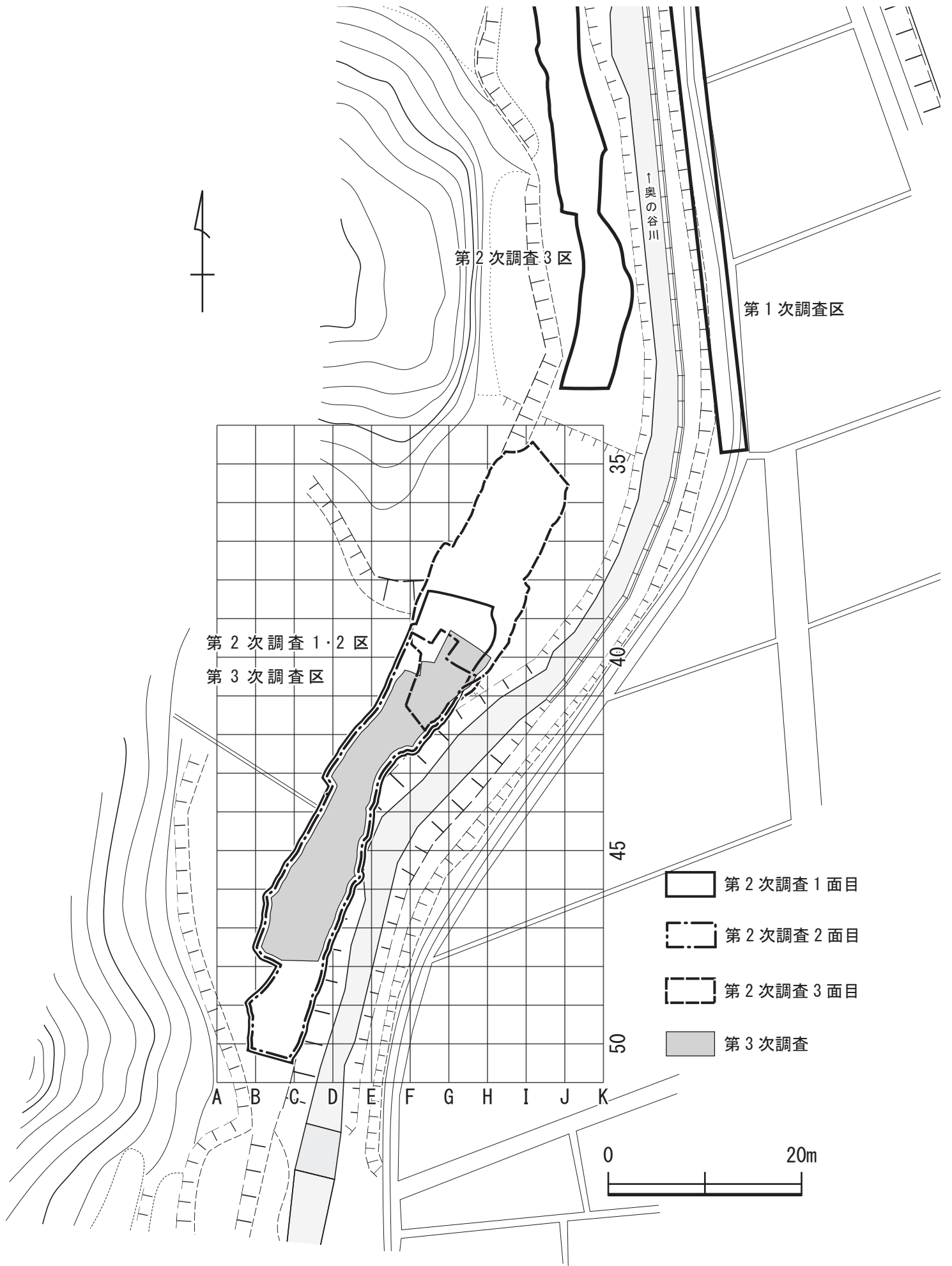
註 遺跡は、現在の海岸線から最短距離でも2km、大聖寺川河口から3km以上離れているが、標高は3m前後、現在の奥の谷川河床は海拔以下である。また、夏の渇水期のためか奥の谷川の水位が下がり、川が逆流するのを調査中何度か目にした。明確な製塩炉の痕跡は確認しておらず、周辺の地形から奥の谷川はある時期に丘陵裾に移設されたものと考えるのが妥当であり、当時、遺跡周辺に河川があったかは不明であるが、周辺まで（製塩できる濃度の）海水が入り込んでいたと想像するに難くない。であれば、三木周辺は、現在、陸の交通の要地であるが、かつては水の交通の要地であったといえるであろう。



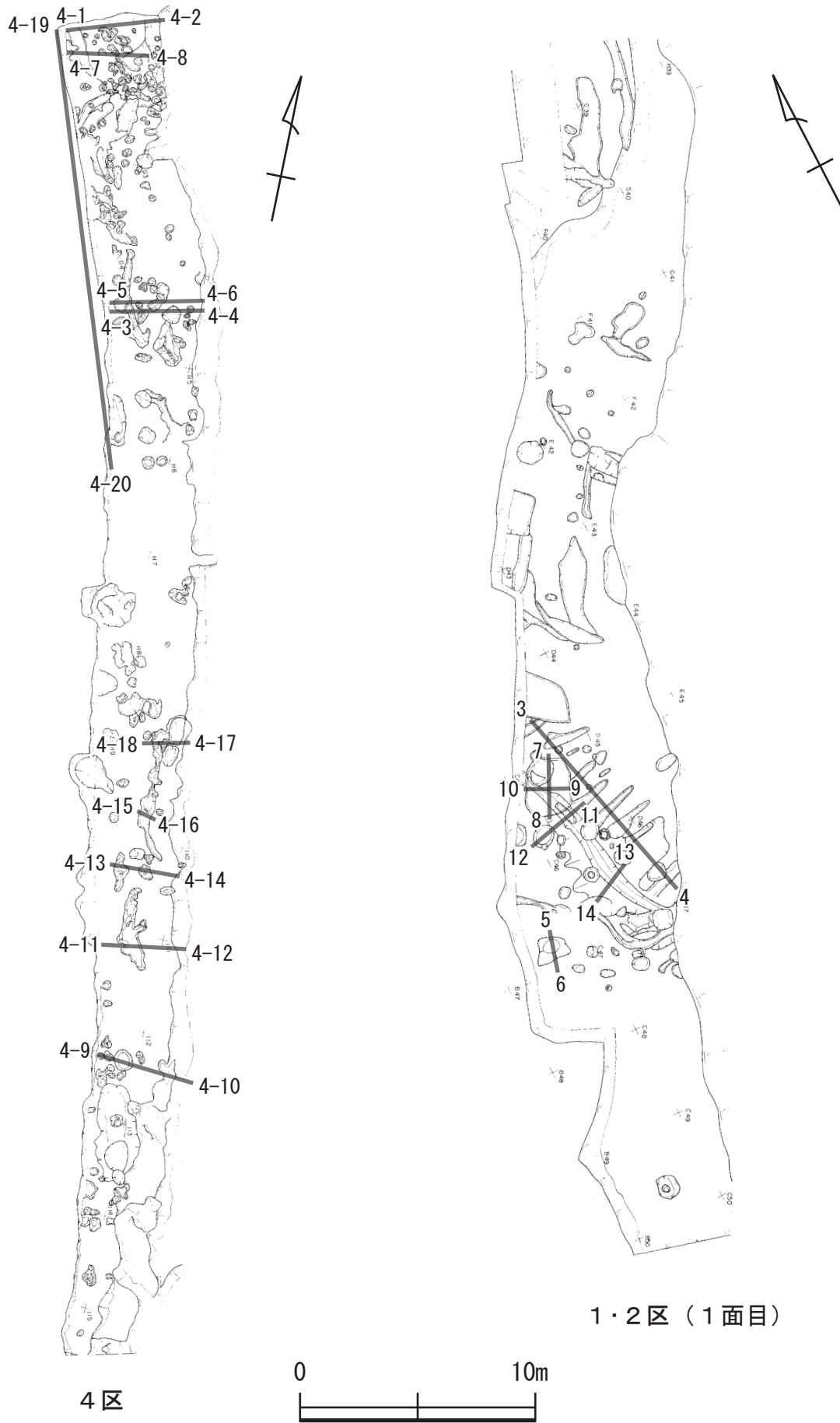
第5図 第2・3次調査グリッド配置図 (S = 1/1,000)



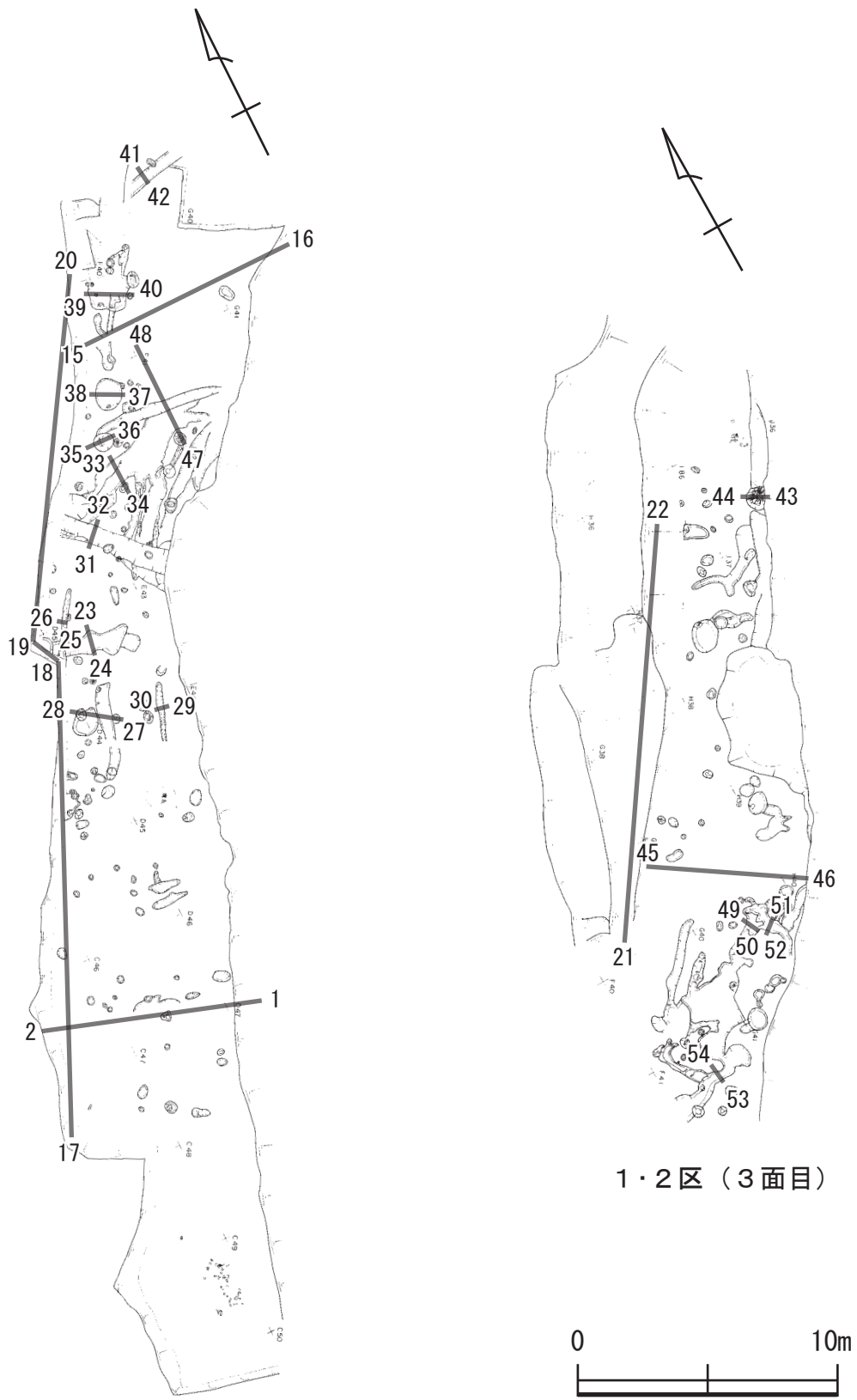
第6図 基本層序



第7図 第2・3次調査遺構面範囲図 (S = 1/500)

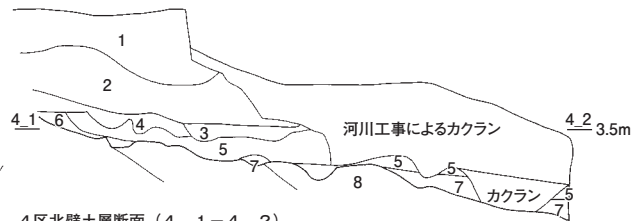


第8図 第2次調査遺構配置・実測断面位置図1 (S = 1/250)



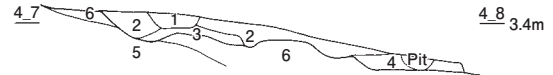
1・2区 (2面目)

第9図 第2次調査遺構配置・実測断面位置図2 (S = 1/250)



4区北壁土層断面 (4_1-4_2)

1. 褐色砂 7.5YR4/4 (ややしまりなし。砂の間に腐植土が入る。)
2. 暗褐色砂 7.5YR3/4 (しまりあり。)
3. 灰褐色砂 7.5YR4/2 (固くしまる。土器が集中して入る。SX2401。)
4. 褐色砂 7.5YR4/4 (固くしまる。土器が集中して入る。SX2402 上位。)
5. 濁灰黄褐色砂 10YR4/2 (固くしまる。部分的に土器が集中して入る。SX2402 下位。)
6. 黄褐色砂 2.5Y5/3 (岩盤との漸移層か。土師器細片少量含む。)
7. におい黄褐色砂 10YR5/3 (土師器細片少量含む。SX2403 につながる。)
8. 黄橙色砂 7.5YR7/8 (岩盤上にたまる砂層。)



SX2401、SX2402 (4_7-4_8)

1. 黒褐色砂 10YR3/1 (土器細片含む。須恵器片出土。P2408。)
2. 黒褐色砂 10YR3/2 (1層よりやや褐色がかかる。土器細片多く含む。SX2401 及び SX2402。)
3. 濁灰黄褐色砂 10YR4/2 (地山のシミの様だが、ごく少量の土器を含む。)
4. 濁オリブ灰色砂 2.5GY5/1 (浅黄色岩が少し混ざる。)
5. 濁黄橙色岩 10YR7/8 (地山、岩盤。)
6. におい黄橙色砂 10YR6/4 (地山、砂。)



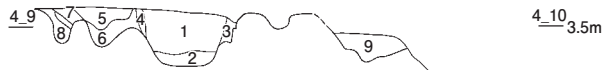
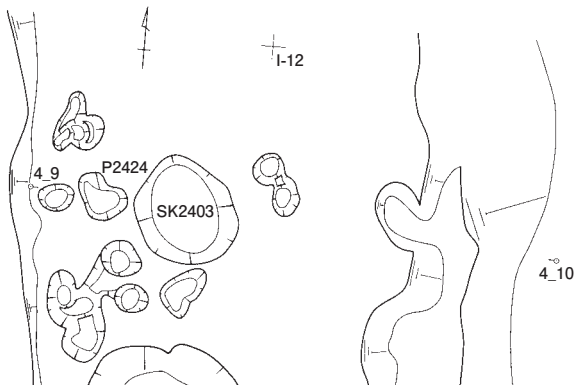
4区 (G-4区) 土層断面 (4_5-4_6)

1. 濁暗褐色砂 7.5YR3/3 (淡黄色地山ブロック含む。土器多く含む。)
2. 濁黄褐色砂 2.5Y5/3 (5~10cm 大の淡黄色地山ブロックの間に黒褐色砂が入り込む。風化した岩盤層上面。)
3. 濁におい黄色砂 2.5Y6/3 (淡黄色地山ブロックを多く含む。岩盤上に乗った砂層。地山。)
4. 濁黄灰色砂 2.5Y4/1 (地山ブロック混。)
5. 濁灰黄褐色砂 10YR5/2 (地山ブロック混。)
6. 濁黒色砂 10YR2/1 (地山ブロック混。炭化物が入る。)
7. 濁灰黄色砂 2.5Y6/2 (地山ブロック混。)
8. 濁暗灰黄色砂 2.5Y4/2



4区 (G-4区) 土層断面 (4_3-4_4)

1. 濁灰色砂 5Y5/1
2. 濁灰黄色砂 2.5Y6/2 (鉄分沈着。)
3. 濁褐色砂 10YR4/1 (灰黄褐色砂と褐色砂がブロック状に混。)
4. 濁灰オリブ砂 5Y5/2 (固くしまる。)
5. 濁褐色砂 7.5YR4/4 (淡黄色地山ブロック含む。ややシルトに近い。)
6. 濁暗褐色砂 7.5YR3/3 (淡黄色地山ブロック含む。土器多く含む。)
7. 濁黄褐色砂 2.5Y5/3 (5~10cm 大の淡黄色地山ブロックの間に黒褐色砂が入り込む。風化した岩盤層上面。)
8. 濁におい黄色砂 2.5Y6/3 (淡黄色地山ブロックを多く含む。岩盤上に乗った砂層。地山。)

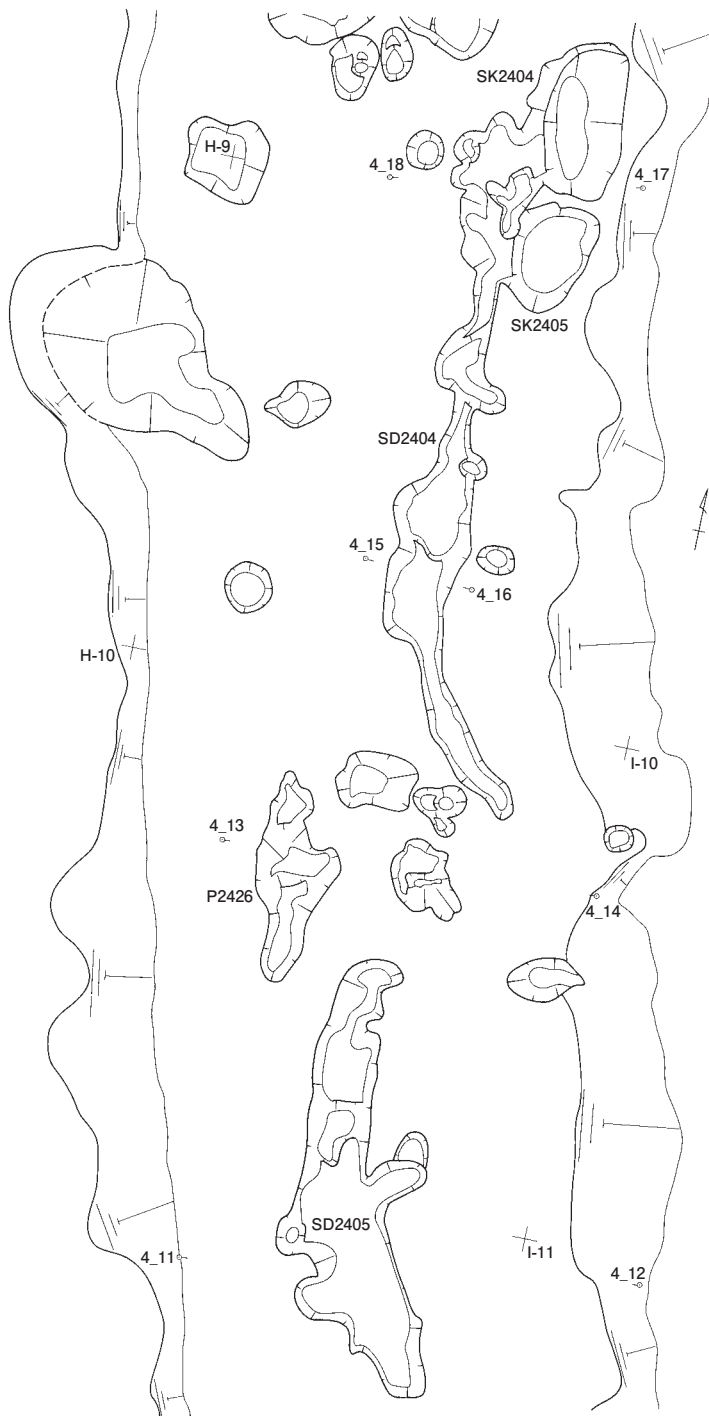


SK2403 (4_9-4_10)

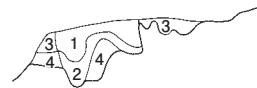
1. 暗褐色砂 7.5YR3/3
2. 黒褐色シルト質砂 7.5YR3/1
3. 褐色砂 10YR4/1 ~ 3/1 (炭化物、土師粒含む。)
4. 黄褐色岩盤風化土 2.5Y5/3 ~ 6/3
5. 灰黄褐色砂 10YR4/2 (炭粒、土師粒含む。)
6. 灰黄褐色砂 10YR4/2 (5層より岩盤粒多く含む。炭粒、土師粒含む。)
7. 灰黄色砂 2.5Y6/2
8. におい黄色シルト 2.5Y6/3 (岩盤粒多数混入。根によるカクランか。)
9. 暗灰色砂 (土師片含む。)



第10図 第2次調査 4区遺構図1 (S=1/60)



4_17 4_18 3.6m



SK2404 (4_17-4_18)

1. 黒褐色砂 (土師片多い。)
2. 暗褐色砂 (褐灰色砂が多量に入った1層。土師粒、炭粒わずかに含む。)
3. 暗褐色砂 (根によるカクランカ。)
4. 暗褐灰色砂 (土師片極わずかに含む。)

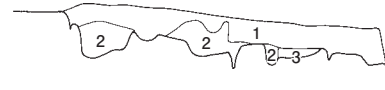
4_15 4_16 3.8m



SD2404 (4_15-4_16)

1. 黒褐色砂

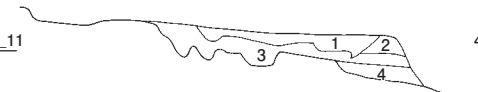
4_13 4_14 3.8m



4区 (H-10区) 土層断面 (4_13-4_14)

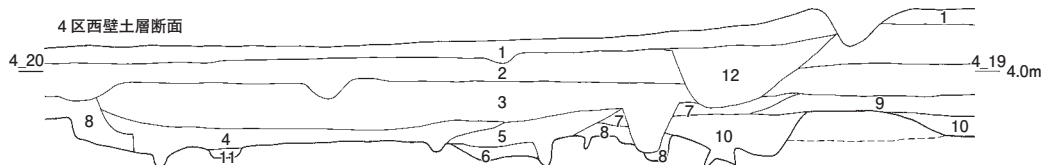
1. 黒褐色砂 (土師片多い。)
2. 岩盤風化土 (灰色シルト質砂混入。土師粒、炭粒含む。)
3. やや淡い1層 (1層と岩盤上面砂の漸移層。土師片多く含む。)

4_11 4_12 3.3m



SD2405 (4_11-4_12)

1. 褐灰色砂 10YR4/1 (土器多く含む。)
 2. 灰黄褐色砂 10YR4/2 (1層より少ないが土器多く含む。)
 3. にぶい黄褐色砂 10YR4/3 (土器少し含む。)
 4. 濁黄褐色砂 2.5Y5/4 (浅黄色地山ブロックが入る。土器はほんの少し入る。)
- 地山: 淡黄色 (軟質) 岩 2.5Y8/4

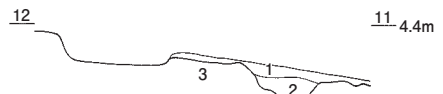
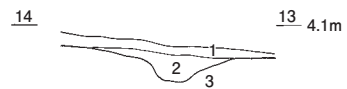
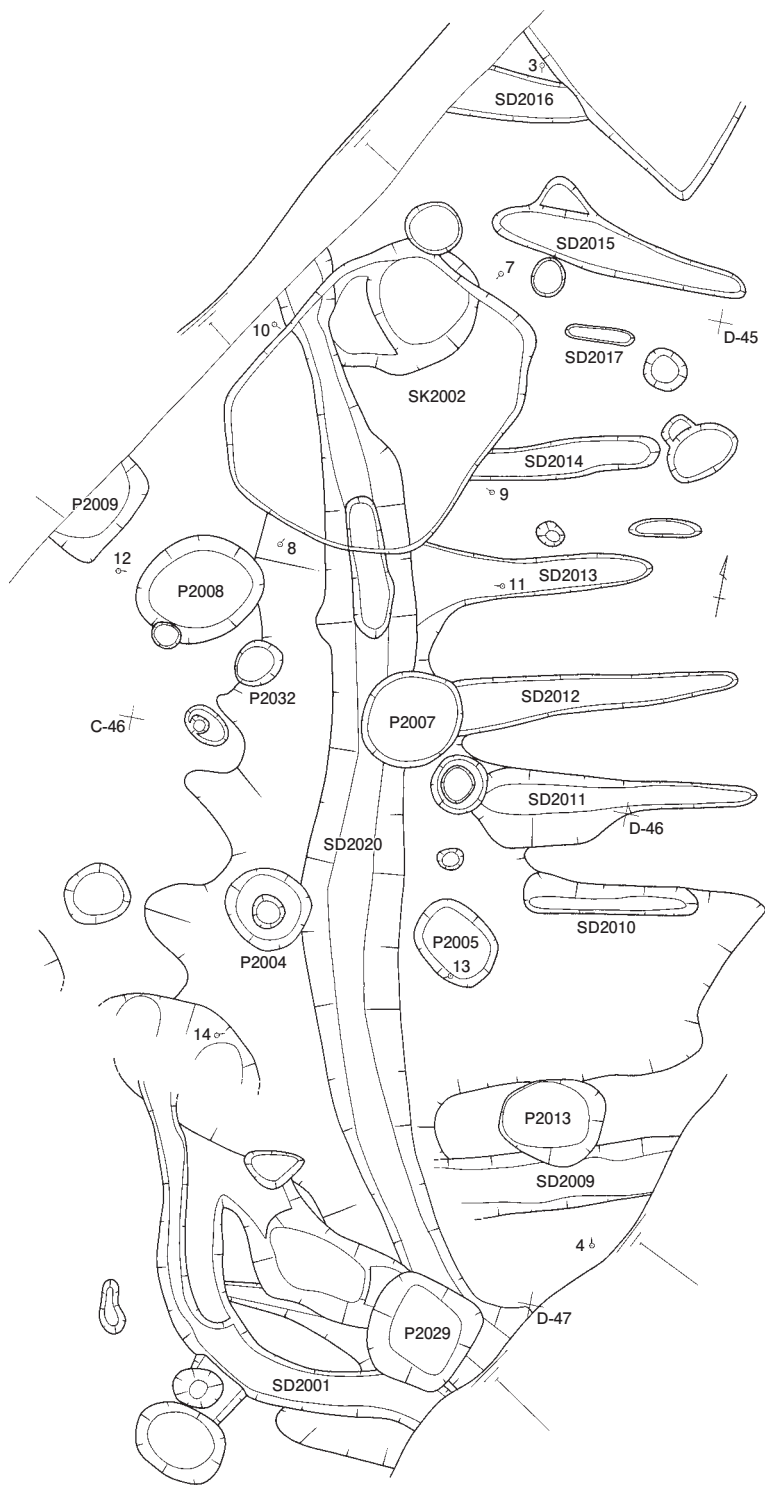


4区西壁土層断面 (4_20より4_19方向へ10.6mから18mの範囲を图示)

1. 暗褐色シルト質砂 10YR3/3 (表土。根多い。)
2. 褐色シルト質砂 10YR4/4 (炭化物片少量含む。)
3. 褐色シルト質砂 10YR4/4 (2層とほぼ同じだが、炭化物、土器片多く含む、しまり良い。シルト質強い。)
4. 褐色砂 10YR4/4 (3層よりやや淡い色を呈する。土器量もやや多い。)
5. にぶい黄褐色シルト質砂 10YR4/3 (3層よりやや暗い。4層より土器量多い。)
6. 4、5層と地山岩盤小ブロックの混合土 (炭化物、土器細片少量含む。)
7. やや淡い5層 (土器量も5層より少ない。)
8. にぶい黄色シルト質砂 2.5Y6/4 (地山と7層の混合土。6層に比べてよく混じり合っている。)
9. 岩盤ブロック多量混入した10層 (10層よりやや暗い。土師片含む。整地土層。)
10. 褐色砂 10YR4/6 (地山、ただし上面は漸移層で土師細片、炭化物を含む。)
11. 灰黄褐色シルト質砂 10YR4/2 (炭化物含む。)
12. 褐灰色シルト質砂 10YR6/1 (しまり極めて良い。)



第11図 第2次調査 4区遺構図2 (S = 1/60)



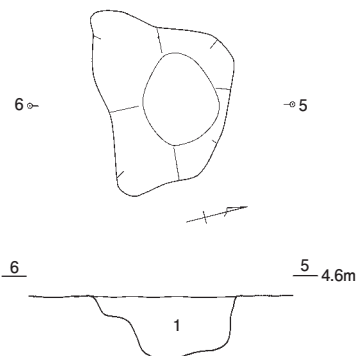
SD2020 (11-12, 13-14)

1. 濁橙色シルト 5YR7/8 (赤褐色の鉄分沈着ブロックと灰色粘質シルトとの混合。畝溝の覆土と同じもの。須恵器等が出土。)
2. 暗赤褐色シルト 2.5YR3/2 (シルト質の土が鉄分の沈着により2-3mmの赤褐色の粒状となる。この層から土器の出土はほとんどなく3層との境に少量出土。)
3. 暗褐色シルト 7.5YR3/3 (粘性を帯びる。基本層序の3層としたものか。)



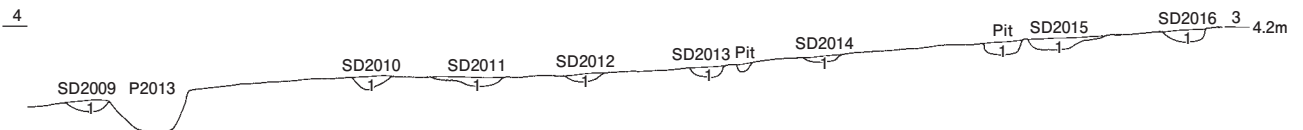
SK2002 (7-8, 9-10)

1. 褐灰色シルト 10YR6/1 (粘性を帯びる。基本層序の1b層。)
2. 濁橙色シルト 5YR6/6 (畝溝か?)



SK2001 (5-6)

1. 濁明黄褐色シルト 10YR6/8 (黄褐色ブロックと灰褐色粘質土が混ざる。加工に使った?石が多量に出土。)
- 地山: 濁黄褐色シルト (基本層序の3層、山側。)、黒褐色シルト (基本層序の2層、川側。)

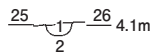
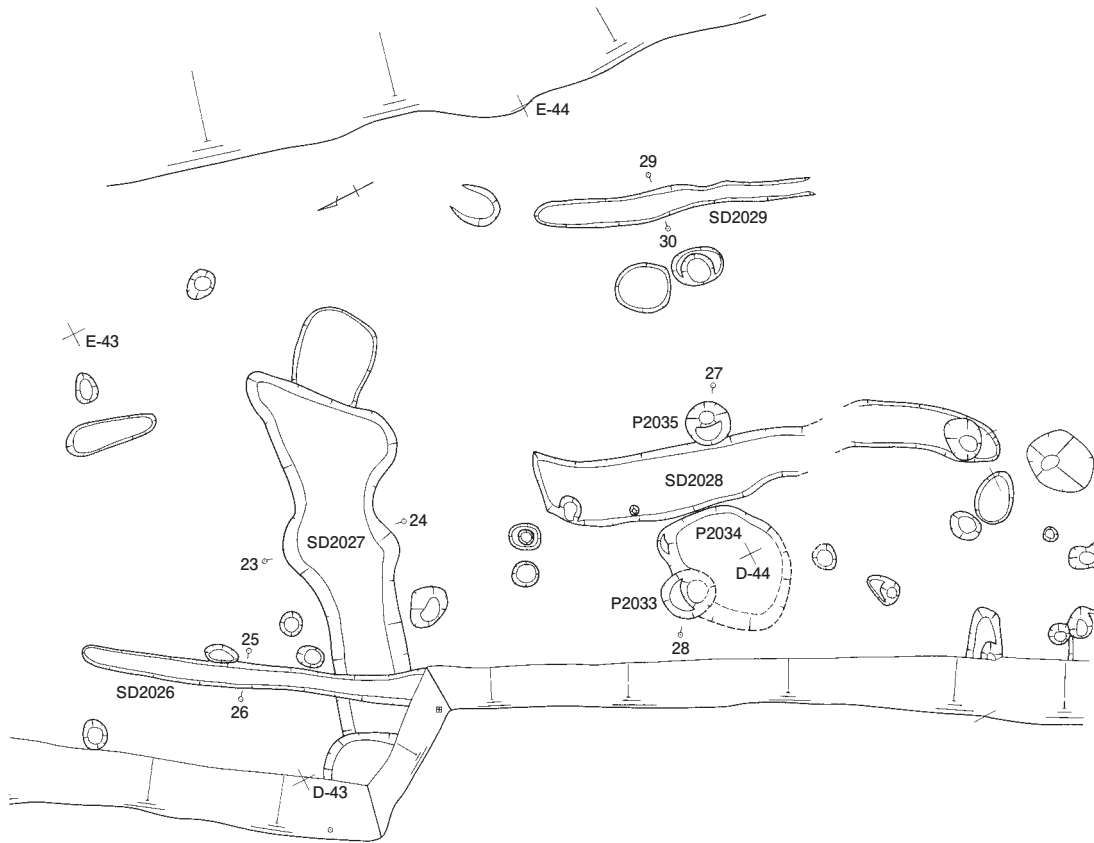


畝溝土層断面 (3-4)

1. 濁橙色シルト 5YR6/6 (褐色シルトと鉄分沈着土が混ざり合い全体に赤色を呈する。)
- 地山: 黒褐色シルト 10YR3/1 (基本層序の2層。)

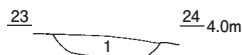


第12図 第2次調査 1・2区遺構図1 (S = 1/60)



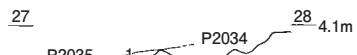
SD2026 (25-26)

1. 濁暗褐色シルト 10YR3/3
(灰黄褐色と暗褐色がブロック状に混。)
2. 濁黄褐色シルト 10YR5/8 ~ 6/8



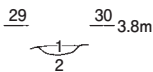
SD2027 (23-24)

1. 濁褐色シルト 10YR4/6
(地山岩盤がブロック状に混。)
2. 濁黄褐色シルト 10YR5/8 ~ 6/8



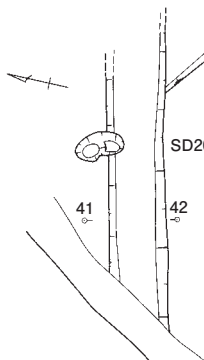
SD2028 (27-28)

1. 濁暗褐色シルト 10YR3/3
2. 濁黄褐色シルト



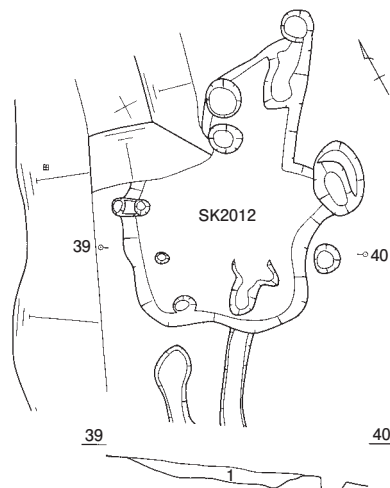
SD2029 (29-30)

1. 濁暗褐色シルト 10YR3/3
2. 濁黄褐色シルト



SD2037 (41-42)

1. 暗灰色シルト
2. 砂 (基本層序の4層。)

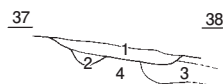
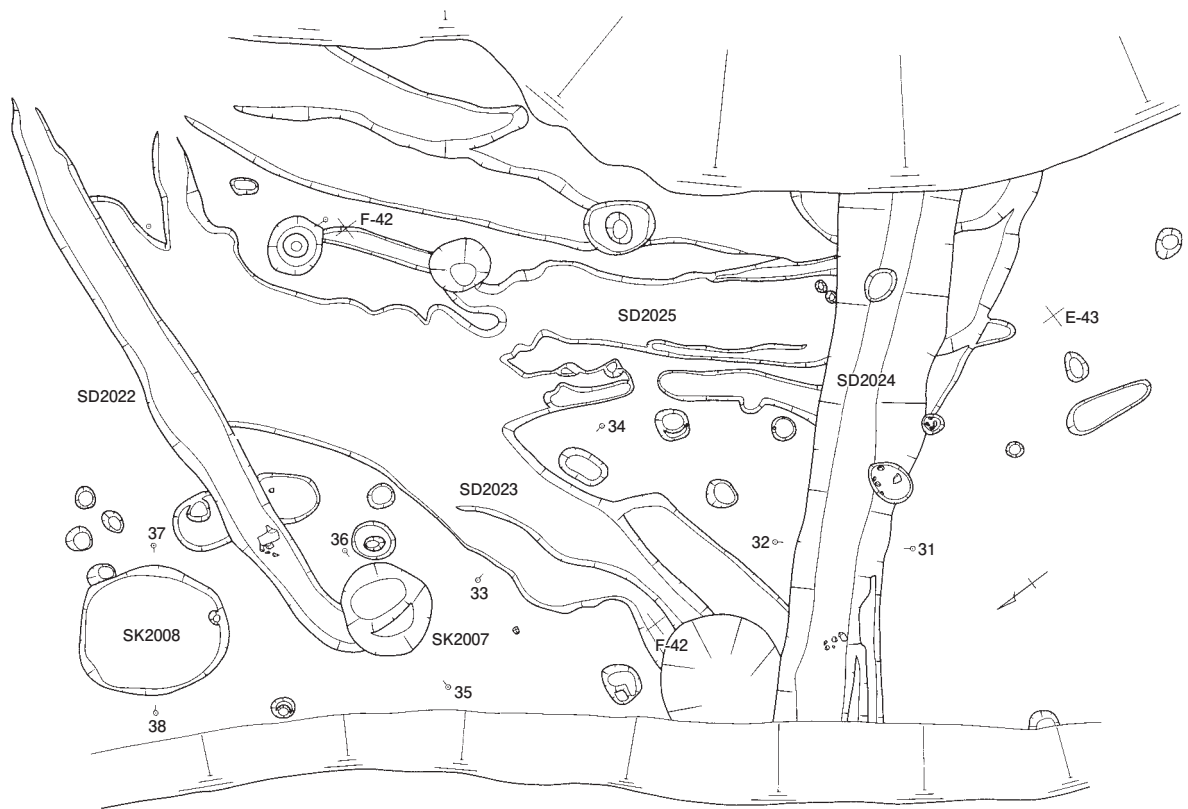


SK2012 (39-40)

1. 濁褐灰色砂質シルト (炭化物含む。)

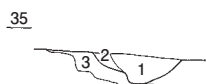


第13図 第2次調査 1・2区遺構図2 (S=1/60)



SK2008 (37-38)

1. 濁褐色砂質シルト (炭化物含む。)
2. 1層と4層の混合
3. 暗灰色シルト
4. 濁黄褐色シルト



SK2007 (35-36)

1. 暗灰色シルト質砂
2. 濁黄褐色シルト
3. 暗灰色シルト (炭化物含む。)
4. オリーブ灰色砂 (基本層序の4層。)



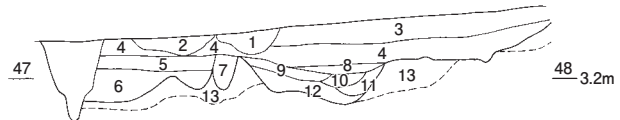
SD2024 (31-32)

1. 濁暗褐色シルト 10YR3/3
2. 濁褐色シルト 10YR4/1 (砂混じり、土器多く含む。)
3. 濁灰黄褐色シルト 10YR5/2 (砂混じり、固くしまる。)
4. 濁灰黄褐色シルト 10YR4/2 (砂3層より多い。)
5. 濁褐色シルト 10YR5/1 (粘質。)
6. 濁にぶい黄褐色シルト 10YR5/3
7. 濁黄褐色シルト 10YR5/8 ~ 6/8



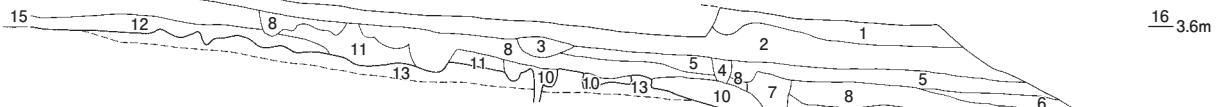
SD2023 (33-34)

1. 灰色シルト質砂 (炭含む。)
2. 濁暗褐色シルト 10YR3/3 (SD2026と同じ。)
3. 濁黄褐色シルト (軟石混じる。)



1区 (F-41区) 土層断面 (47-48)

1. 濁暗灰黄色砂 2.5Y4/2 (SD20**、土器大量に含む。)
2. 濁黒褐色シルト 2.5Y3/1 (SD20**、砂質、土器含む。)
3. 濁オリーブ黒色シルト 5Y3/1 (土器を含む。粘質、固くしまる。)
4. 灰色シルト 5Y4/1 (粘性3層より強い。)
5. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y5/2 (粘性あり。)
6. 濁黄灰色シルト 2.5Y4/1 (粘性あり。)
7. 濁褐色シルト 10YR4/1 (鉄分が沈着し、粒状になる。)
8. 灰黄褐色シルト 10YR5/2
9. 灰色シルト 5Y4/1
10. 暗オリーブ灰色シルト 5GY4/1
11. オリーブ灰色シルト 2.5GY5/1
12. 暗青灰色シルト 5BG4/1
13. 濁明黄褐色シルト 2.5Y7/6 (砂少量混。軟石も混。)

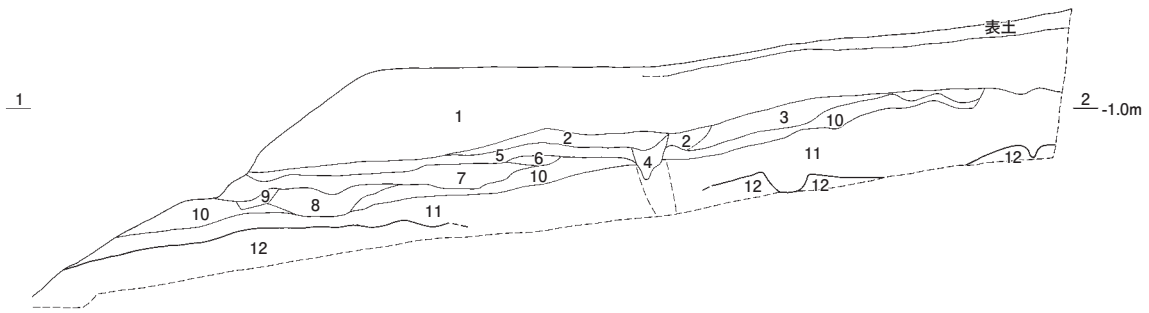


1区2区間土層断面 (15-16)

1. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y4/2 (砂混。鉄分も含む。)
2. 濁黒褐色シルト 10YR3/2 (やや砂混。土師質土器出土。基本層序の2層としたものか。)
3. 濁灰黄褐色砂 10YR4/2 (灰色や黄褐色の砂が薄層をなす。水脈によるカクランか。)
4. 黒褐色シルト 10YR3/2 (粘性強い。炭化物が混。)
5. にぶい黄褐色シルト 10YR4/3 (鉄分沈着。基本層序の3層としたものか。)
6. 濁にぶい橙色シルト 7.5YR6/4 (灰色粘質シルトに黄褐色シルトが混ざる。)
7. 黒褐色シルト 10YR2/1 (粘性やや強い。炭化物を含む。)
8. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y4/2 (鉄分が少し入る。やや砂混。)
9. 黒色シルト 10YR2/1 (炭化物を含む。やや粘性あり。)
10. 灰色シルト 5Y4/1 (粘性強い。部分的にややオリーブがかり、さらに粘性が強い。)
11. 濁黄褐色シルト 2.5Y5/3 (灰色粘質シルトと褐色シルト (鉄分か) が小さなブロック状に入り込む。西壁セクションの4層。)
12. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y5/3 (褐色の軟石を多く含む。)
13. 濁にぶい橙色シルト 7.5YR7/4 (灰色粘質シルトと橙色砂質シルトがブロック状に混。砂も含むが粘性を帯びる。基本層序の4層としたものか。)



第14図 第2次調査 1・2区遺構図3 (S=1/60)

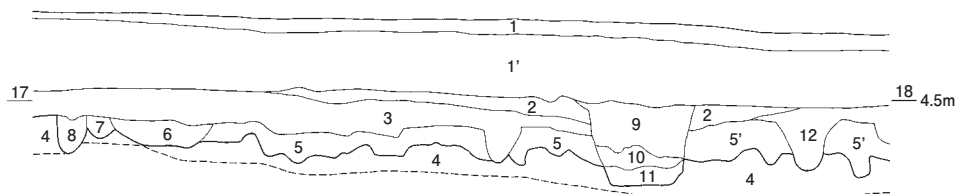


1区土層断面(1-2)

表土。黒褐色シルト

1. にぶい黄褐色シルト 10YR6/4 (粘性弱い。均質な土。盛土か。基本層序の1層。)
2. 濁灰色粘土 10Y6/1 (鉄分が少し沈着する。)
3. 濁灰色粘土 10Y4/1 (2層より暗い。やや固くしまる。鉄分が少し沈着する。)
4. 濁黄褐色シルト 2.5Y5/4 (水によるカクランか? 砂が薄層になって入る。)
5. 濁灰オリブ色シルト 5Y5/2 (粘質の灰色シルトに黄褐色土(鉄分?)が粒状に混ざる。砂の薄層も入る。)
6. 濁灰色シルト 5Y4/1 (3層に近い層。粘性が強い。)

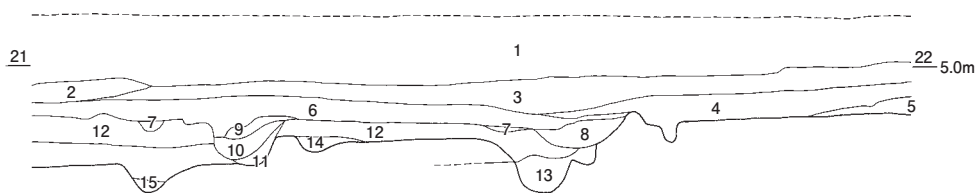
7. 濁にぶい黄褐色シルト 10YR5/3 (10cm大の鉄分の塊が入る。1cm大の鉄分の塊と灰色粘土が混。)
8. 濁にぶい灰褐色粗砂 7.5YR4/2 (3~4mmの鉄分の塊と粗砂の混ざった層。)
9. 灰オリブ色粘土 5Y4/2 (鉄分入る。)
10. オリブ黒色シルト 5Y3/1 (粘性強い。基本層序の2層。)
11. 濁黄褐色シルト 2.5Y4/1 (上の方は粘質で下の方は砂質。鉄分が沈着したり、還元され灰色を呈するところもある。基本層序の3層。)
12. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y5/2 (淡黄色の地山がブロック状に混。黄褐色シルト、灰色粘土、軟石が混ざり合う。基本層序の4層。)



1区西壁土層断面(17-18 (17より18方向へ3.2mから10mの範囲を图示))

1. 濁黒褐色シルト 10YR2/2 (表土。)
- 1'. にぶい黄褐色シルト 10YR6/4 (盛土か。地山ブロック少量混ざる。)
2. 黒色シルト 10YR2/1 (ほんの少し淡黄色地山ブロック(1cm大)を含む。)
3. にぶい黄褐色シルト 10YR4/3 (土師質の土器が少量出土。)
4. 濁暗灰黄色シルト 2.5Y5/2 (やや黄褐色がかる。少量の砂混ざる。下方に軟石を含む。)
5. 黒褐色シルト 10YR3/1 (土師質の土器を大量に含む。)
- 5'. 濁灰色シルト 10YR4/1 (5層よりやや灰色がかる。土器の入り方は5層に近いものがある。)

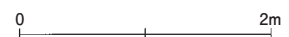
6. 黒褐色シルト 10YR3/1 (土師質の土器が大量に含まれる。炭化物も少量混。)
7. 濁灰黄褐色シルト 10YR4/2 (淡黄色地山ブロックが混ざる。)
8. 濁黒褐色シルト 10YR3/2 (黒褐色シルトに黄褐色シルトがブロック状に入り込む。)
9. 灰黄褐色シルト 10YR5/2
10. 濁にぶい黄色シルト 2.5Y6/3 (灰色粘質シルトに明黄褐色軟石が混。)
11. 濁灰色シルト 10YR5/1 (粘性を帯びる。)
12. 濁にぶい褐色シルト 7.5YR5/3 (5~6cm大の鉄分の塊を含み、全体に鉄分の沈着が見られる。畝溝周辺の鉄分の層。)



2区西壁土層断面(21-22 (21より22方向へ12mから19mの範囲を图示))

1. 黄褐色シルト質砂 7.5YR7/8 (土師細片含む厚い盛土。凝灰岩粒多く含む。)
2. 浅黄色シルト質砂 5Y8/3 (しまり極めてよい。鉄分若干沈着。)
3. 濁浅黄色シルト質砂 7.5Y7/3 (岩盤小片多く含む。岩盤の風化粉砕土の2次堆積か。鉄分沈着し赤褐色に変色。)
4. 灰白色シルト質砂 7.5Y7/2 (岩盤ブロック土含む。)
5. 浅黄色軟質凝灰岩 7.5Y7/3 (風化による粉砕土層。炭化物多く含む。風化した岩盤表面。)
6. 12層と岩盤ブロック、2層の混合土
7. 浅黄色シルト質砂 5Y8/3 (2層と同じだが鉄分多い。)

8. 6層と同じだが6層より12層強く、灰色を呈しシルト気が強い。
9. 6層と同じ。炭化物多量混入。
10. 6層と同じ。炭化物9層より少ない。
11. 6層と同じ。炭化物10層より少ない。砂質強い。
12. 灰色シルト質砂 5Y6/1 (炭片含む。)
13. 8層と同じだが8層より灰色を呈しシルト気が強い。
14. 灰色砂質シルト 5Y6/1 (炭片含む。)
15. 灰色シルト質砂 5Y5/1 (炭片多い。12層よりシルト気が強い。)

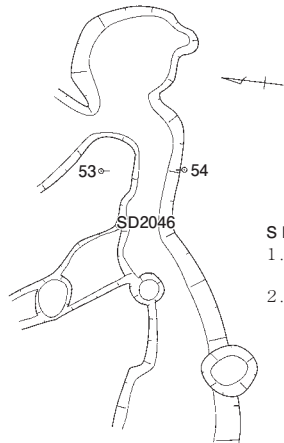


第15図 第2次調査 1・2区遺構図4 (S=1/60)



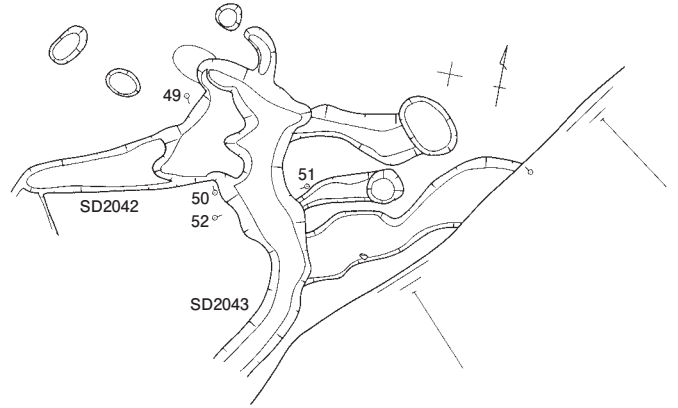
2区 (H-40区) 土層断面 (45-46)

1. 濁灰オリブ色シルト 5Y5/2 (鉄分が沈着。粘性を帯びる。固くしまる。)
2. 灰色シルト 5Y4/1 (粘性やや帯びる。砂も含みしまりややない。)
3. にぶい黄色砂 2.5Y6/4 (シルト混じり。)
4. 黄灰色シルト 2.5Y5/1 (粘性帯びる。固くしまる。)
5. 濁褐灰色シルト 10YR4/1 (4層により多くの砂が混。鉄分の粒子が多い。)
6. 灰オリブ色シルト 5Y6/2 (砂多く固くしまる。)
7. 灰オリブ色シルト 5Y4/2
8. 灰色砂 5Y6/1 (基本層序の4層。)



SD2046 (53-54)

1. 暗オリブ灰色シルト 2.5GY3/1 (粘性帯びる。)
2. オリブ黒色シルト 5GY2/1 (炭化物含む。)

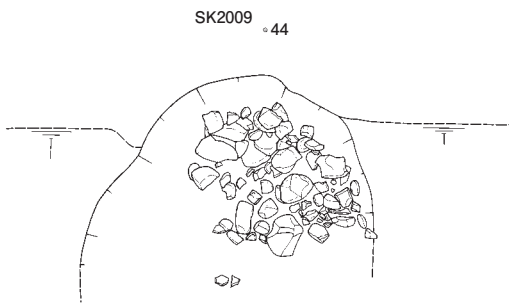


SD2042 (49-50)

1. 黒褐色シルト 10YR3/1
- 1'. 1層に軟石と土器が入る
2. オリブ灰色砂 2.5GY6/1

SD2043 (51-52)

1. 黒褐色シルト 10YR3/1
2. オリブ灰色砂 2.5GY6/1

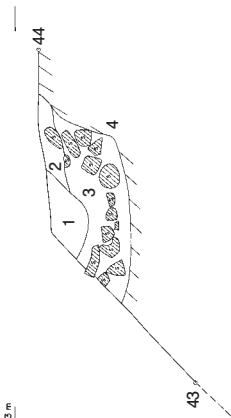


SK2009 (43-44)

SK2009 (43-44)

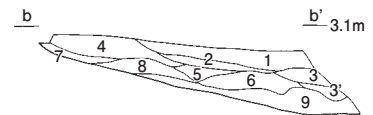
1. 濁灰色シルト質砂
2. 3層混じりの1層
3. 黒色シルト質砂
4. 黄色砂

0 1m
(SK2009平面・断面 S=1/30)



3次調査SX2014 (a-a')

1. 濁黄灰色シルト 2.5Y4/1 (淡黄色地山ブロック (2~3mm大) と砂とが混ざる。粘性あり、鉄分沈着。炭化物粒子も含む。)
2. 濁黄灰色シルト 2.5Y4/2 (4層との境付近で鉄分が沈着する。やや脆く砂混じりの層。)
3. 濁オリブ黒色シルト 5Y3/2 (砂が混ざるが、粘性強い。)
4. 濁灰オリブシルト 5Y4/2 (粒子の大きい砂が混ざる。粘性強い。この面のベース。)



3次調査断ち割り 1 (b-b')

1. 濁黄褐色砂質土 (地山砂礫を含む。)
2. 灰褐色砂質土
3. 濁明黄灰色砂質土 (地山砂を含む。)
- 3'. 濁明黄灰色粘質土
4. 明灰褐色砂質土
5. 灰色砂質土
6. 濁橙褐色砂礫土 (橙褐色砂+凝灰岩風化礫)
7. 黄灰色砂質土 (鉄分沈着。)
8. オリブ灰色砂質土
9. 明黄灰色砂+青灰色砂質土

0 2m

第16図 第2次調査 1・2区、第3次調査 遺構図 (S=1/60)



第17図 第2次調査 平面図1 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 2

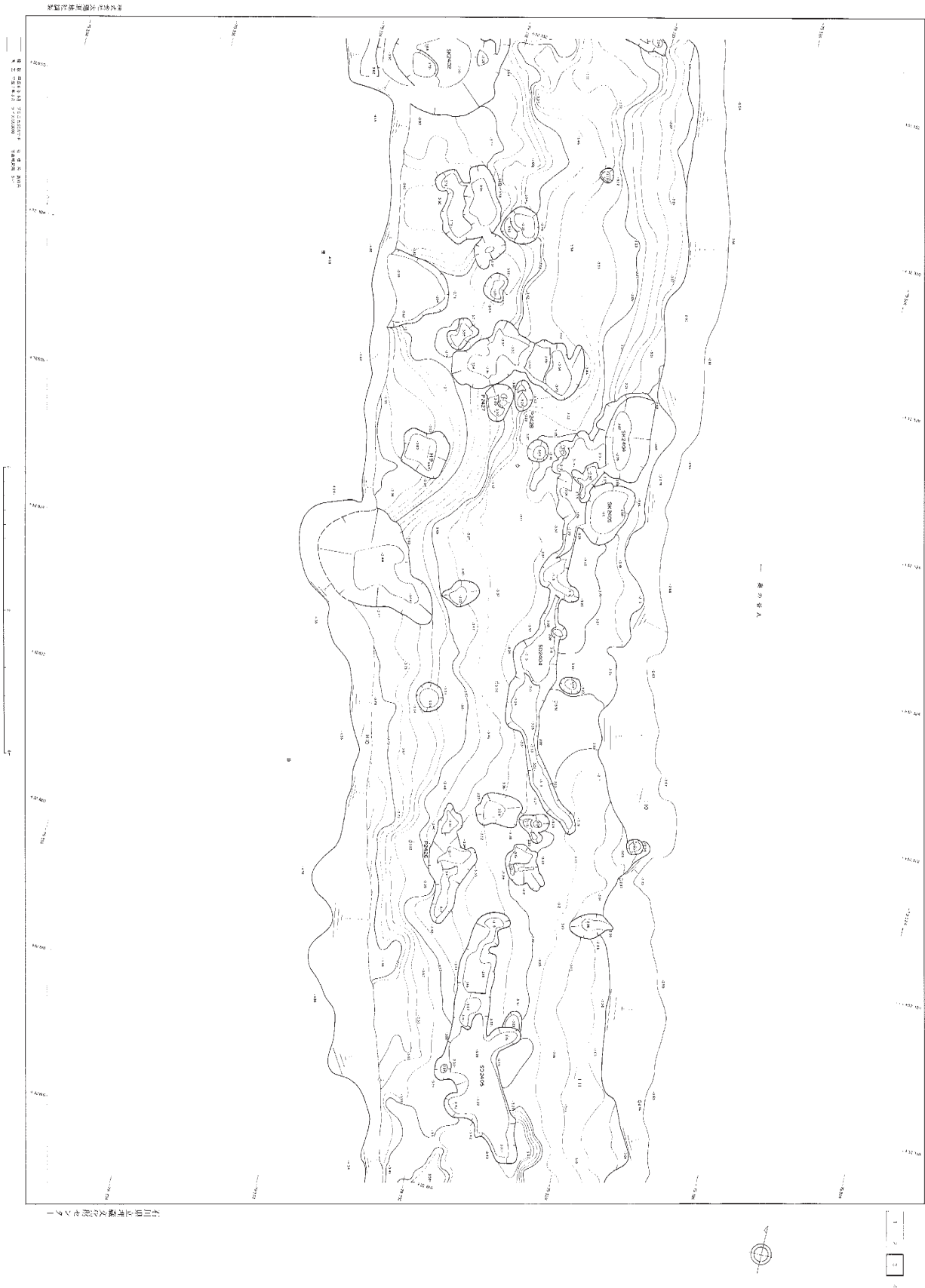
(第2面)



第18図 第2次調査 平面図2 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 3

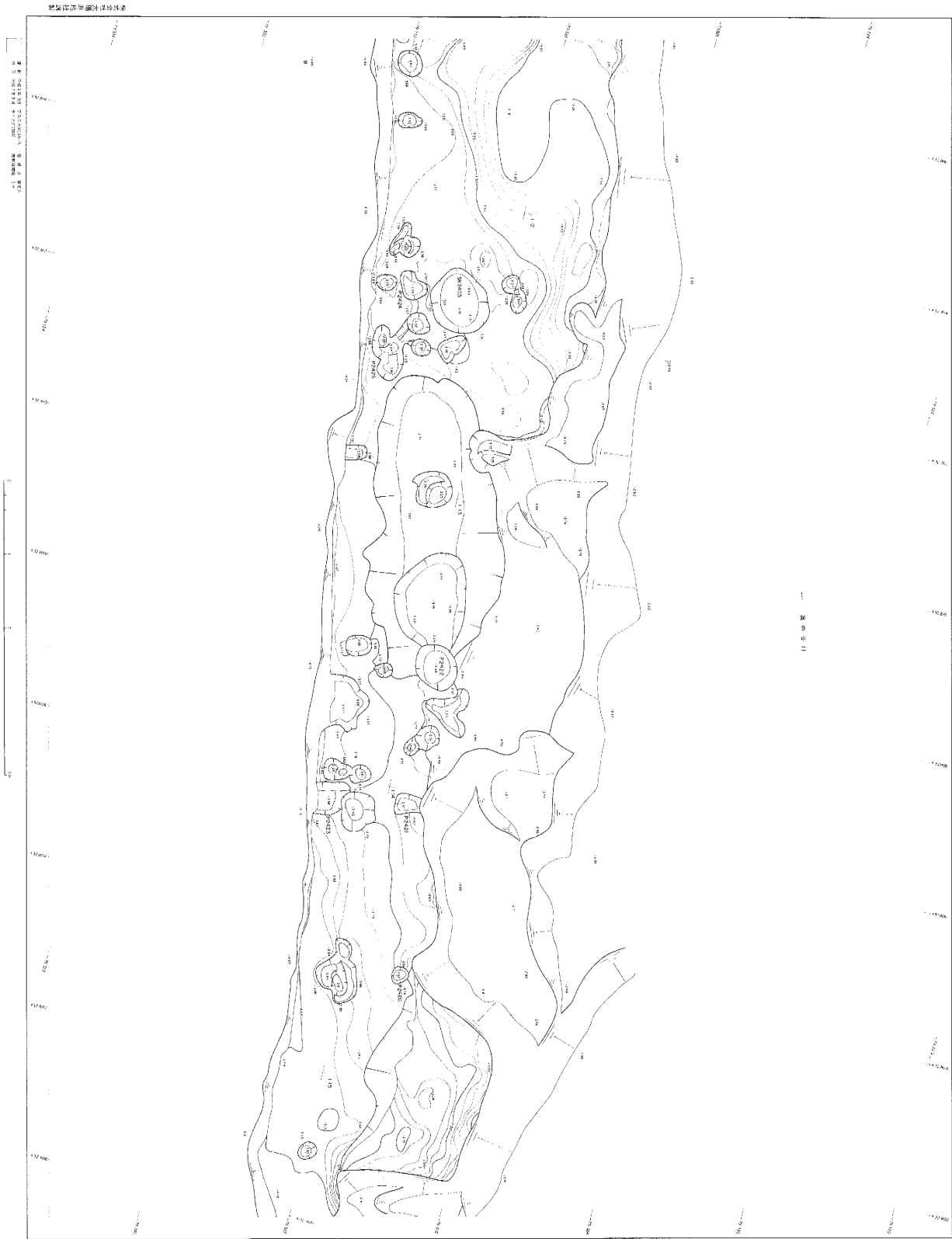
(第2面)



第19図 第2次調査 平面図3 (S=1/80)

三木A遺跡1994(北)平面図No. 4

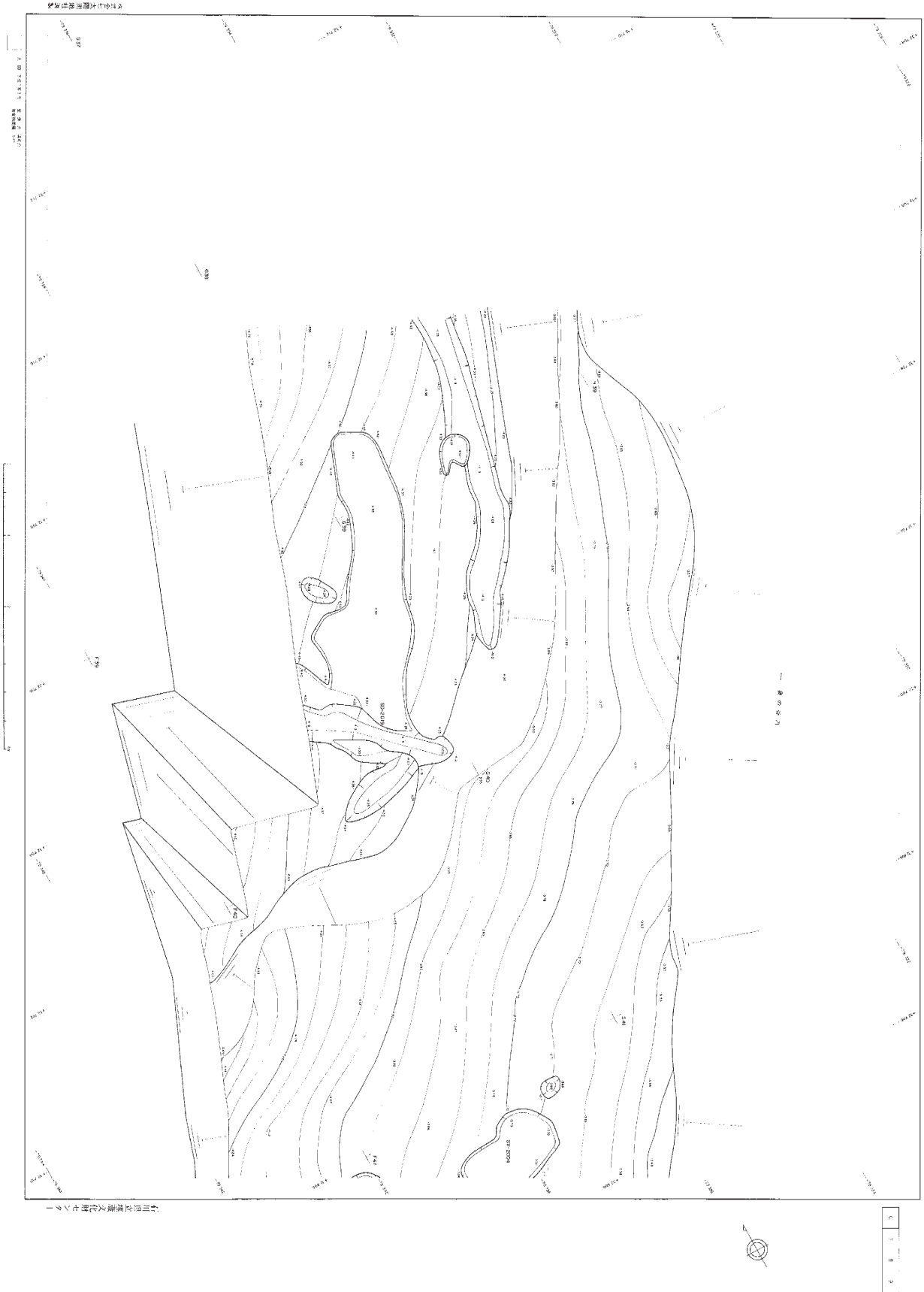
(第2面)



第20図 第2次調査 平面図4 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 6

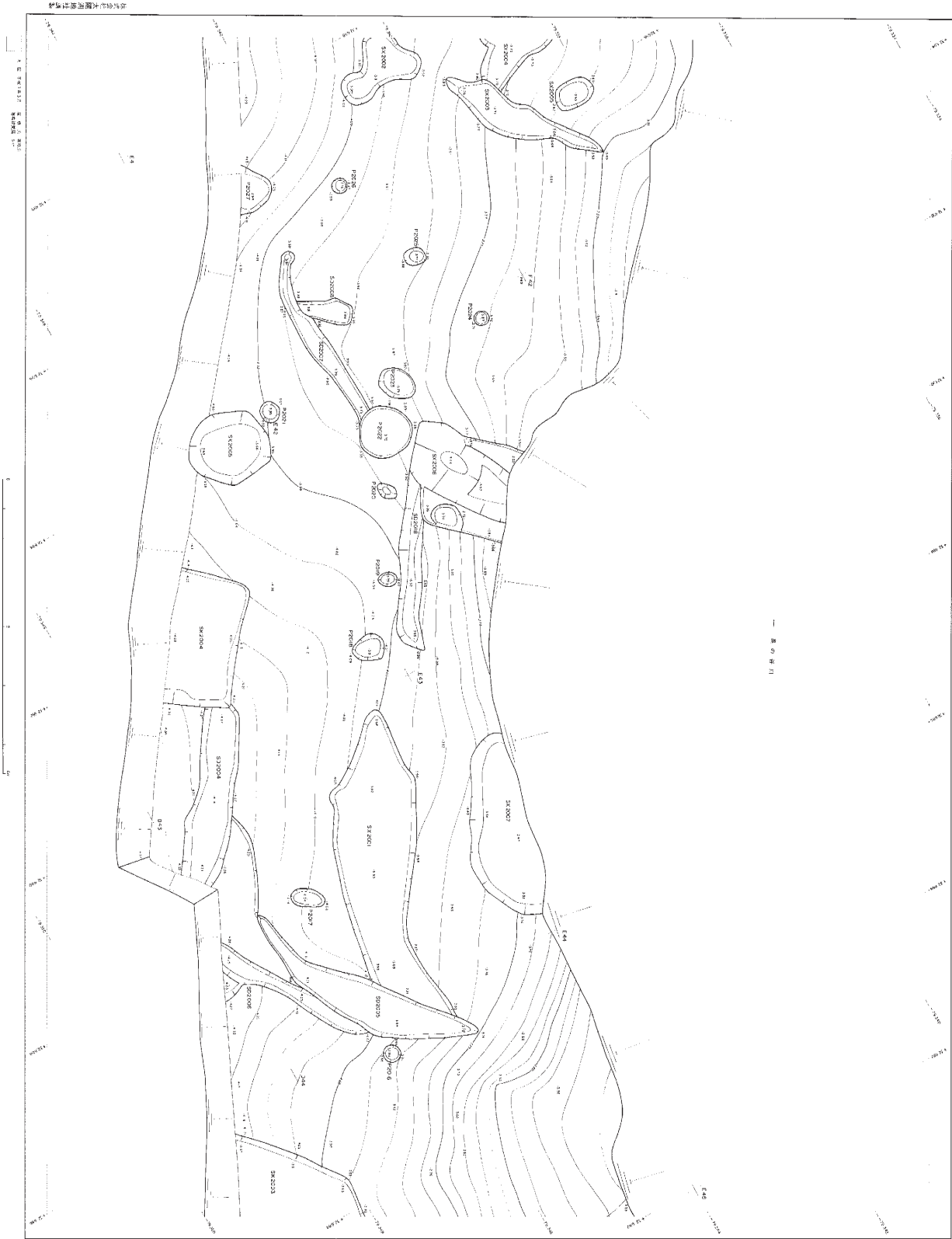
(第1面)



第21図 第2次調査 平面図5 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 7

(第1面)



第22図 第2次調査 平面図6 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 8

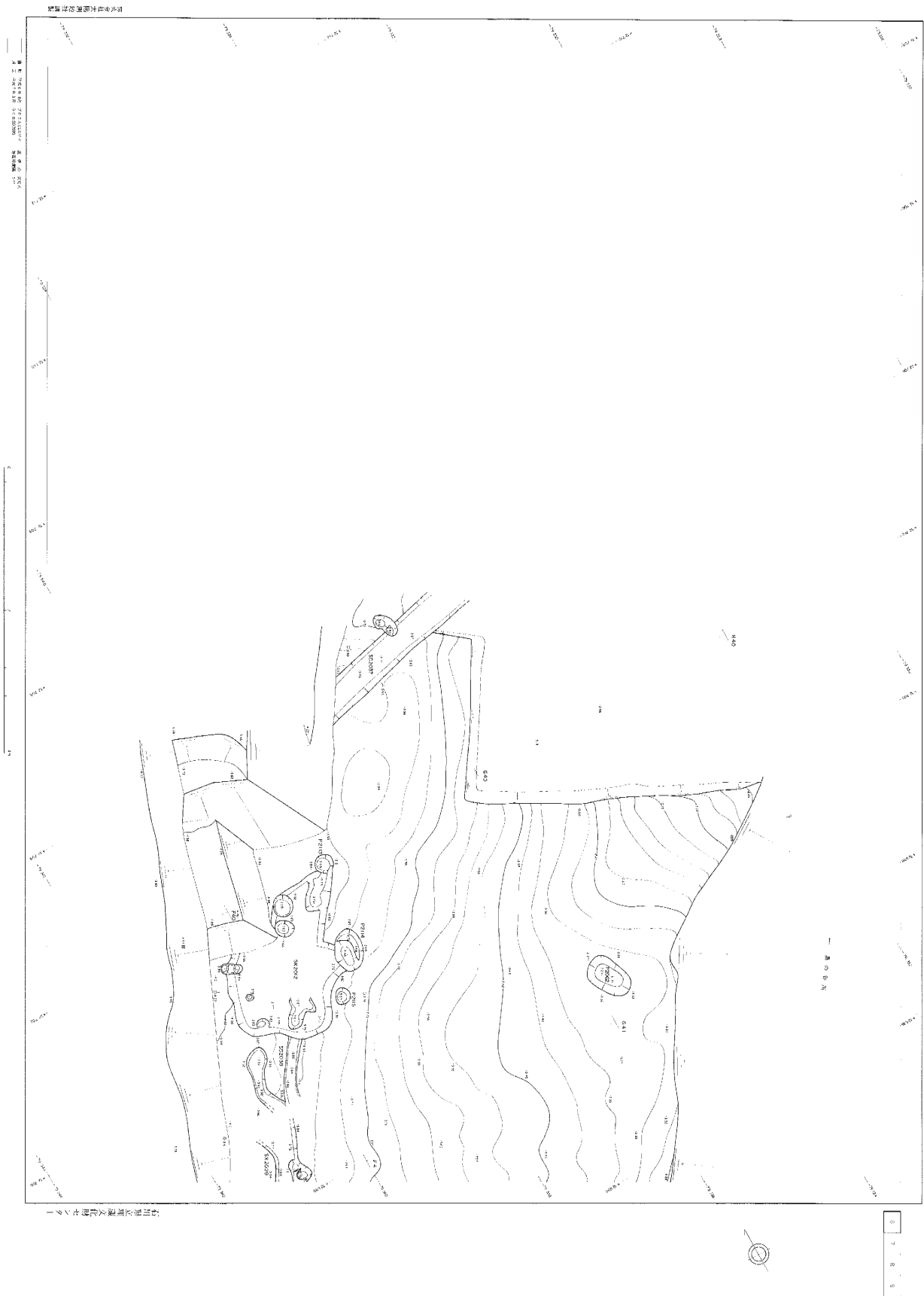
(第1面)



第23図 第2次調査 平面図7 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 6

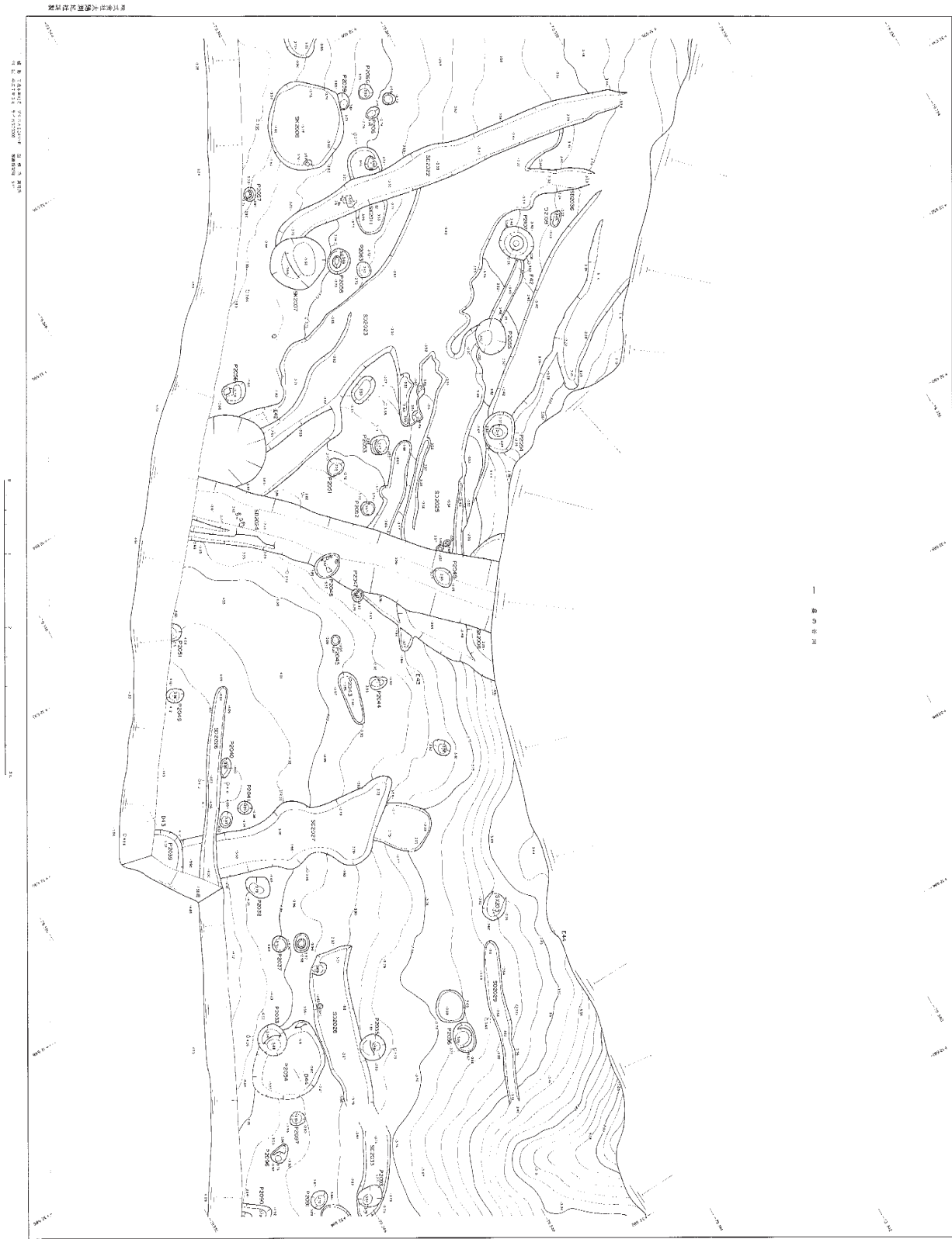
(第2面)



第25図 第2次調査 平面図9 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 7

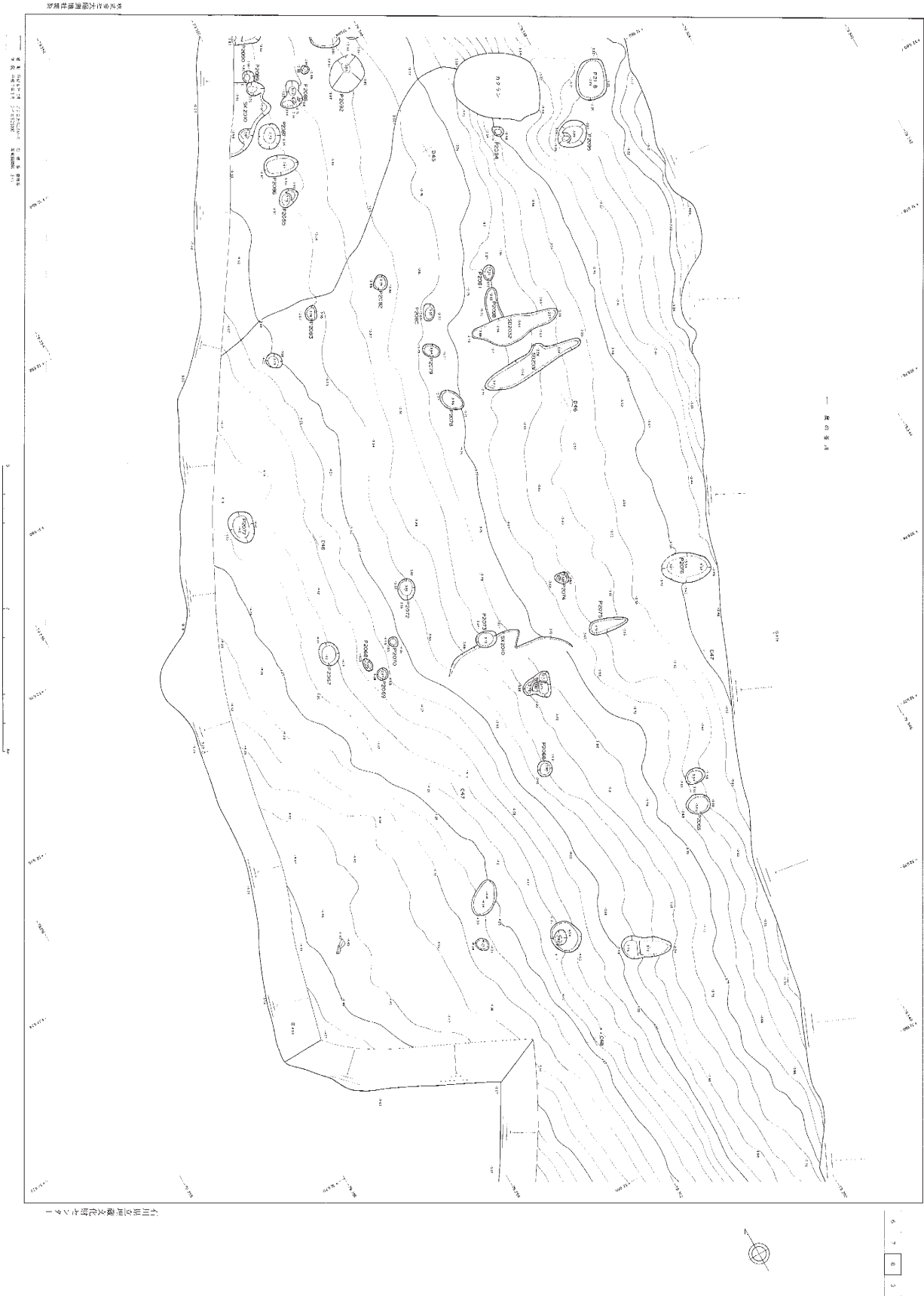
(第2面)



第26図 第2次調査 平面図10 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 8

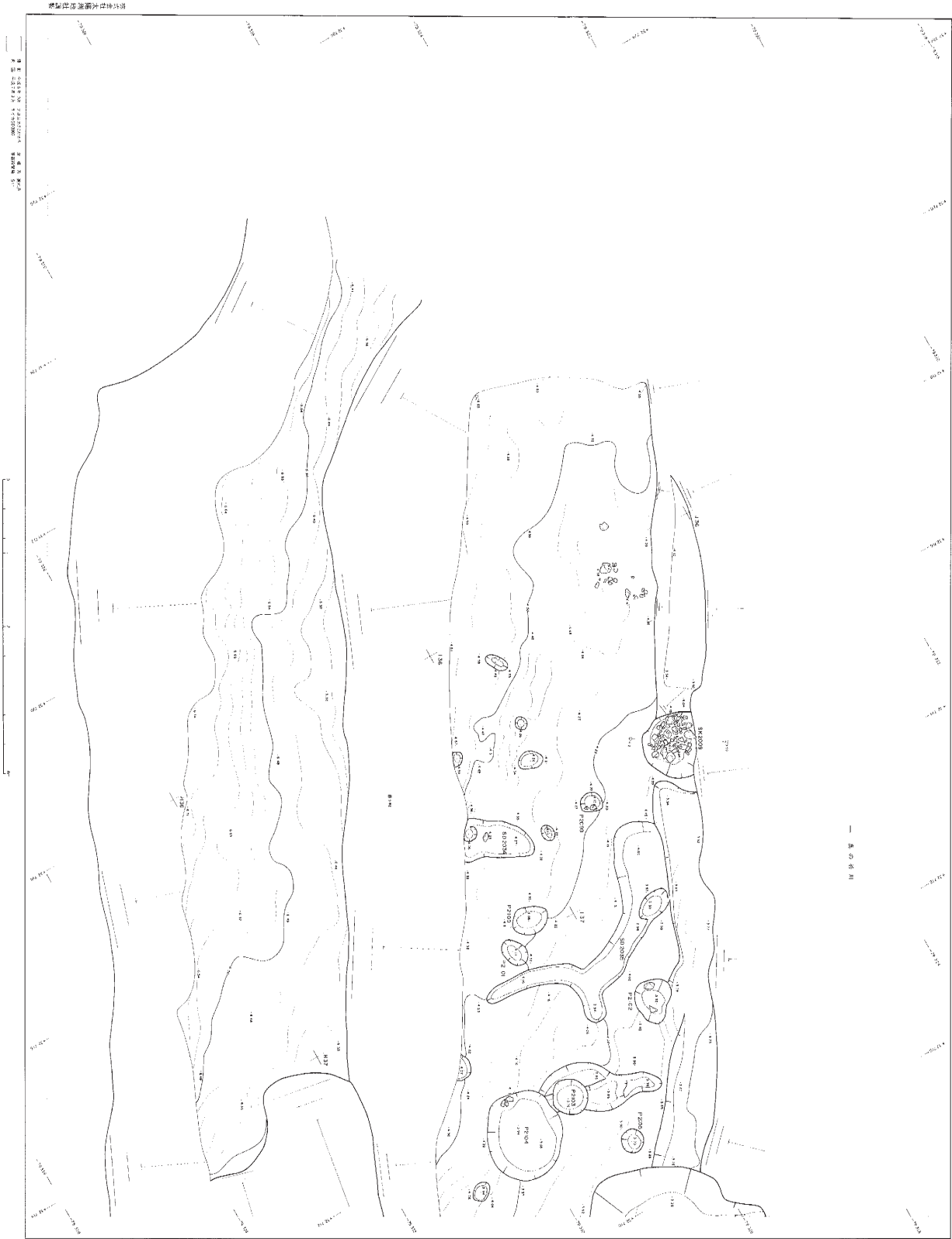
(第2面)



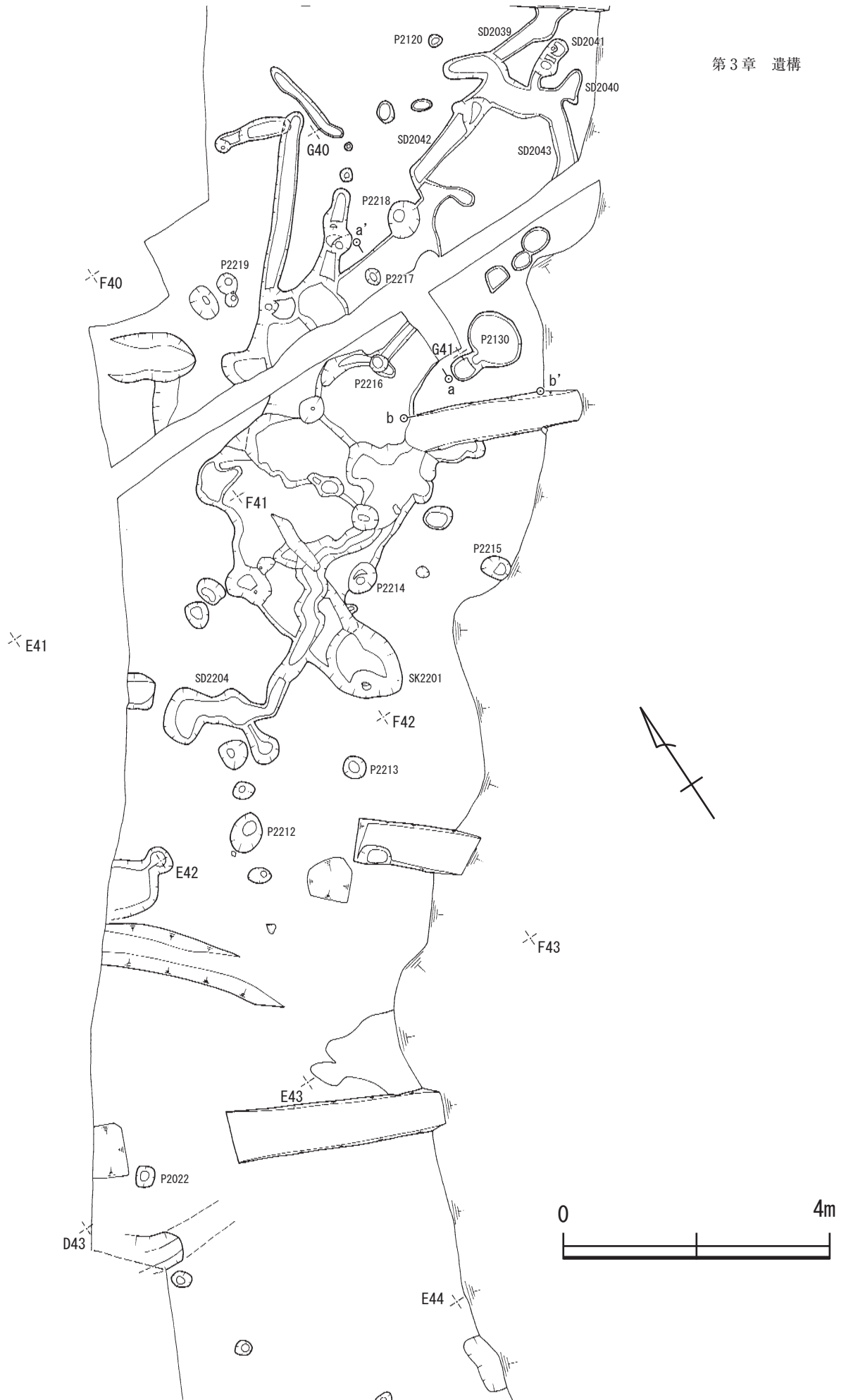
第27図 第2次調査 平面図11 (S = 1/80)

三木A遺跡1994(南)平面図No. 5

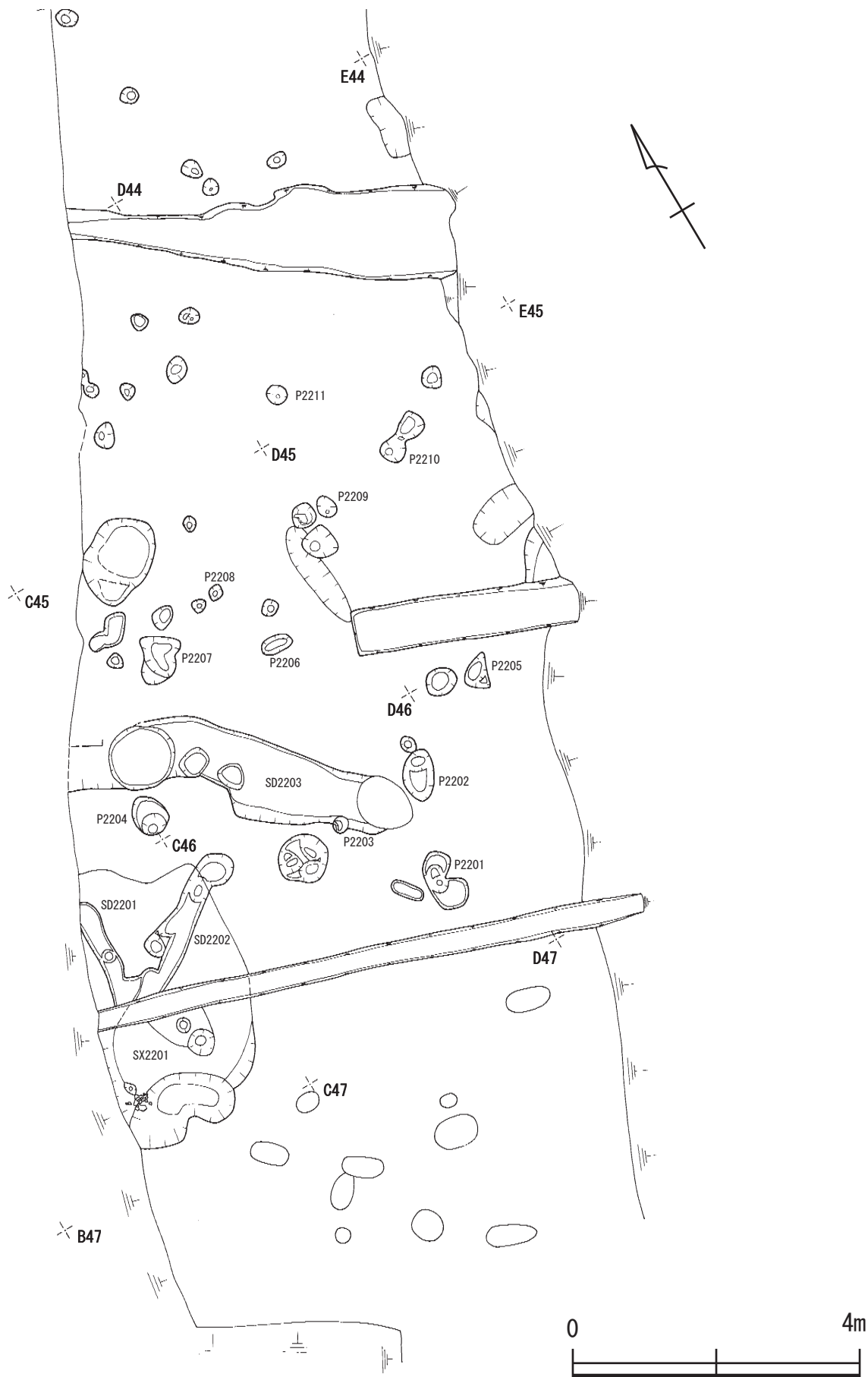
(第3面)



第29図 第2次調査 平面図13 (S = 1/80)



第31図 第3次調査 平面図1 (S = 1/80)



第32図 第3次調査 平面図2 (S = 1/80)

第4章 遺物

本遺跡の調査では、コンテナボックス115箱分（第1次32箱、第2次74箱、第3次9箱）の遺物が出土している。縄文土器から近世陶磁器までの多種多様な土器・陶磁器類の他、石製品類が出土している。それら中から主要な遺物446点を実測した。詳細は遺物観察表を参照されたい。

縄文土器 コンテナボックス10箱分（第1次4箱、第2次4箱、第3次2箱）出土している。時期は縄文時代の早・前期から晩期まで幅広い年代の遺物が出土しているが、後・晩期の遺物が比較的多く出土している。早期～前期では、深鉢（382・413）、前期では深鉢（416・420）や前期と推定される深鉢（436）、前期後半の北白川下層Ⅲ式の深鉢（333）が出土している。中期では、中期前半の新保式（343・346）、中期後半の串田新式（142）、大杉谷式（89・425）の深鉢が出土している。

後期では、後期初頭（中津式）の深鉢（68）、後期中葉の深鉢（99・147・151・367・408・415）や浅鉢（103・422）、後期後半（井口式）の深鉢（405・406・423）や浅鉢（390・435）、鉢（412）、後期末（八日市新保式）の深鉢（149・426・437）や浅鉢（393）等が出土している。晩期では、晩期前半の深鉢（148・414）、晩期後半の深鉢（69・70・97・101・110・112・152）、晩期末の壺（153）が出土している。また、晩期後半では、糞置式の深鉢（98・111・401）が確認でき、福井県の縄文土器の影響も受けていることが推定される。

弥生土器 前期から終末期までの遺物が出土している。前期では柴山出村式の壺（356）、前期末～中期初頭の条痕文系壺（120）が出土しており、中期では初頭頃の条痕文系壺（104）、中期前半の甕（150）、中葉～後半の壺か鉢（339）、中期後半の甕（322）が出土している。後期では、後期前半（猫橋式）の甕（78）、後期後半～終末期では甕（36、51、56、57、328）が出土している。337は終末期の壺と推定され、口縁部外面に円形刺突文、円形浮文、綾杉文等が付され、内面には赤彩が施されている。

176は小型の壺で、色調は赤橙色を呈し、外面にはミガキ調整後に上下各3条単位の沈線間をタマキ貝とみられる貝による施文が巡る。貝殻腹縁押捺による多条化した二段の截頭山形文の一種とみられ、山陰沿岸東部地域の影響の可能性が指摘されている（註1）。貝殻施文の土器は、弥生時代前期後半に盛行するが、施文部位は基本的には胴部最大径より上位になされることが多く、また器形もやや扁平状であることなどから、弥生時代中期後半と推定される（註2）。

329は、形態がアワビのような貝殻状を呈した類例の乏しい土製品である。アワビ特有の瘤状突起は見られない。弥生時代後期～終末期のものと推定される。

土師器 器種としては、甕、壺、高坏、器台、注口鉢、碗、手捏ね、甗、皿、鉢が出土している。古墳時代前期初頭の白江式（漆町編年5～6群）では、甕（75・92・122・155・326・344）、壺（76）が出土している。古墳時代前期前半頃の遺物は、漆町編年5～7群頃の甕（94）、壺（80・117）、6～7群頃の甕（95）、高坏（140）、7群頃の甕（335）、高坏（248・341）、7～8群頃の器台（219）、甕（224）、8～9群頃の甕（262・307・297）、器台（295）等が出土している。古墳時代前期後半では、漆町編年9群頃の甕（292・298）、9～10群頃の壺（193）、10群頃の甕（237・290）、壺（157・177・285）、高坏（208）等が出土している。古墳時代中期では、漆町編年11～12群頃の甕（291）、壺（351）、12群頃の甕（79・184・325）、壺（82・137・138・240）、高坏（または器台：294）、12～13群では甕（62）、壺（288・352）、高坏（52・247・254・256・315）、13群頃では高坏（249）、甗（357）、14群では甕（27・28）、碗（39）等が出土している。

古墳時代後期では、漆町編年 15 群頃の高坏 (20・52) 等が出土している。古代前半では、7 世紀代とみられる注口鉢 (12)、中世では、11 世紀後半～12 世紀中頃の椀 (84) が出土している(註3)。

須恵器 コンテナボックス 4 箱分出土している。器種としては、坏、埴、高坏、盤、甑、甕、壺、甕が出土している。時期的には、古墳時代後期 (5 世紀末頃) から 10 世紀中葉前後頃までの遺物が出土しているが、古代前半期である I 1 期～I 2 期 (7 世紀初頭～中頃) の遺物が比較的多く出土している。古墳時代後期では、5 世紀末頃の TK 47 併行期頃 (34・268)、TK 47～MT 15 (43)、6 世紀前半頃の MT 15～TK 10 (29、54、358) の遺物が出土している。古代前半では、7 世紀初頭～中頃である I 1～I 2 期 (59・121・122・123・143)、I 2 期 (10・11・66・144・158・160・282)、7 世紀後半～8 世紀初頭の II 1～II 2 期 (280) の遺物の遺物が出土している。古代後半期では、V～VI 期 (23)、V 1 期 (116)、VI 2 期 (132) 等が出土している。

製塩土器 第 1 次調査区や第 2 次調査 F 1 区 SX2401 や F 1 区 2 層周辺から大量の細片化した製塩土器片がコンテナボックス換算で 9 箱分出土している。支脚 (24・26・40・41・173) も出土している。良好な共伴遺物がないため時期を明確にできないが、10～12 世紀代の遺物と推定される。

陶磁器 第 1 次調査では、備前焼播鉢 (42) が出土している。第 2 次調査では、SK2402 から 15 世紀代の青磁の香炉 (162)、SK2401 からは唐津焼皿 (163) が出土している。また表採等で染付碗 (368)、唐津焼皿 (369)、18 世紀頃の肥前系陶胎染付碗 (370) を確認している。第 3 次調査では、15 世紀後半頃の表面には鉄釉がかかった瀬戸の蓋 (418) が出土している。

石製品 本遺跡で出土した石製品は、合計約 90 点であり、それらの中から 38 点を実測した。

旧石器時代と推定される遺物が 2 点出土している。1 つは石刃 (444) で、石材は頁岩または凝灰岩と見られ、硬質で同化面は灰白色を呈し、背面は研磨されており、微細剥離痕が見られる。もう 1 点は彫刻刀削片 (443) と推定される遺物である。凝灰岩製と見られ、同化面は灰色を呈し、軟質である。

縄文時代の遺物としては、打製石斧や磨製石斧、石鎌、石棒、砥石 (48)、磨石類が出土しているが、大型の打製石斧や磨石類の中には弥生時代の遺物である可能性があるものもあると考えられる。

弥生時代の遺物としては、石鎌や横刃型石器 (304) が出土している。なお未実測ではあるが、ガラス質デイスイト (下呂石) 製の石鎌が 1 点出土している。

古墳時代の遺物では、管玉 (222) が 1 点出土している。石材は凝灰岩で、孔は両側から開けられている。また、第 1 次調査区では古墳時代中期の石製模造品である滑石製有孔円盤 (47) が出土している。未実測ではあるが、第 2 次調査区でも破片が 1 点出土している。

中世の遺物では、火山礫凝灰岩 (シヤクダニ石) 製の行火蓋 (183) が出土している。蓋の内面の反りが緩やかであることは越前産の特徴であり、時期は 16 世紀後半以降と推定される。

金属製品 第 2 次調査で、古墳時代後期の銅製の耳環 (379) が出土している。その他、F -40 区 1b 層から錆化著しい洪武通寶 1 枚が出土し、4 区南端では寛永通寶 (文銭) を 1 枚表採している。

註

(註 1) 財団法人山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センター乗安和三氏の御教示による。

(註 2) 縄文土器は久田正弘氏、弥生土器は久田氏・林大智氏の御教示を得た。

(註 3) 土師器・須恵器は田嶋明人氏、石製品は本田秀生氏・西田昌弘氏の御教示を得た。

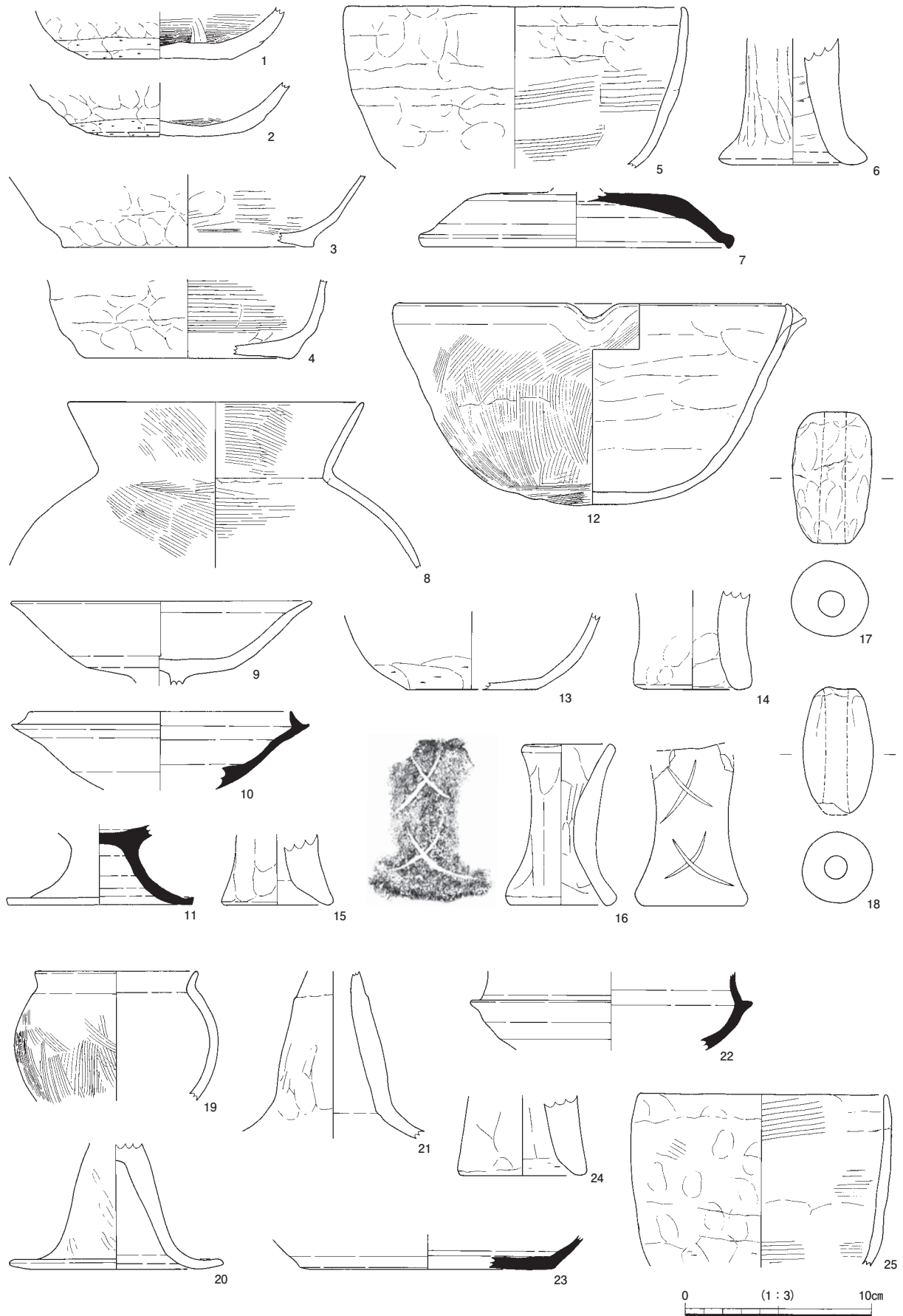
参考文献

1986『漆町遺跡 I』石川県立埋蔵文化財センター

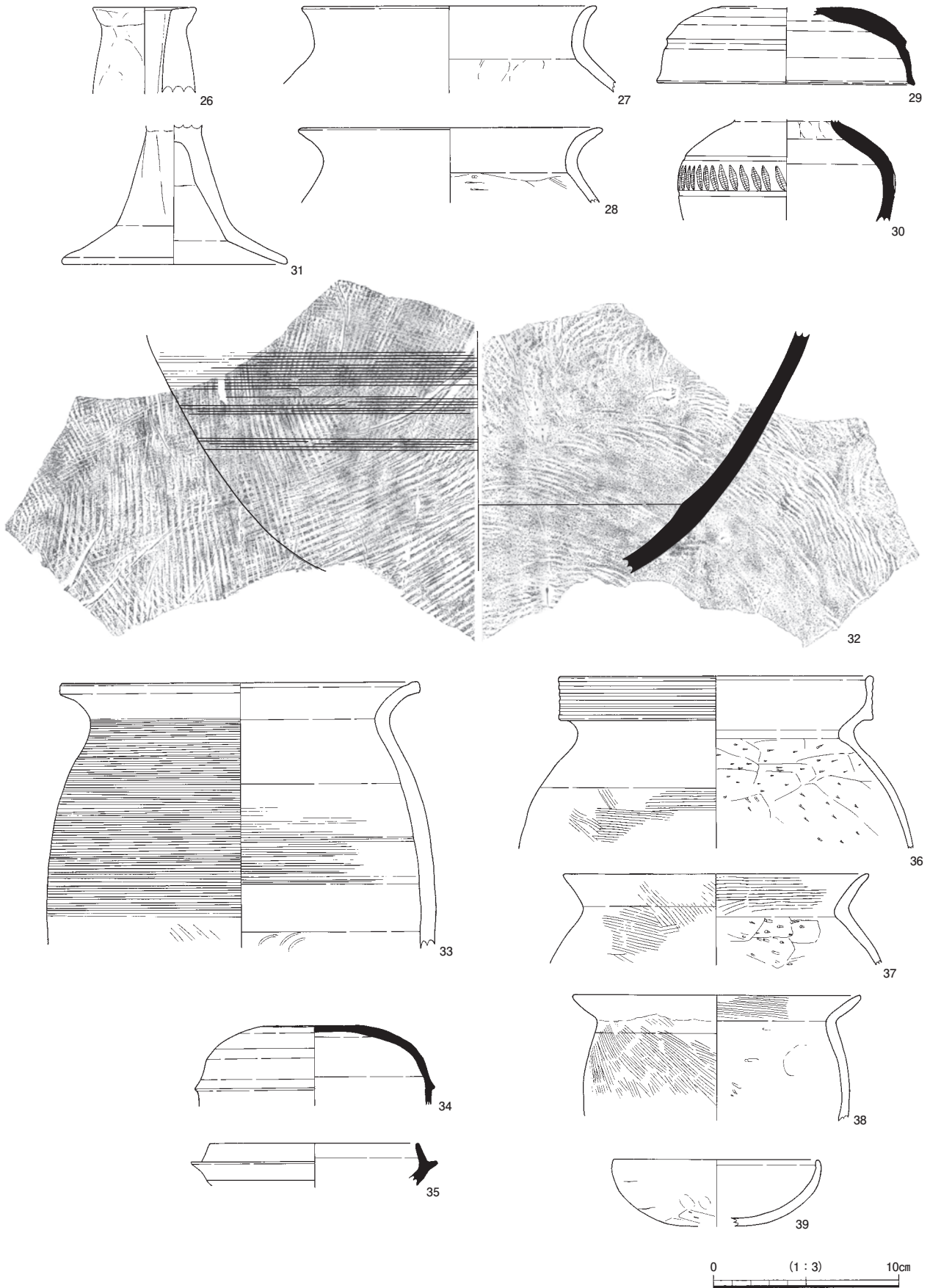
2002『金沢市藤江 C 遺跡』IV・V 第 1 分冊縄文時代編 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

垣内光次郎 1990 「中世北陸の暖房文化」『石川考古学研究会々誌』33 石川考古学研究会

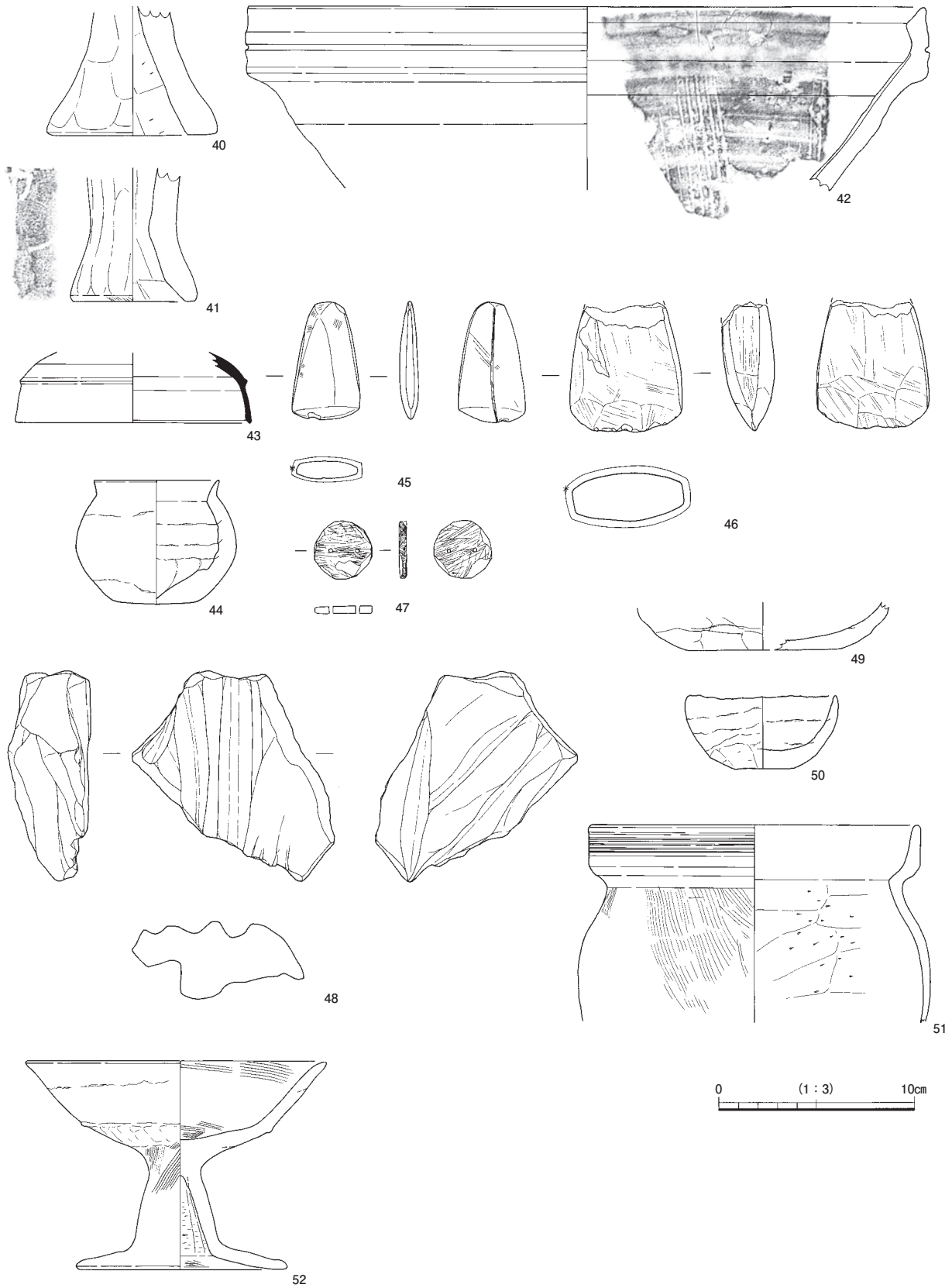
北陸古代土器研究会 2000 『シンポジウム古代の須恵器貯蔵具 II - 貯蔵具の製作技術を復元する』



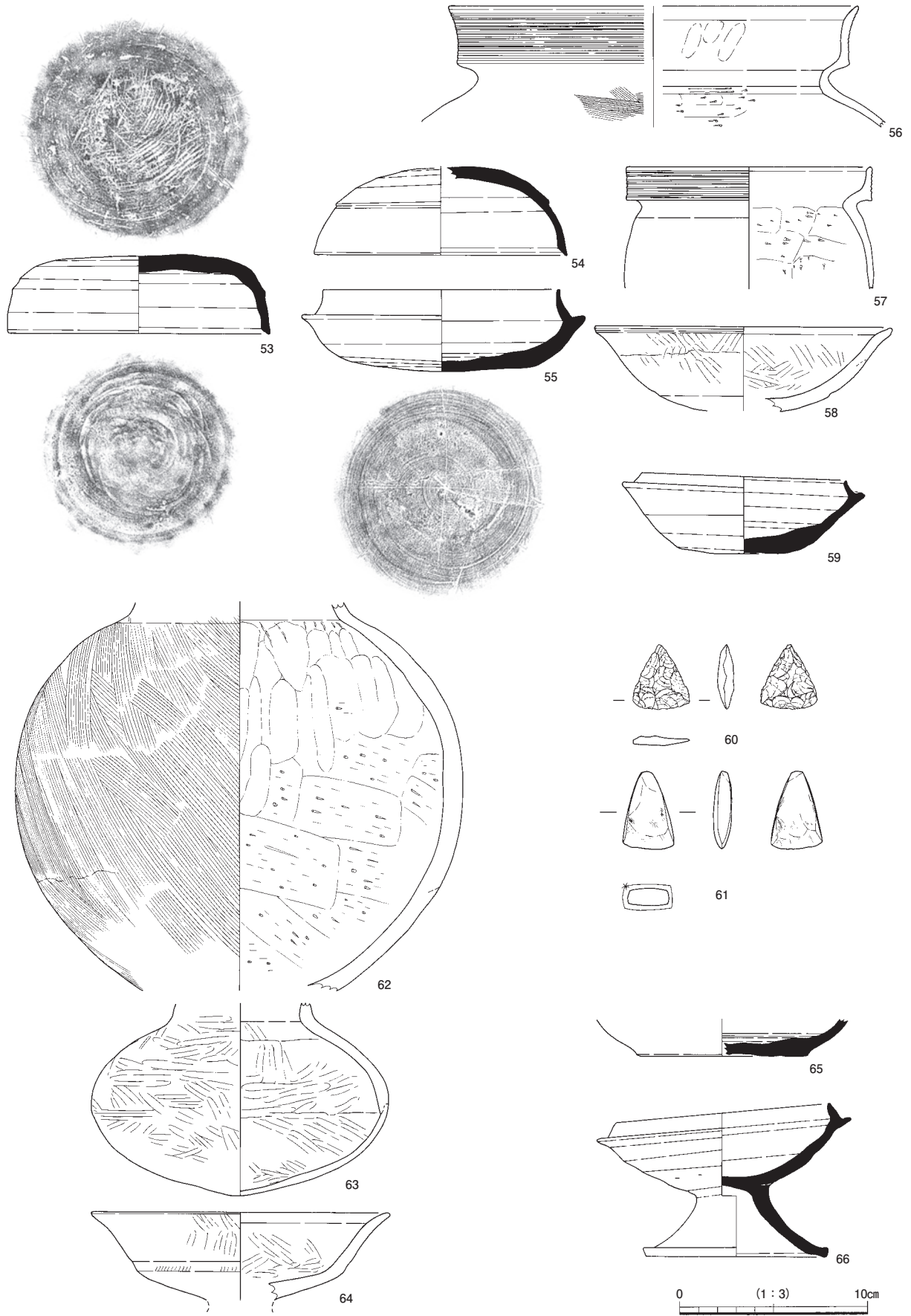
第33図 第1次調査 出土遺物実測図1



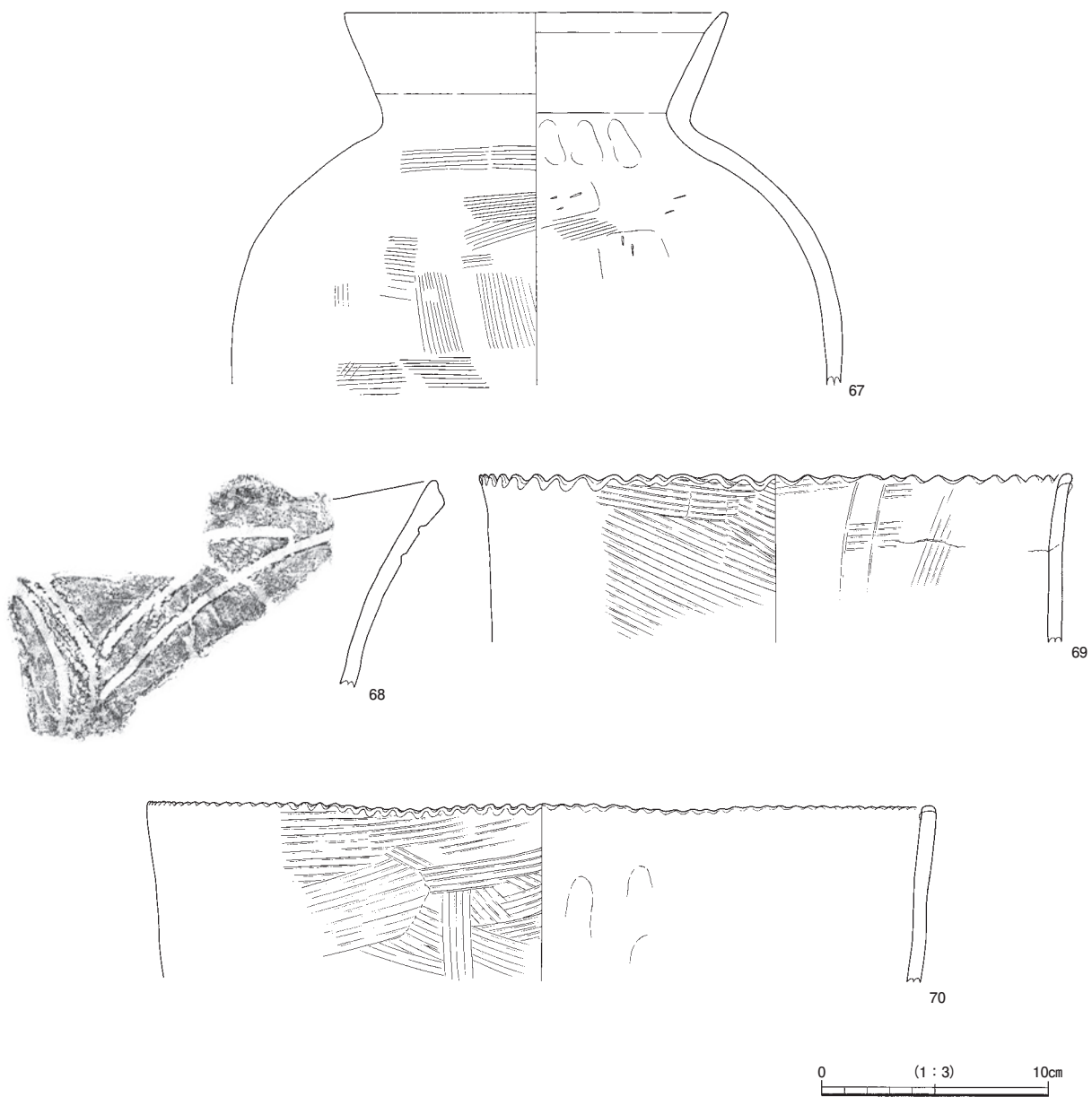
第34図 第1次調査 出土遺物実測図2



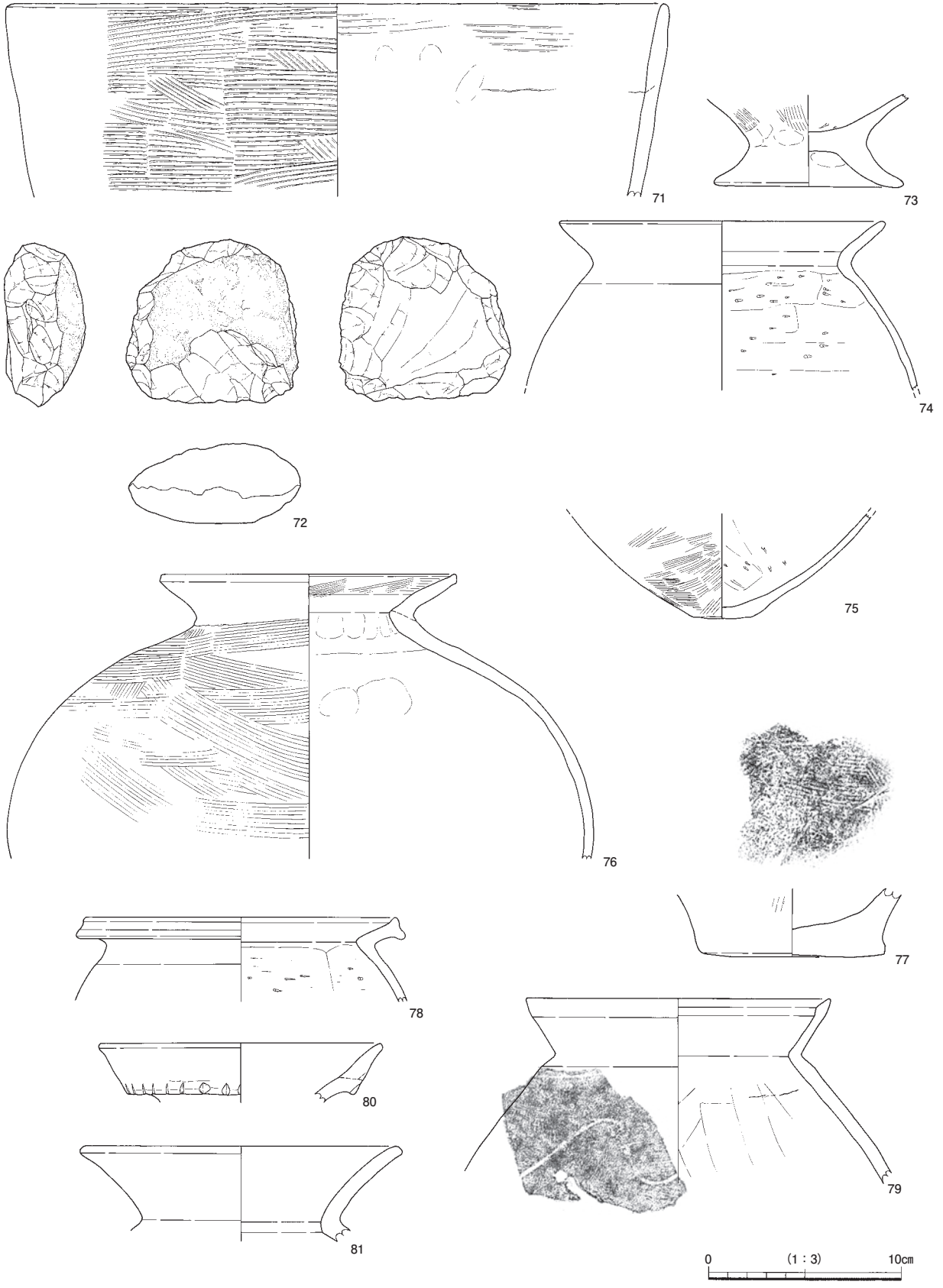
第35図 第1次調査 出土遺物実測図3



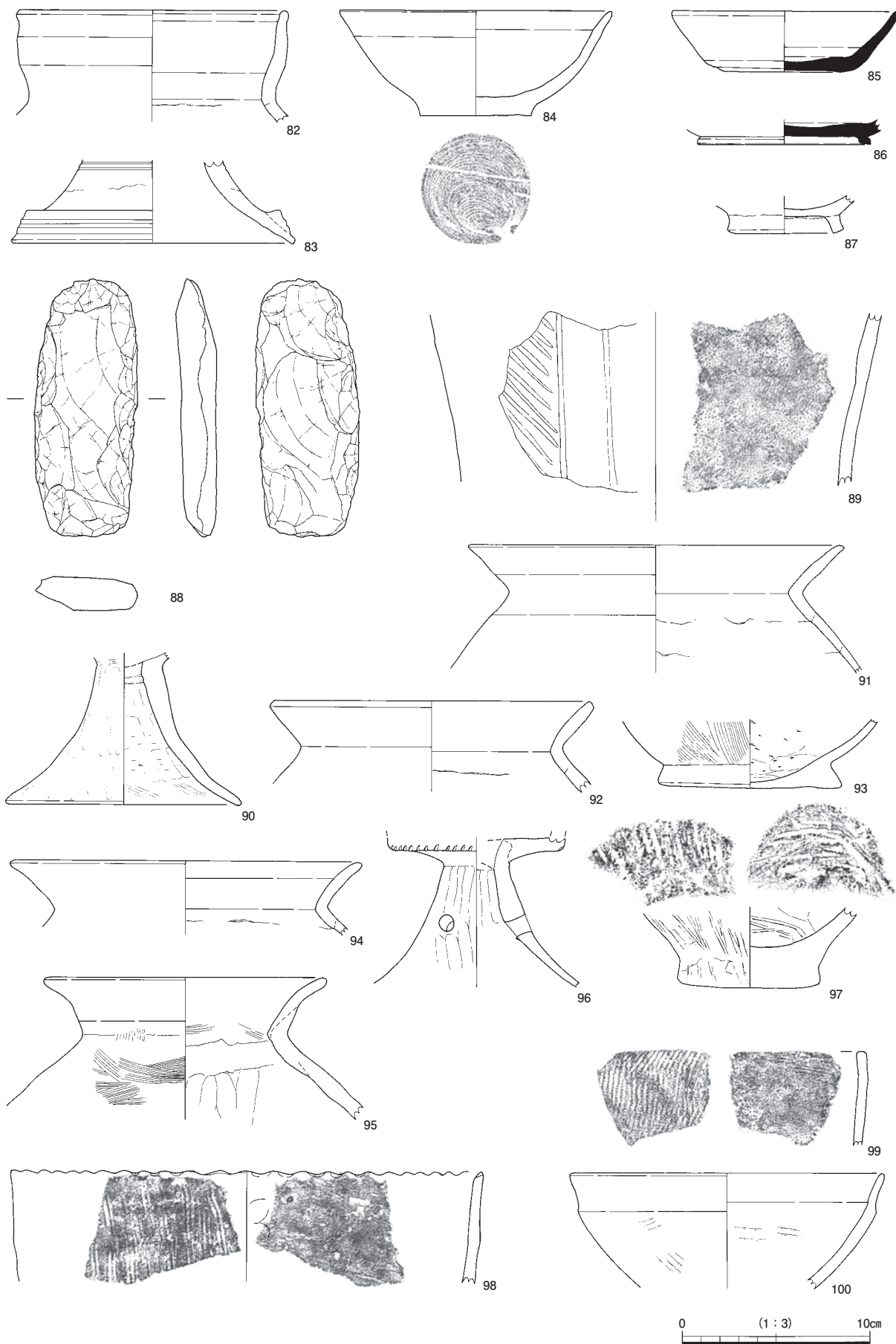
第36図 第1次調査 出土遺物実測図4



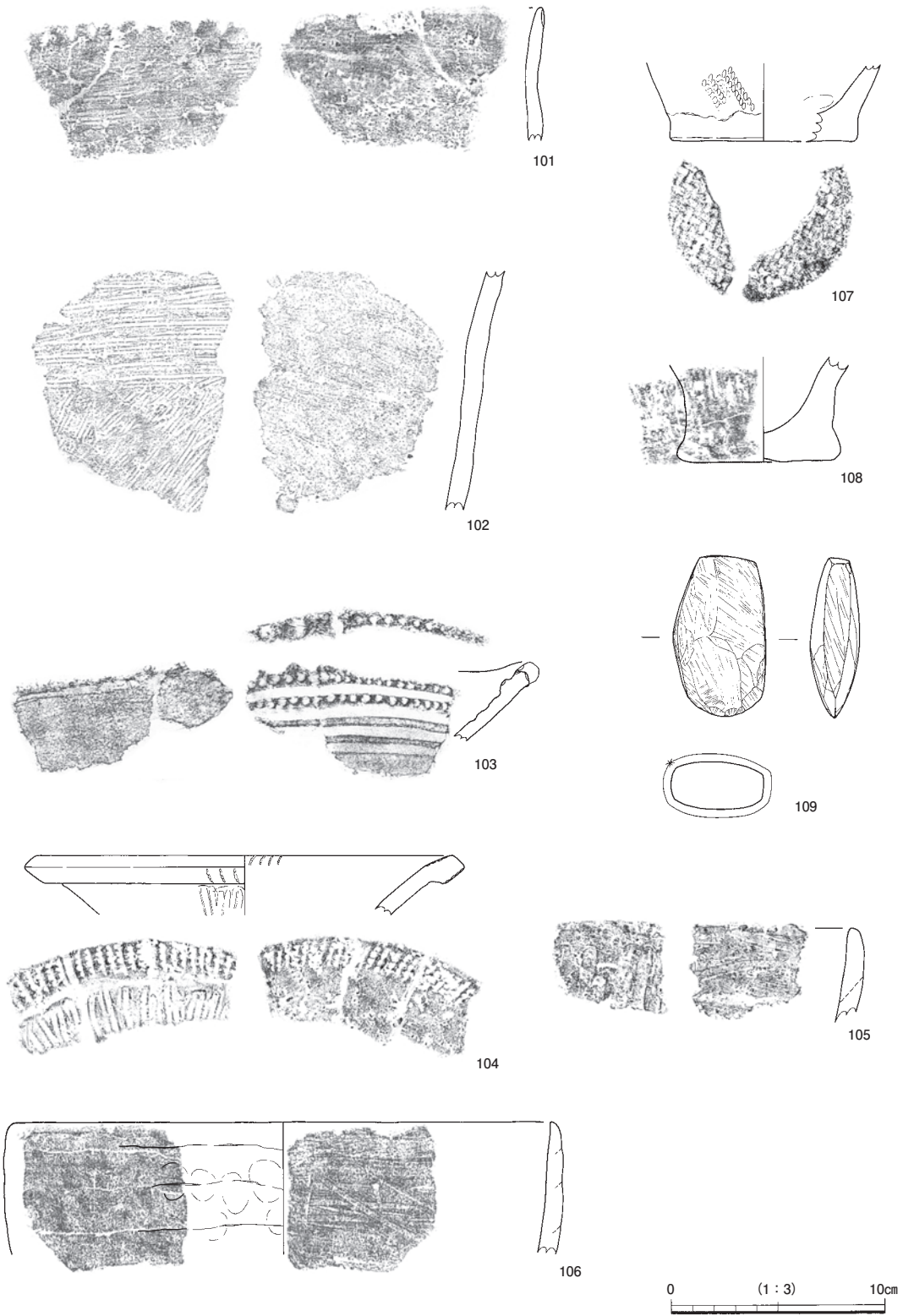
第37図 第1次調査 出土遺物実測図5



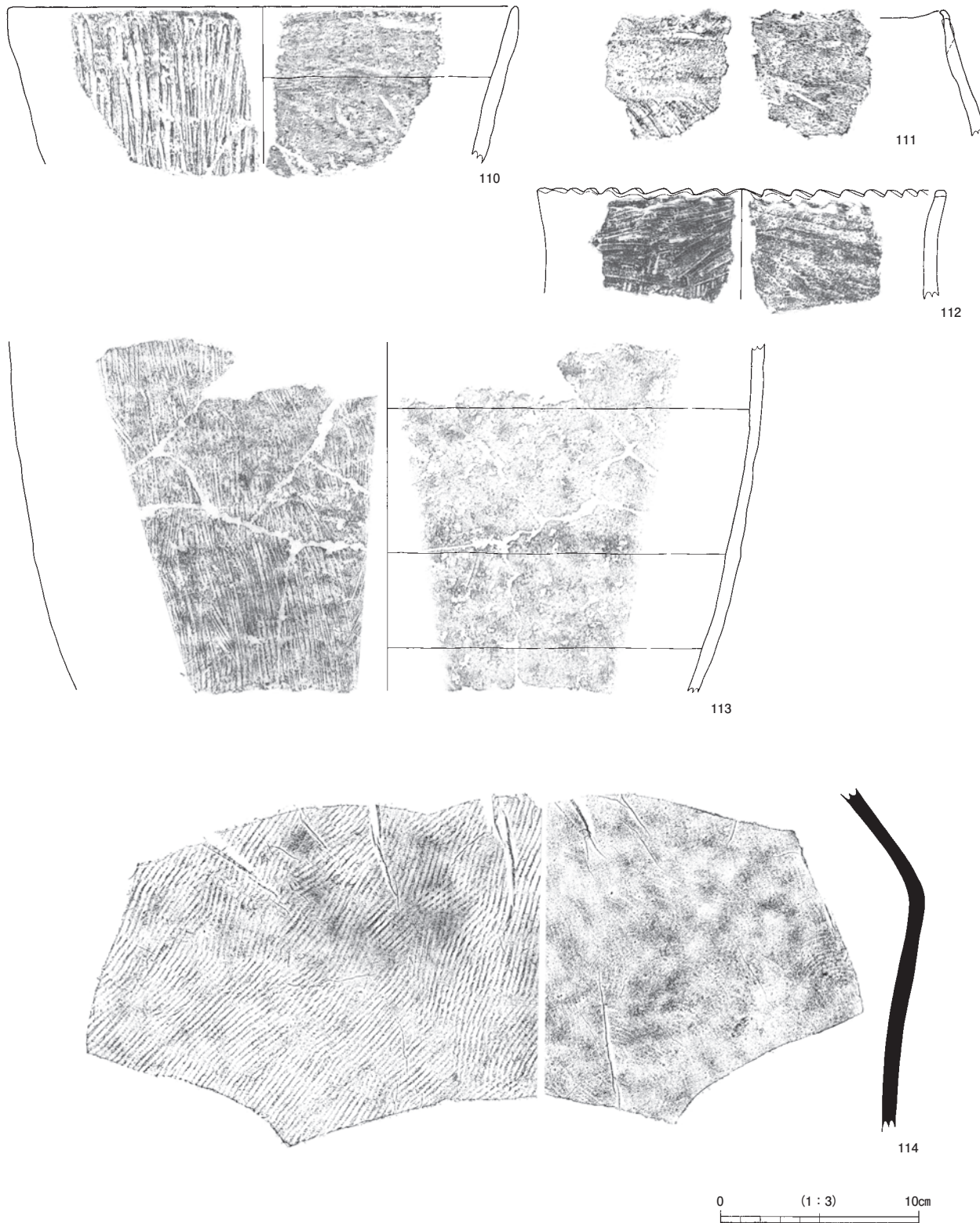
第38図 第1次調査 出土遺物実測図6



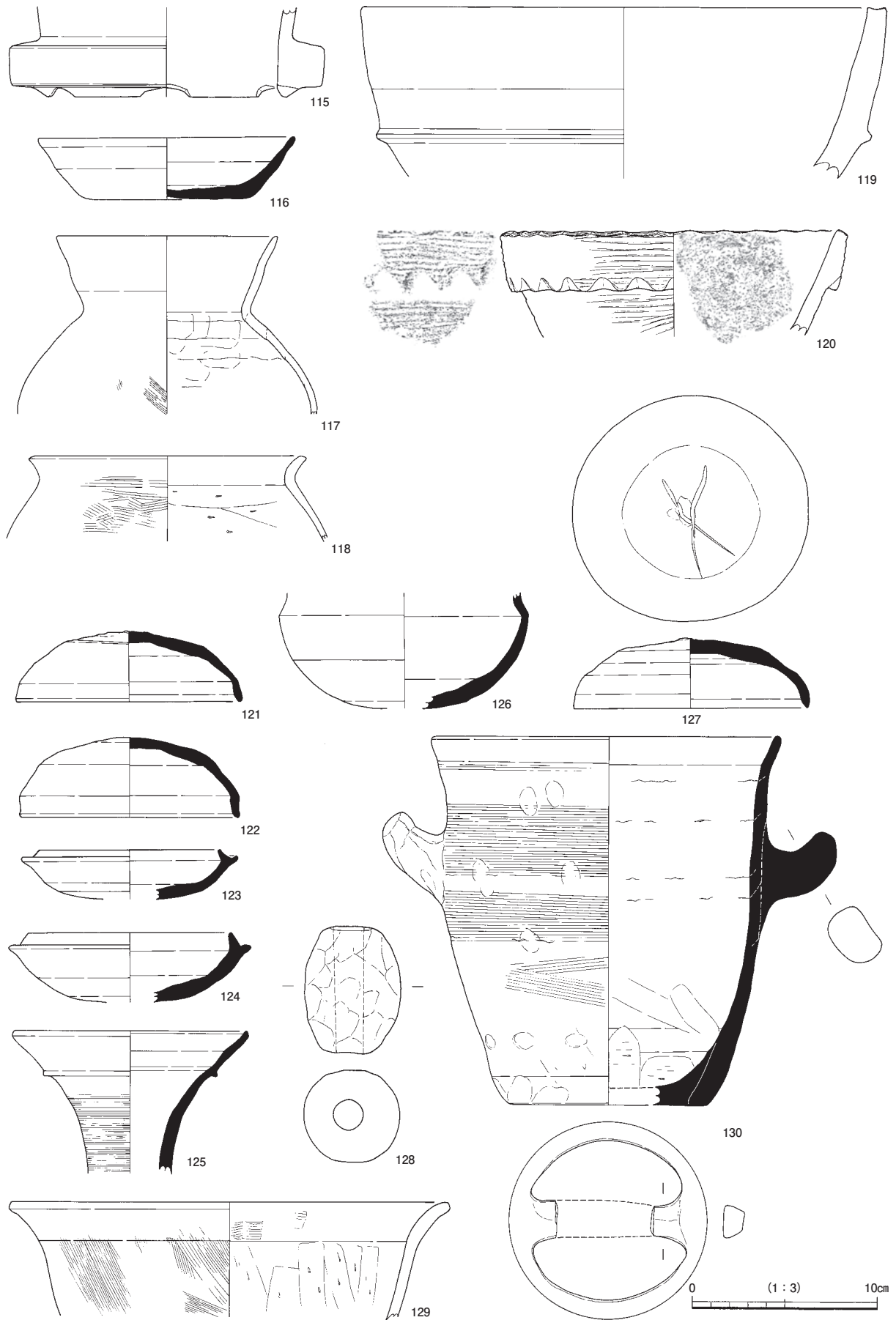
第39図 第1次調査 出土遺物実測図7



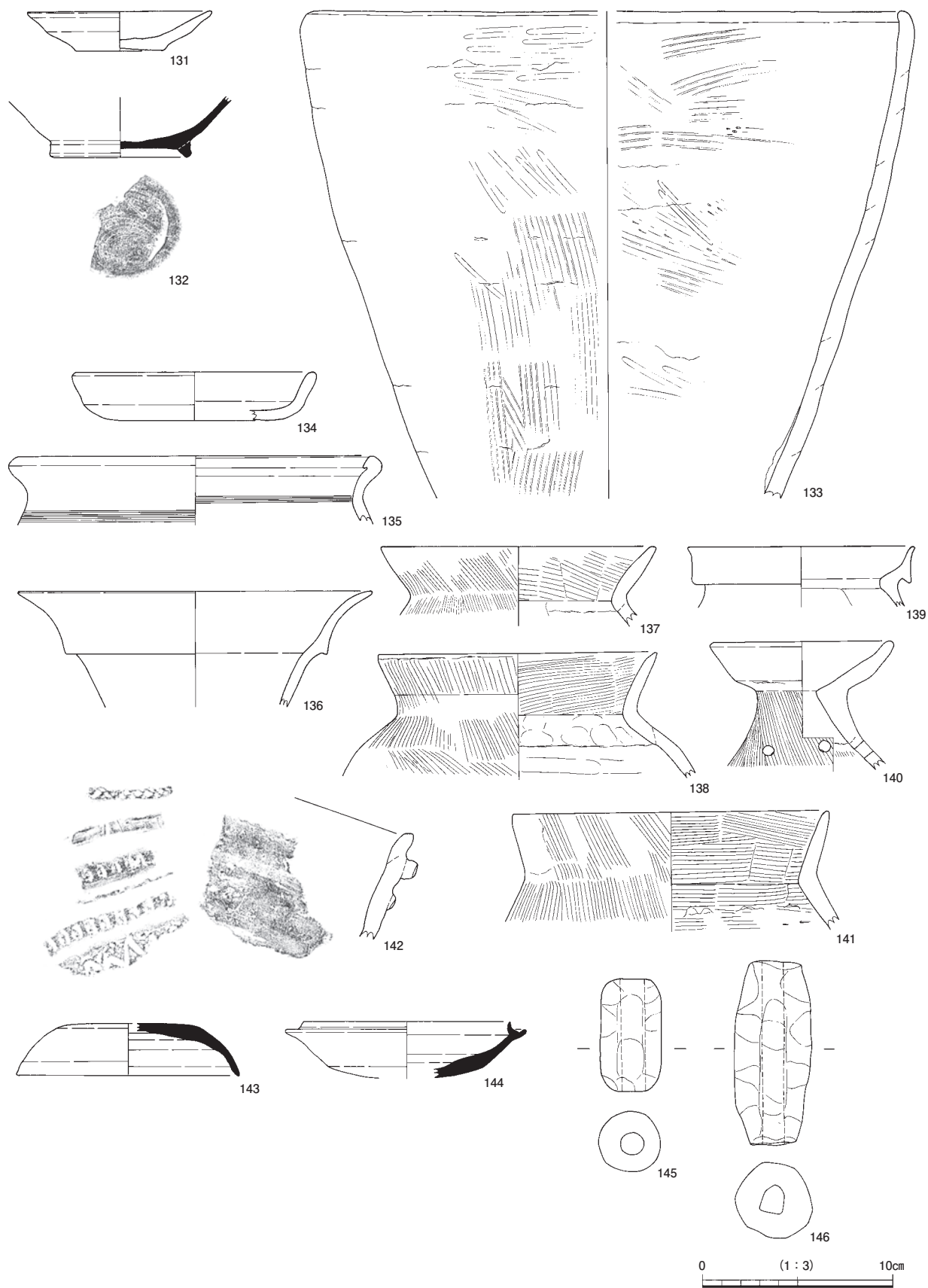
第40図 第1次調査 出土遺物実測図8



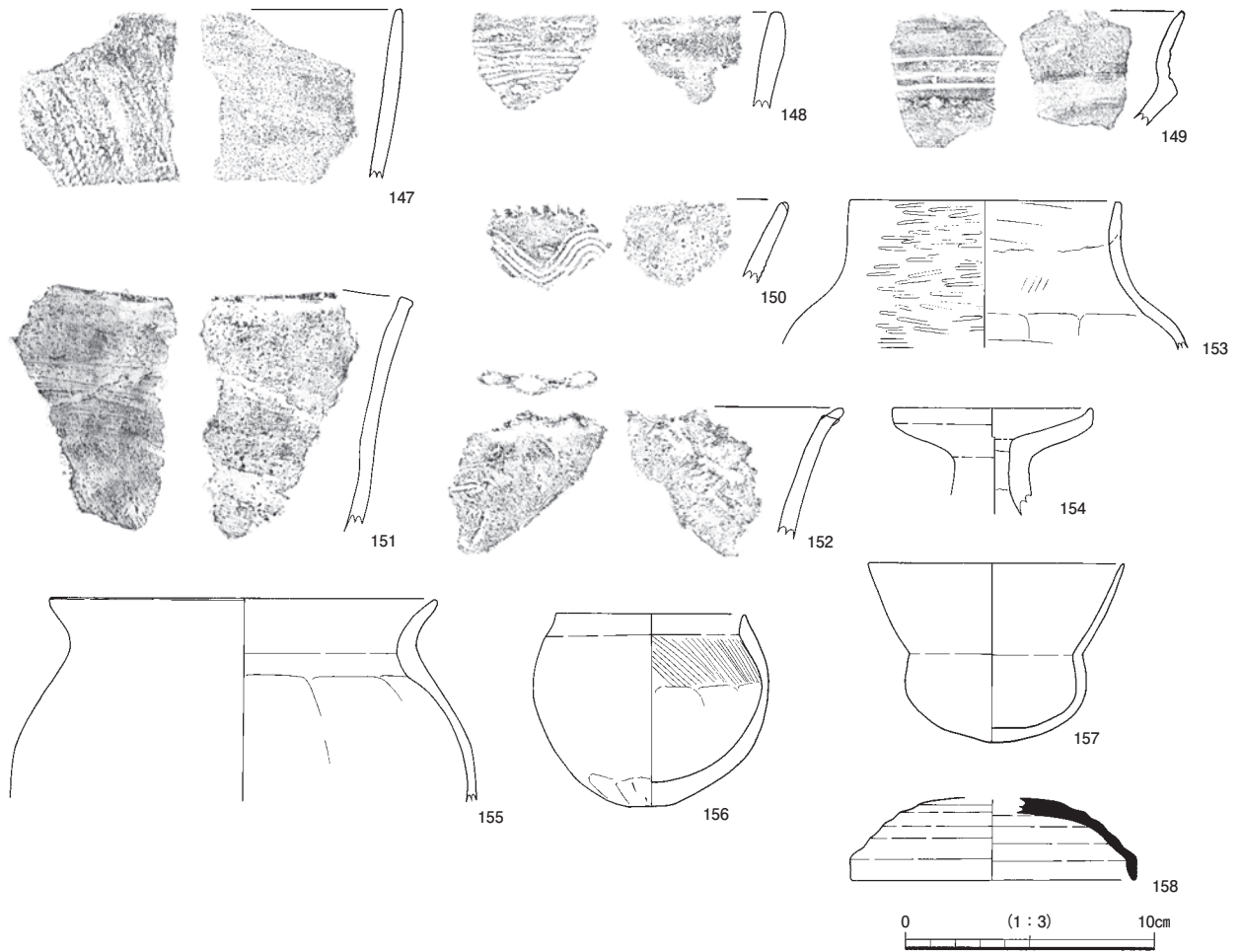
第41図 第1次調査 出土遺物実測図9



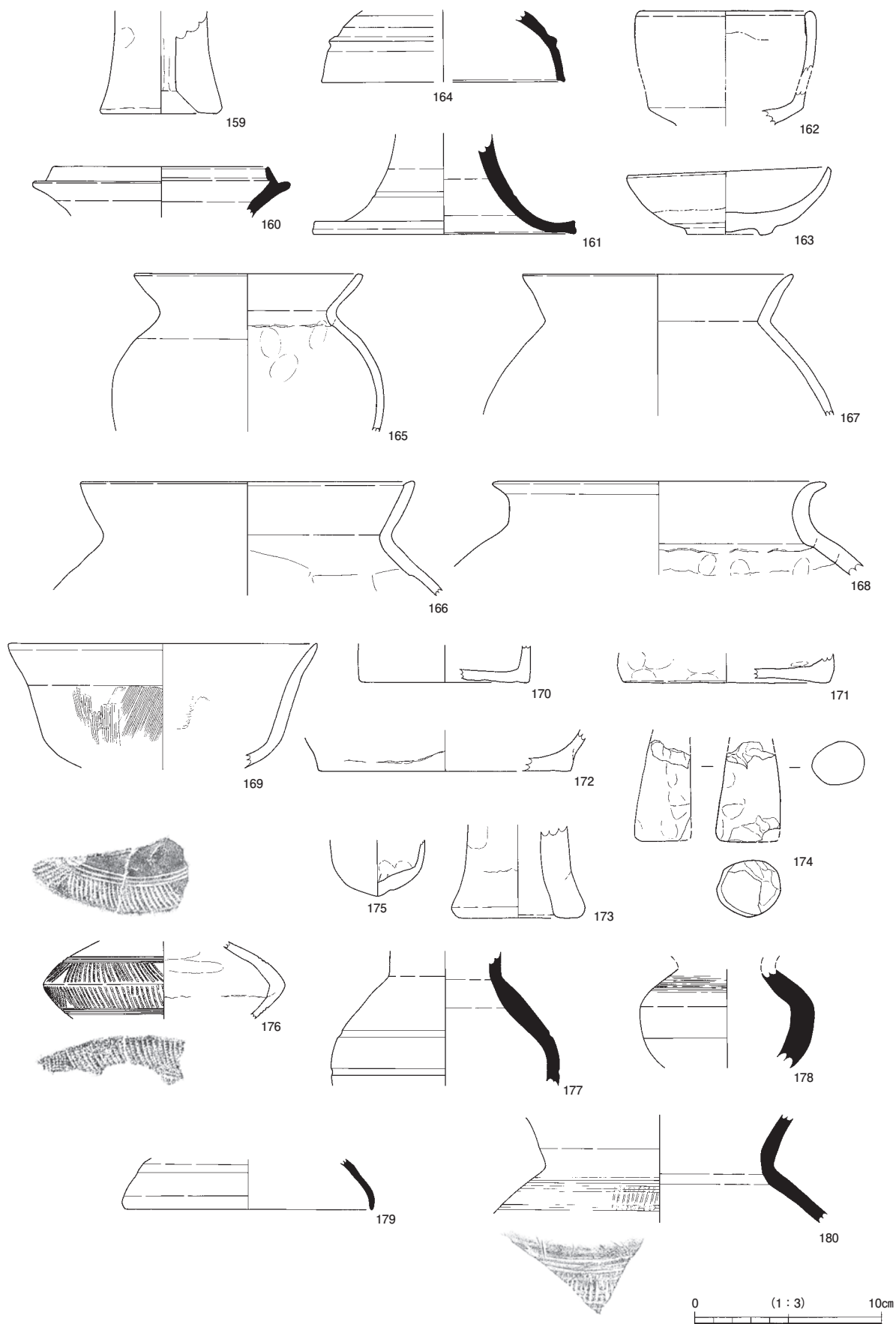
第42図 第1次調査 出土遺物実測図10



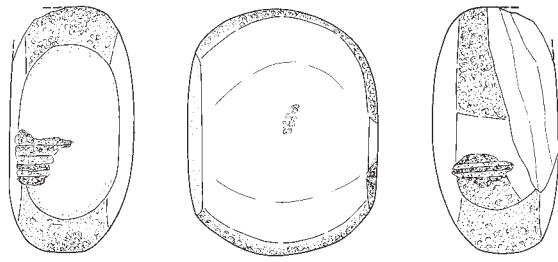
第43図 第1次調査 出土遺物実測図11



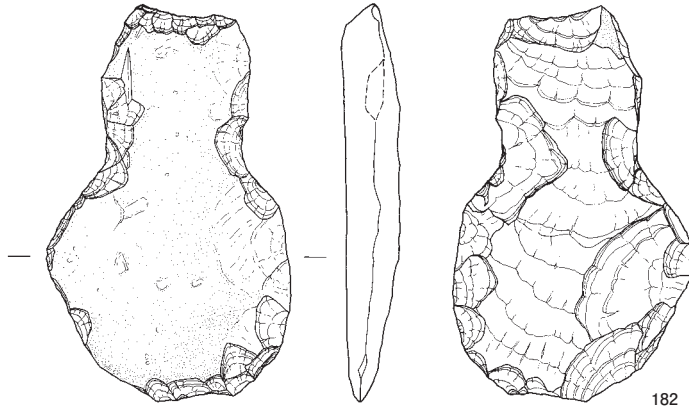
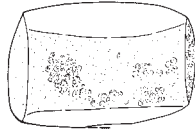
第 44 図 第 1 次調査 出土遺物実測図 12



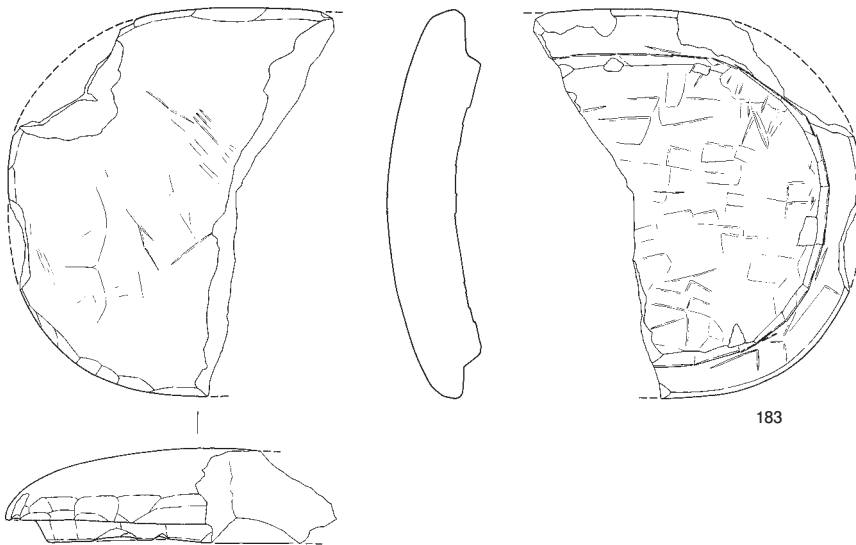
第45図 第2次調査 出土遺物実測図1



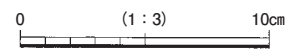
181



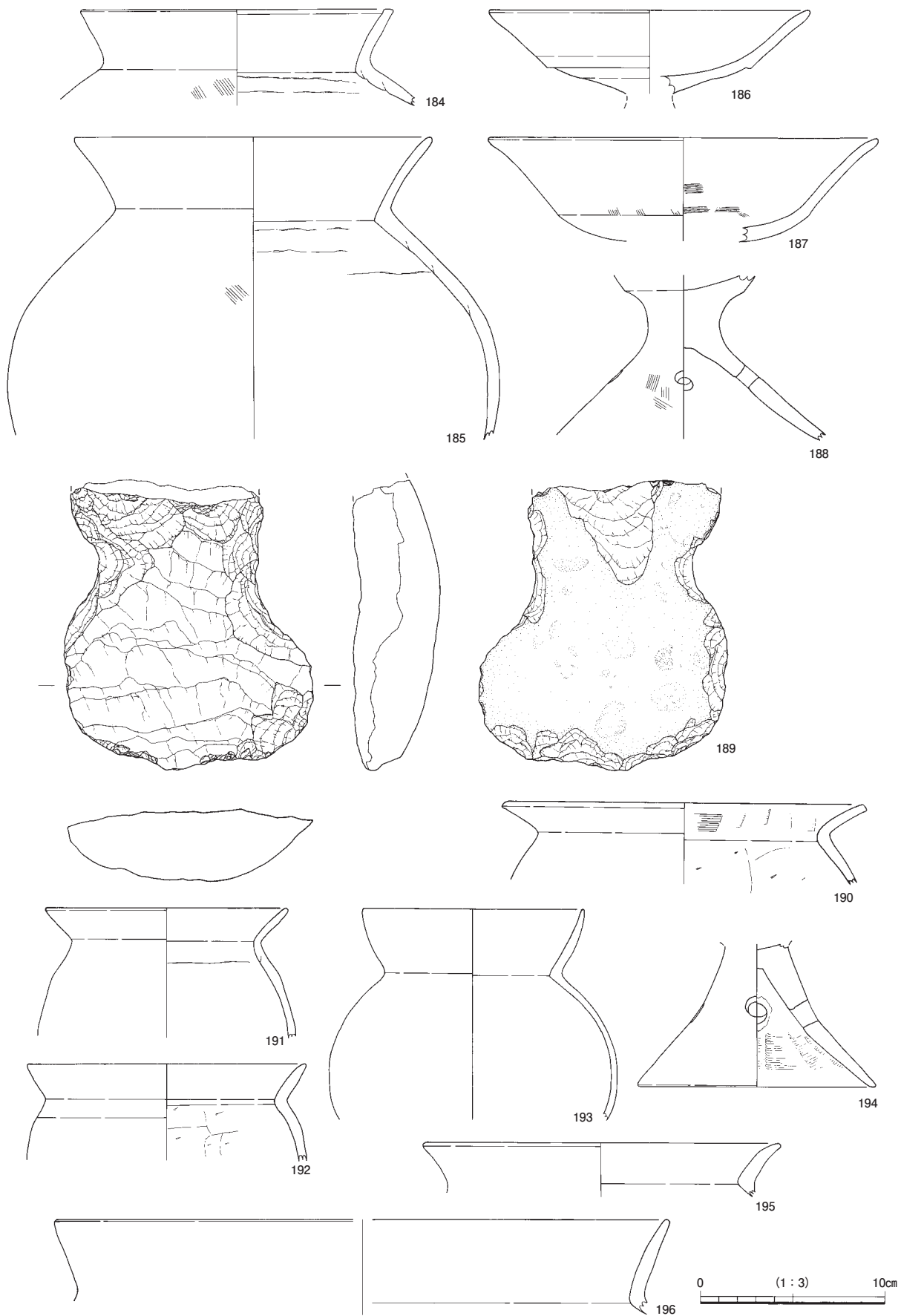
182



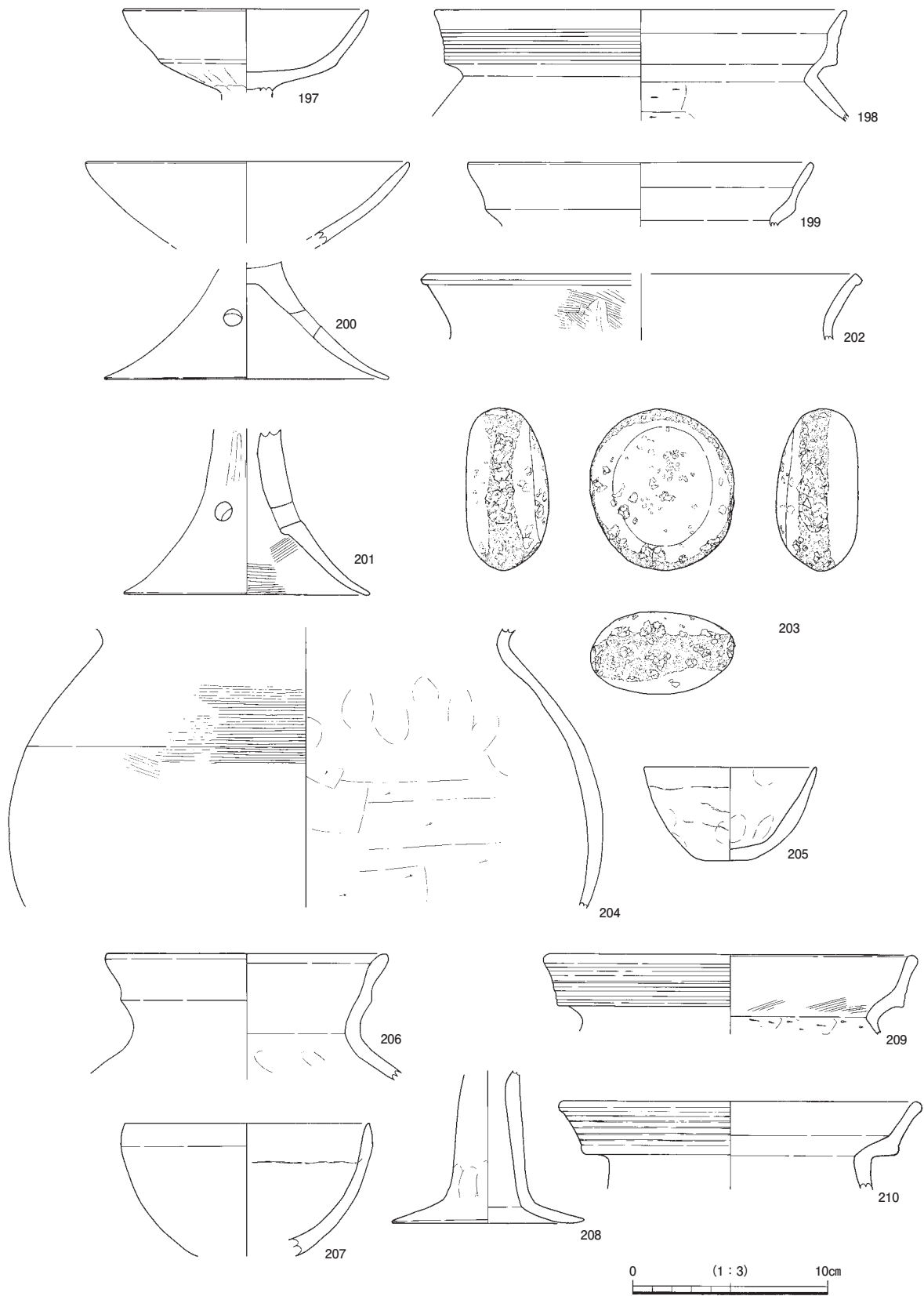
183



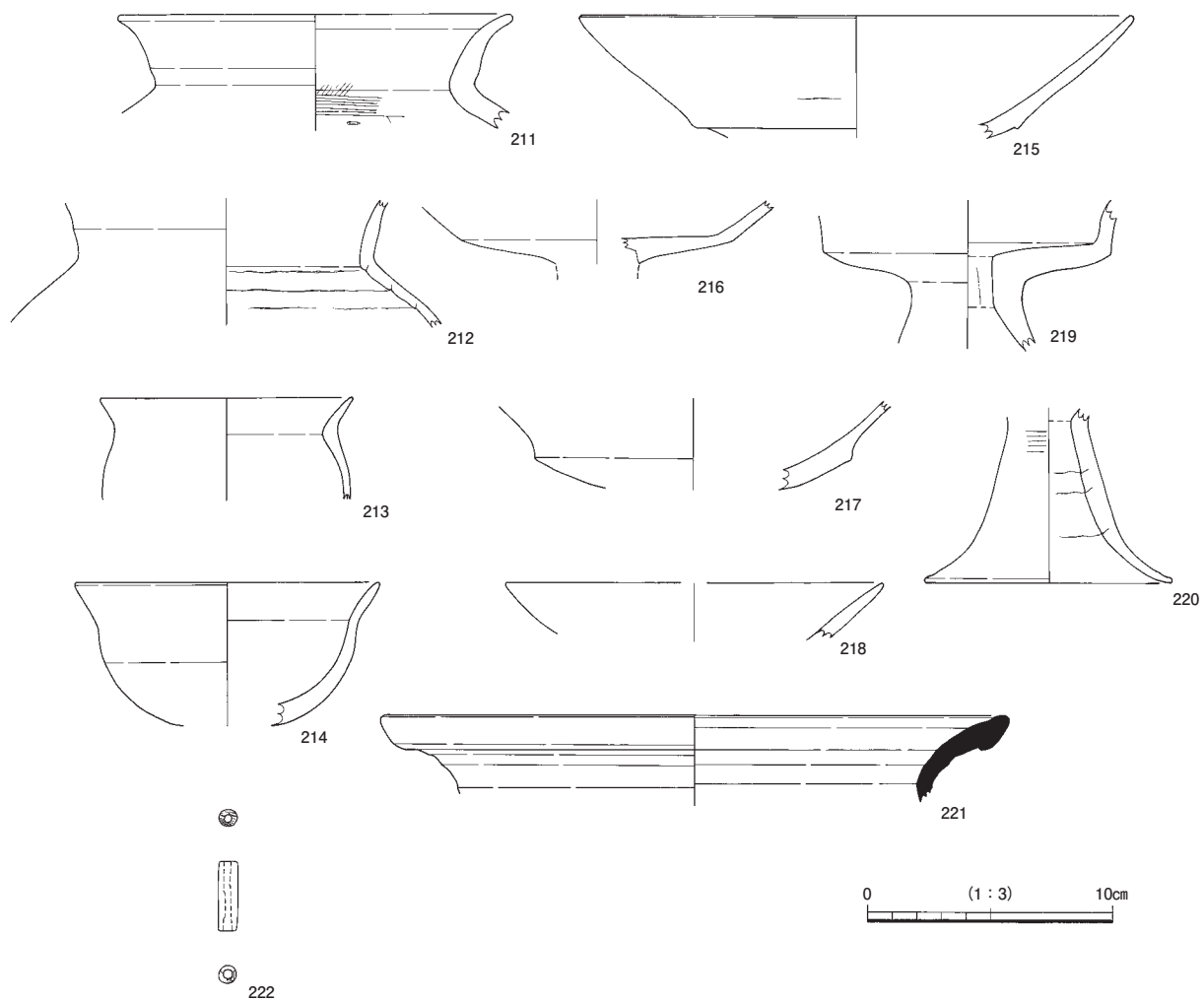
第46図 第2次調査 出土遺物実測図2



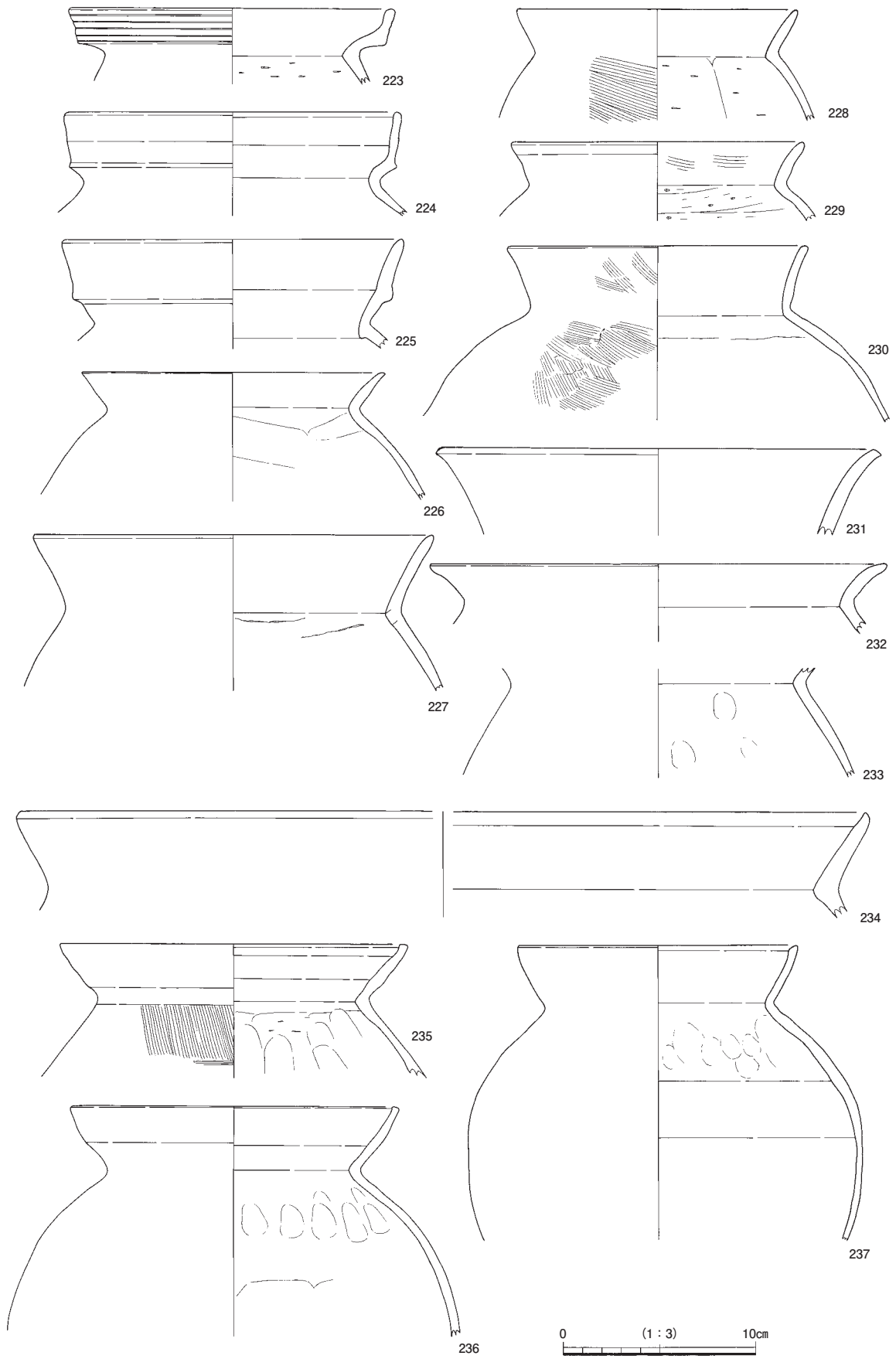
第47図 第2次調査 出土遺物実測図3



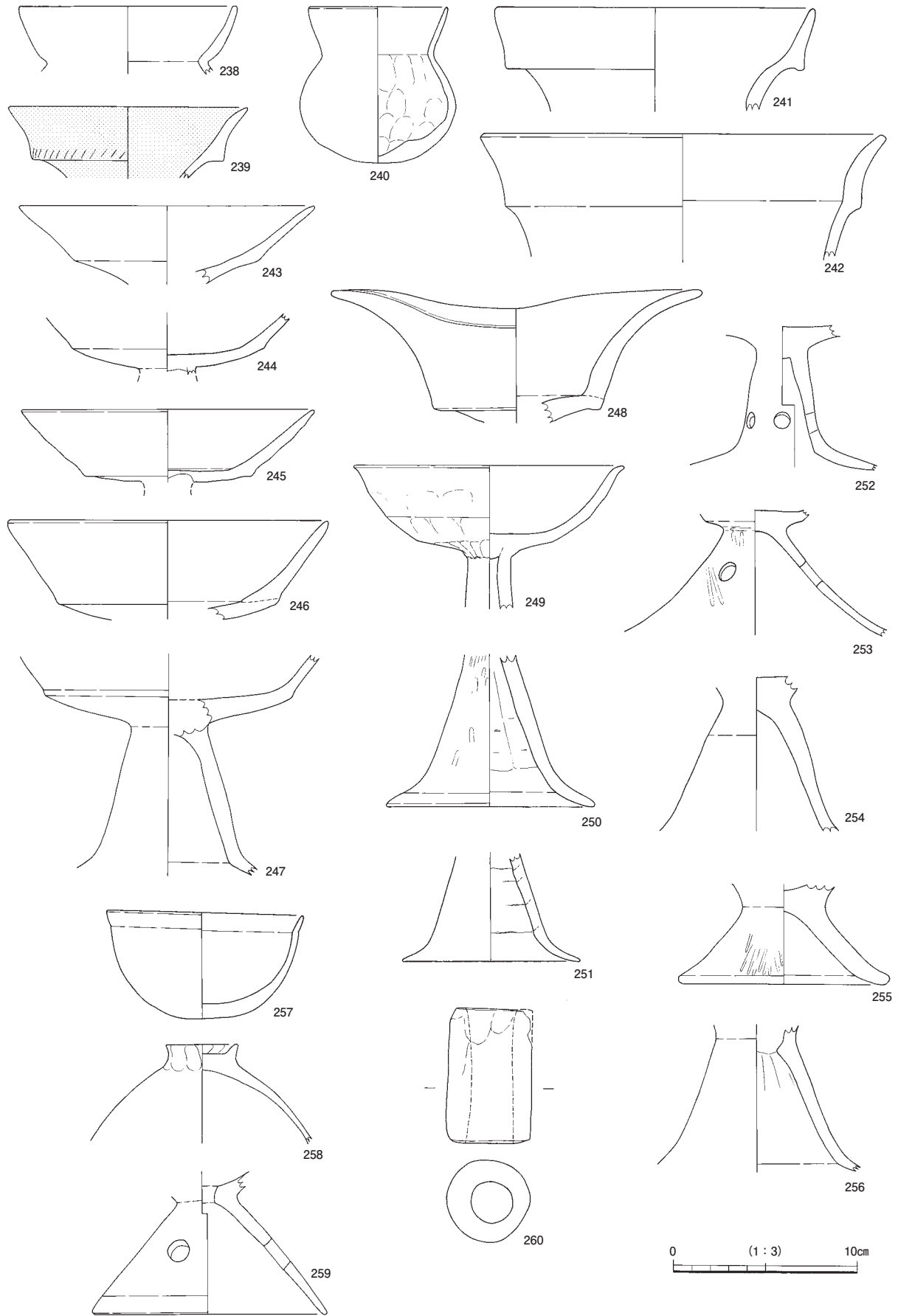
第 48 図 第 2 次調査 出土遺物実測図 4



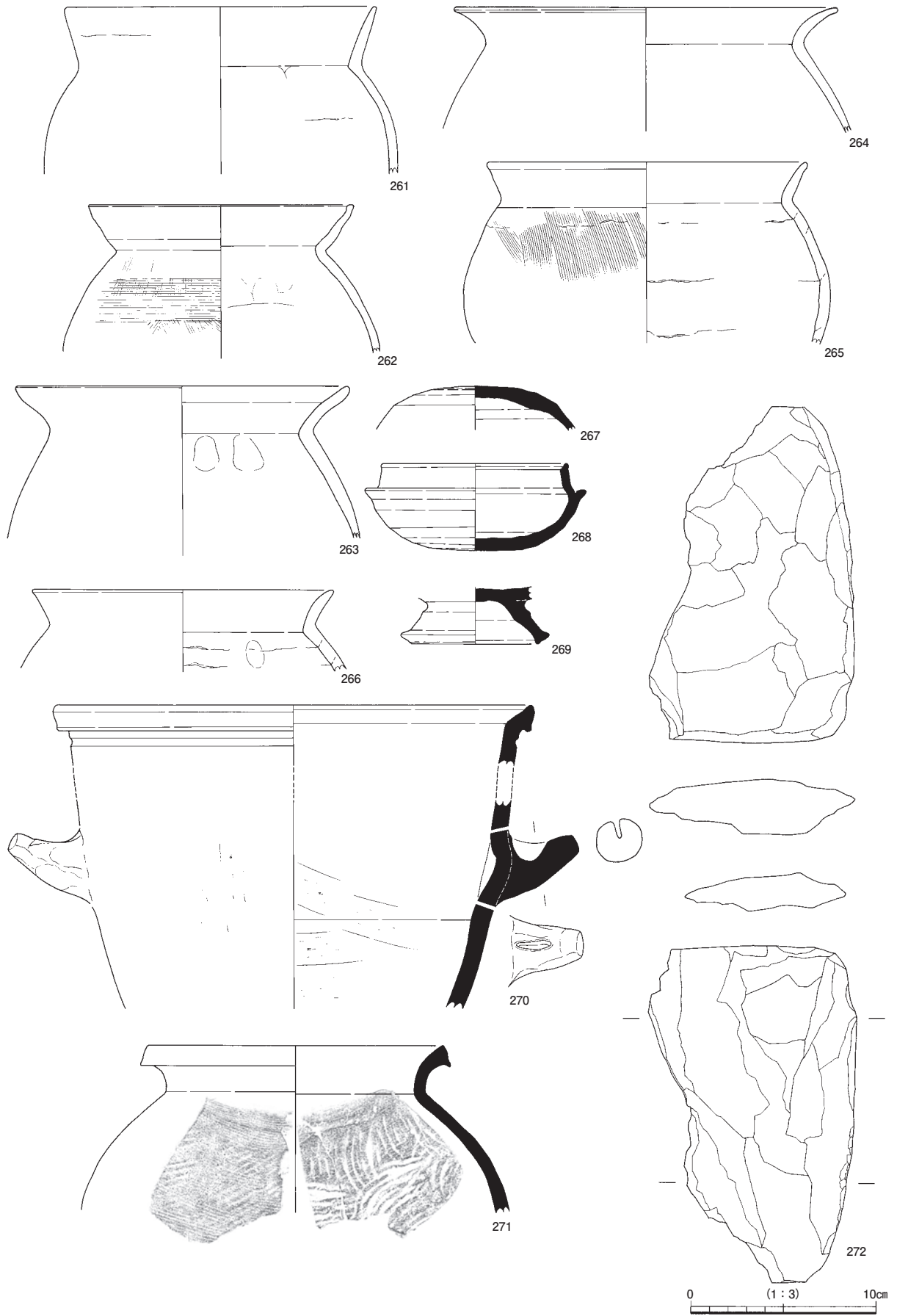
第49図 第2次調査 出土遺物実測図5



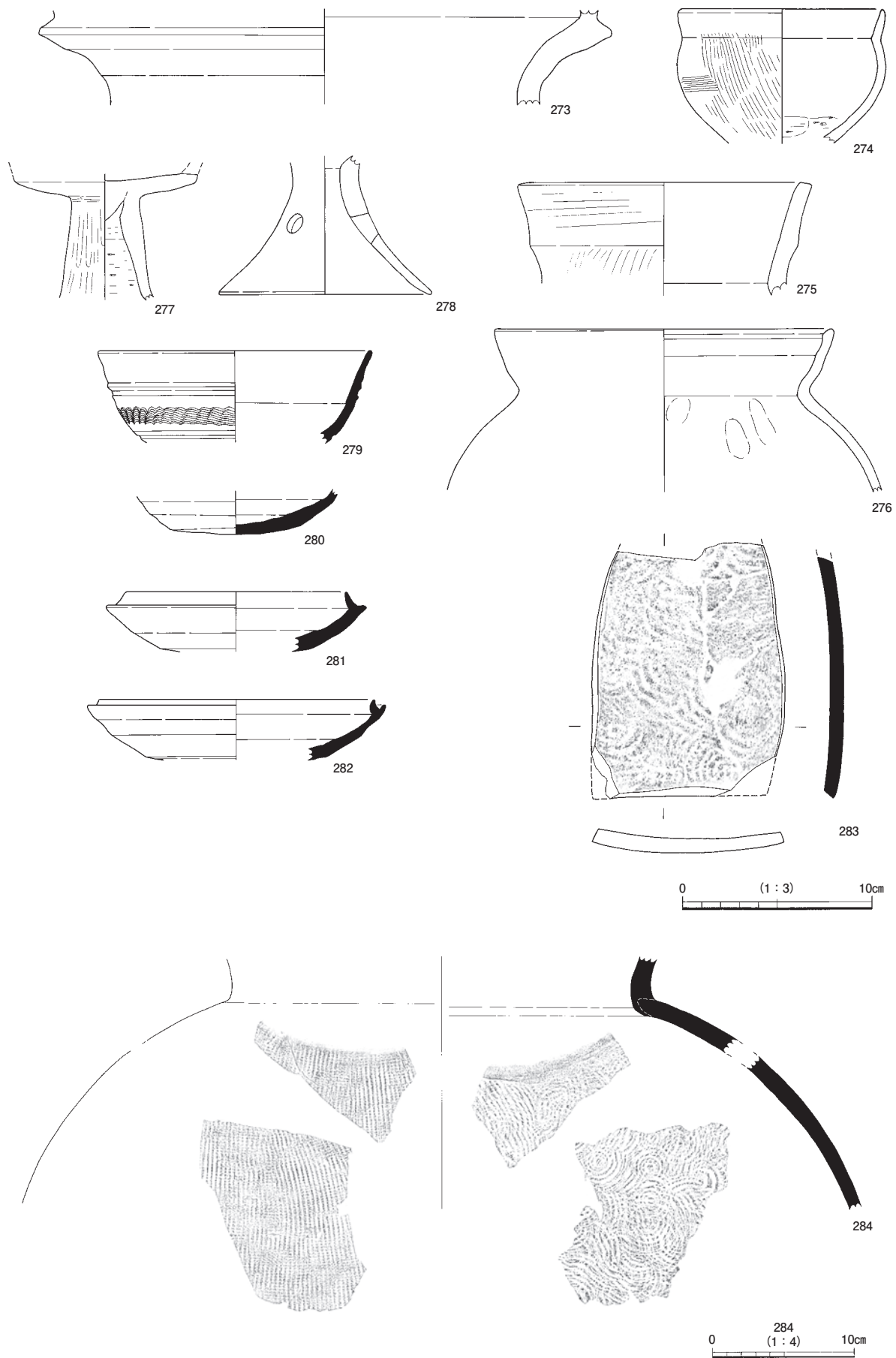
第 50 図 第 2 次調査 出土遺物実測図 6



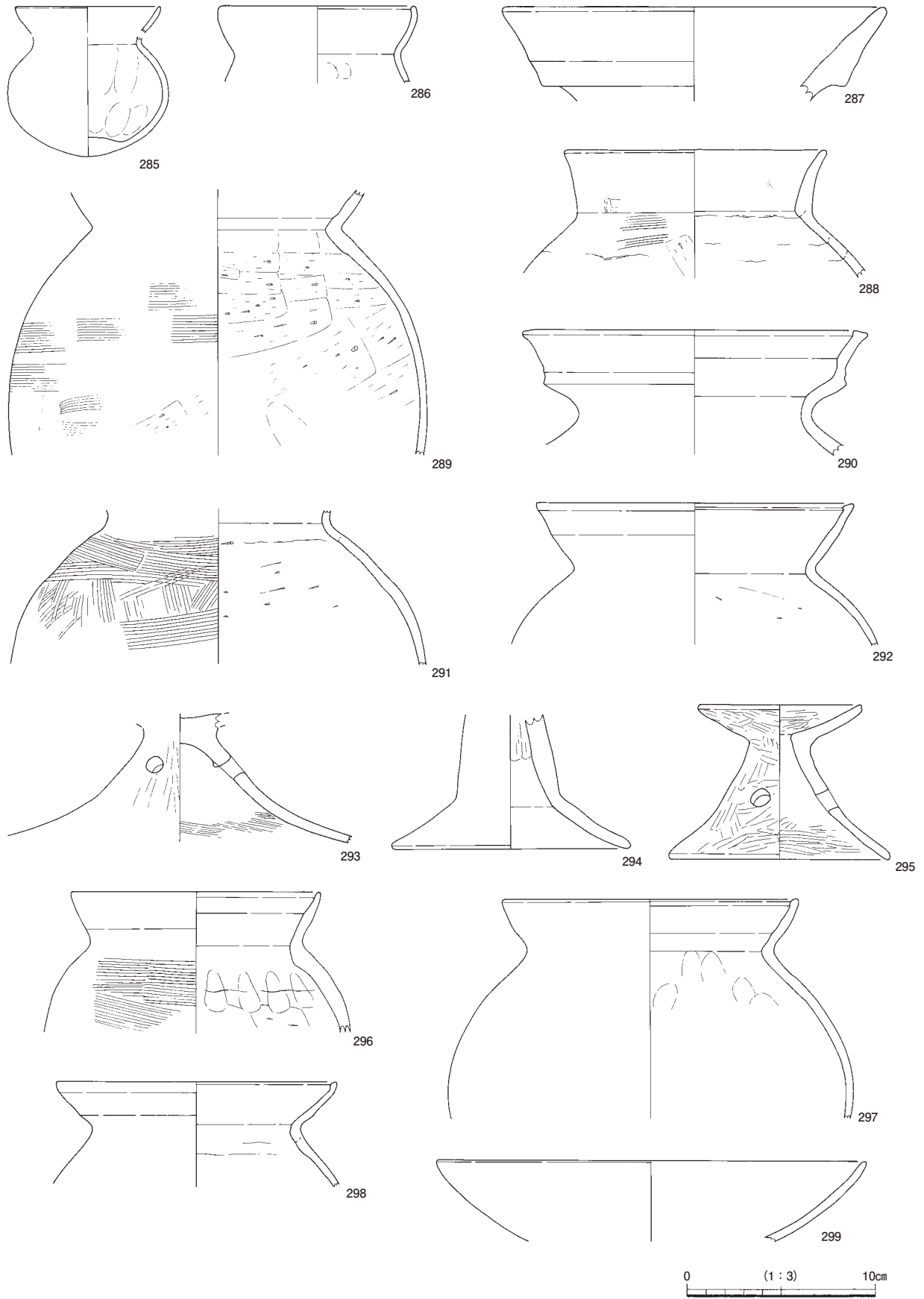
第51図 第2次調査 出土遺物実測図7



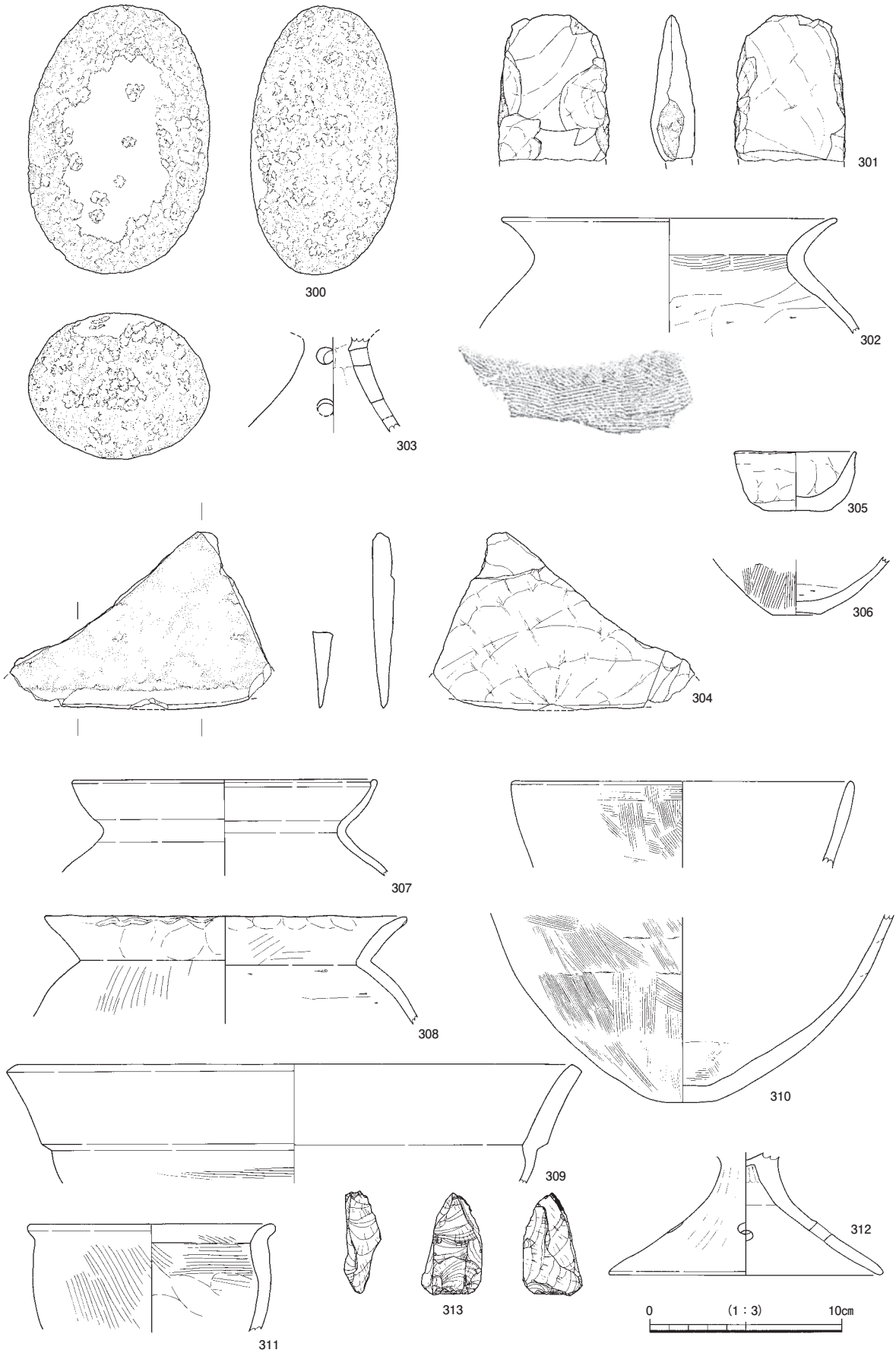
第 52 図 第 2 次調査 出土遺物実測図 8



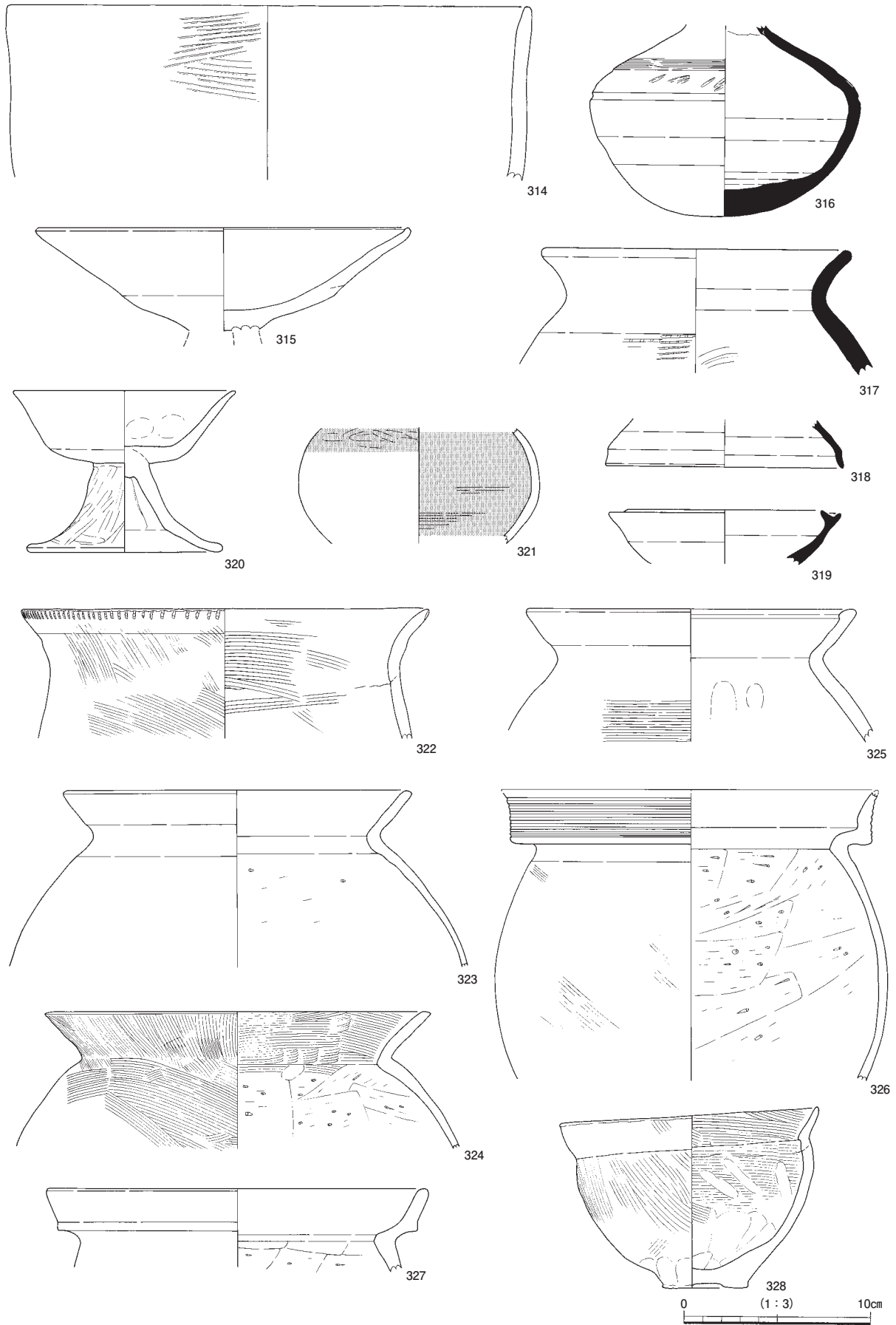
第53図 第2次調査 出土遺物実測図9



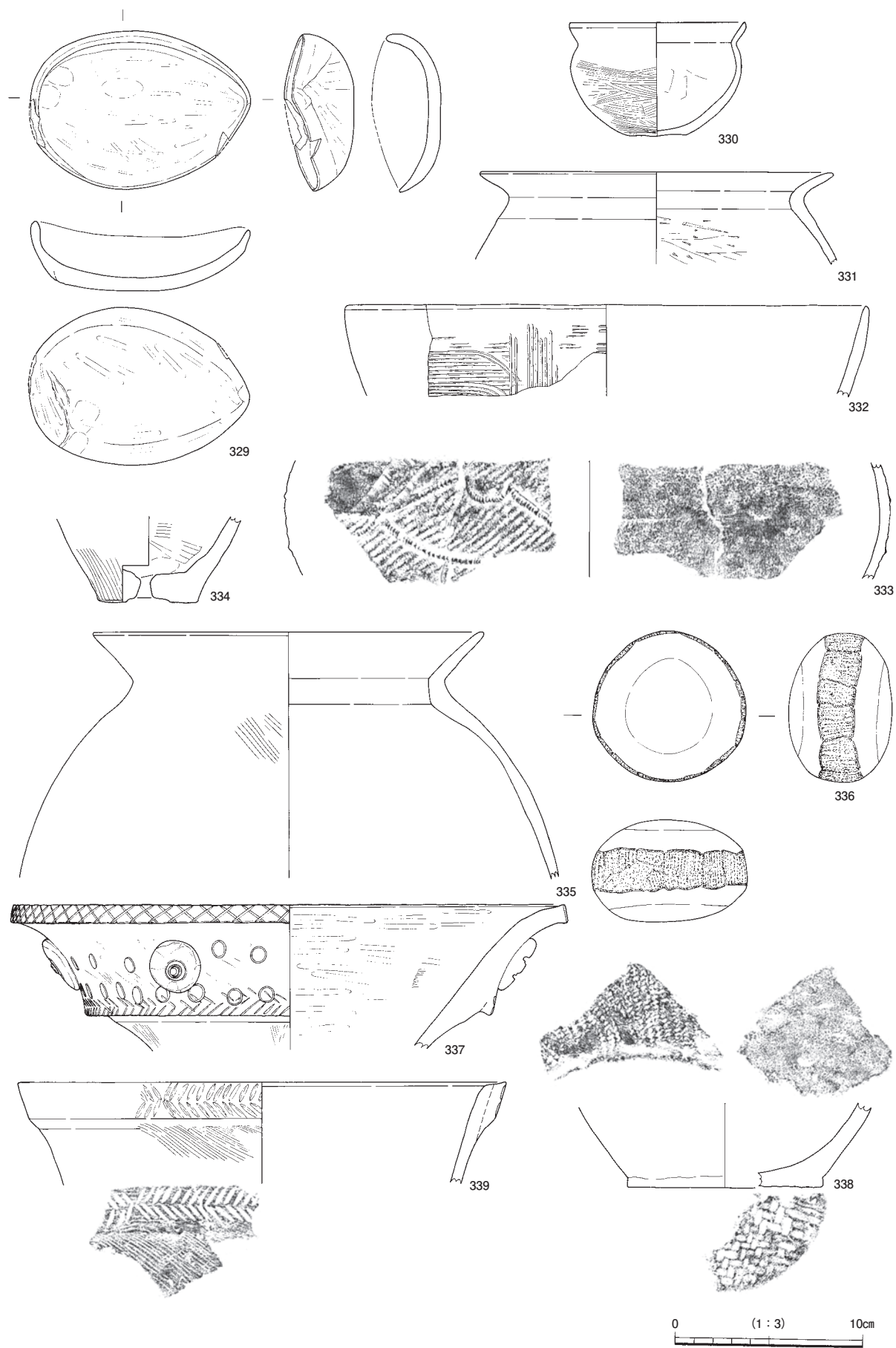
第54図 第2次調査 出土遺物実測図10



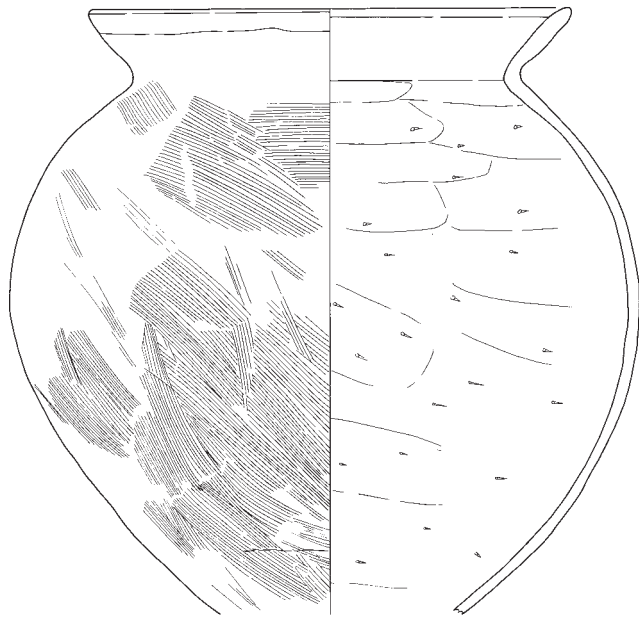
第55図 第2次調査 出土遺物実測図 11



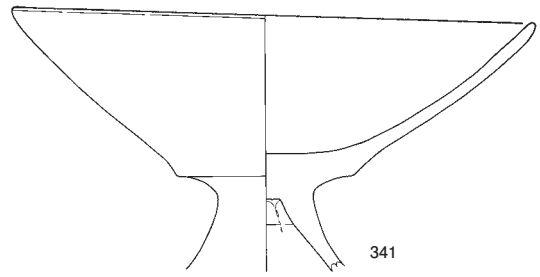
第56図 第2次調査 出土遺物実測図12



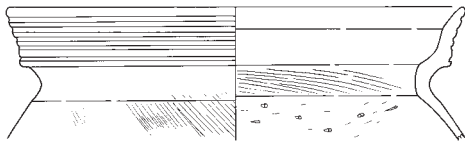
第57図 第2次調査 出土遺物実測図13



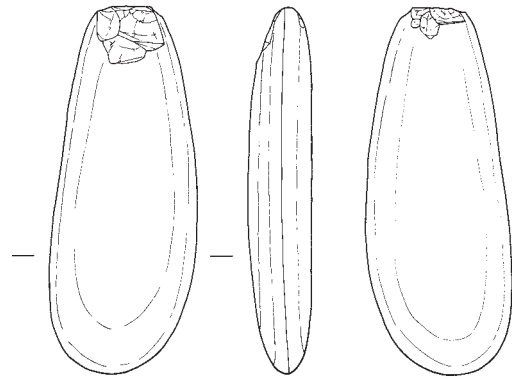
340



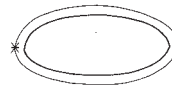
341



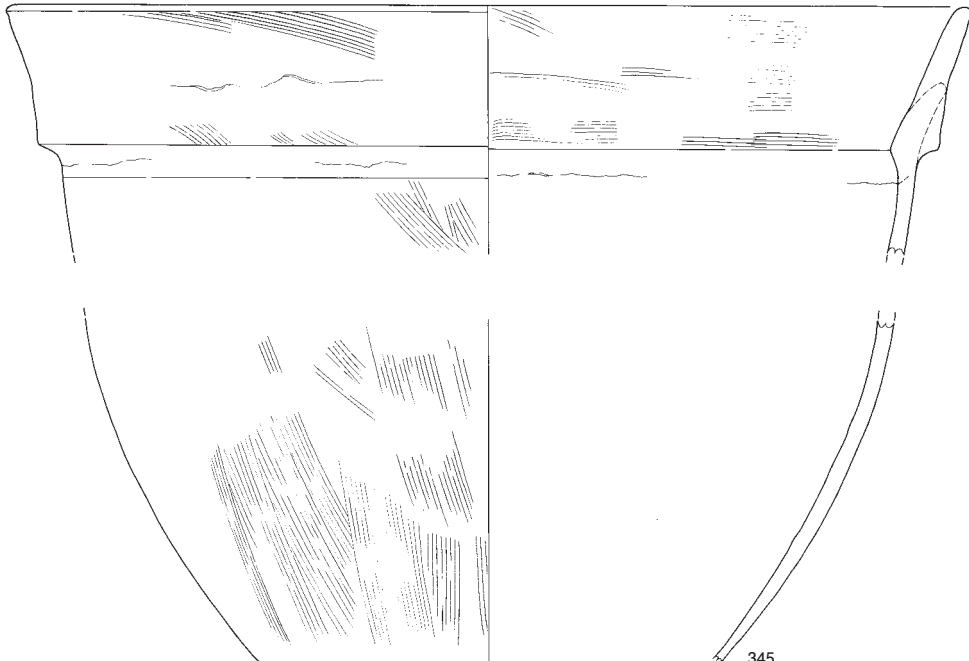
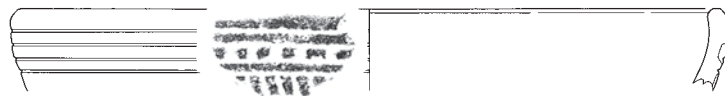
344



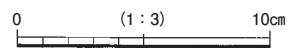
342



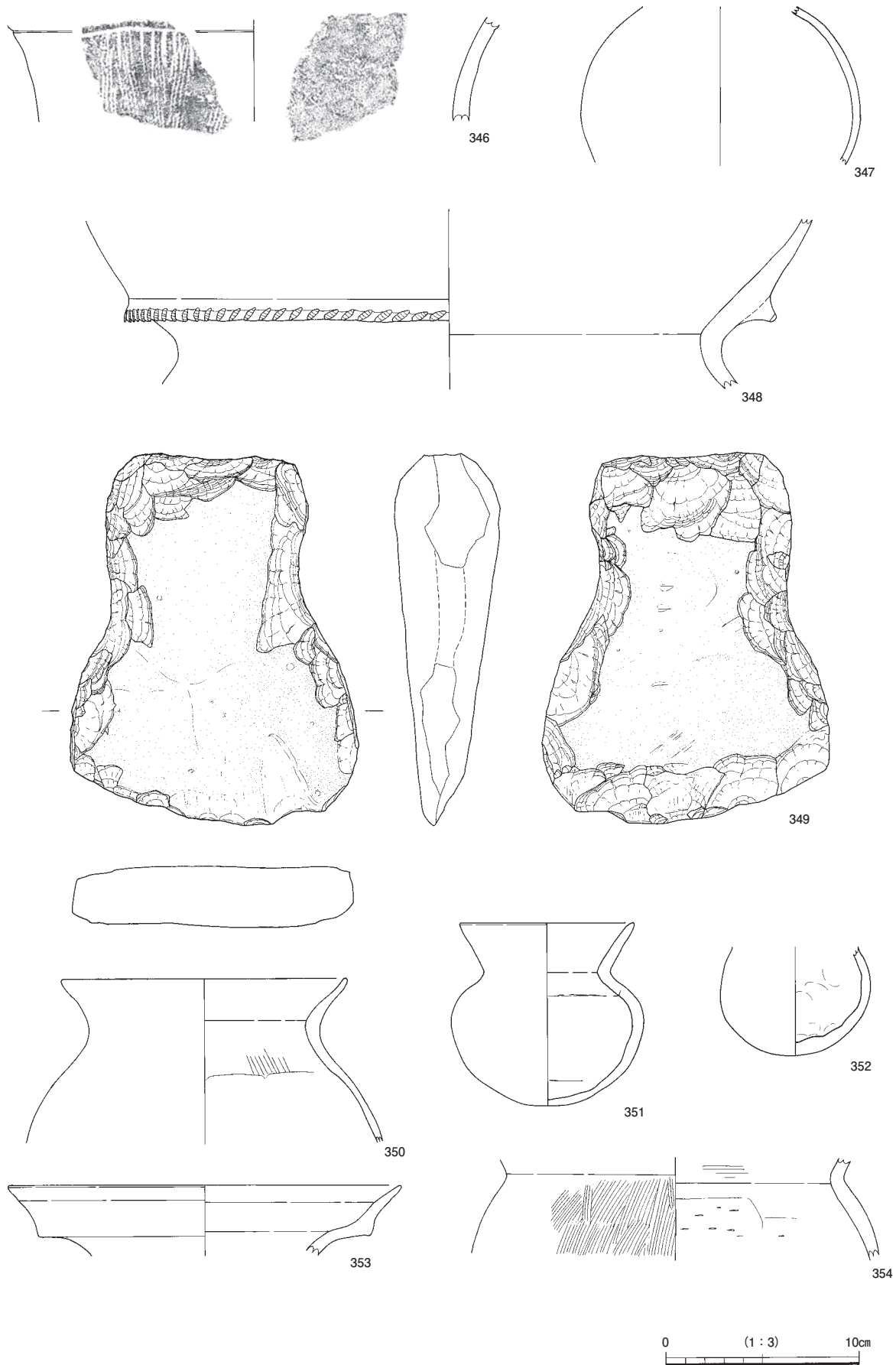
343



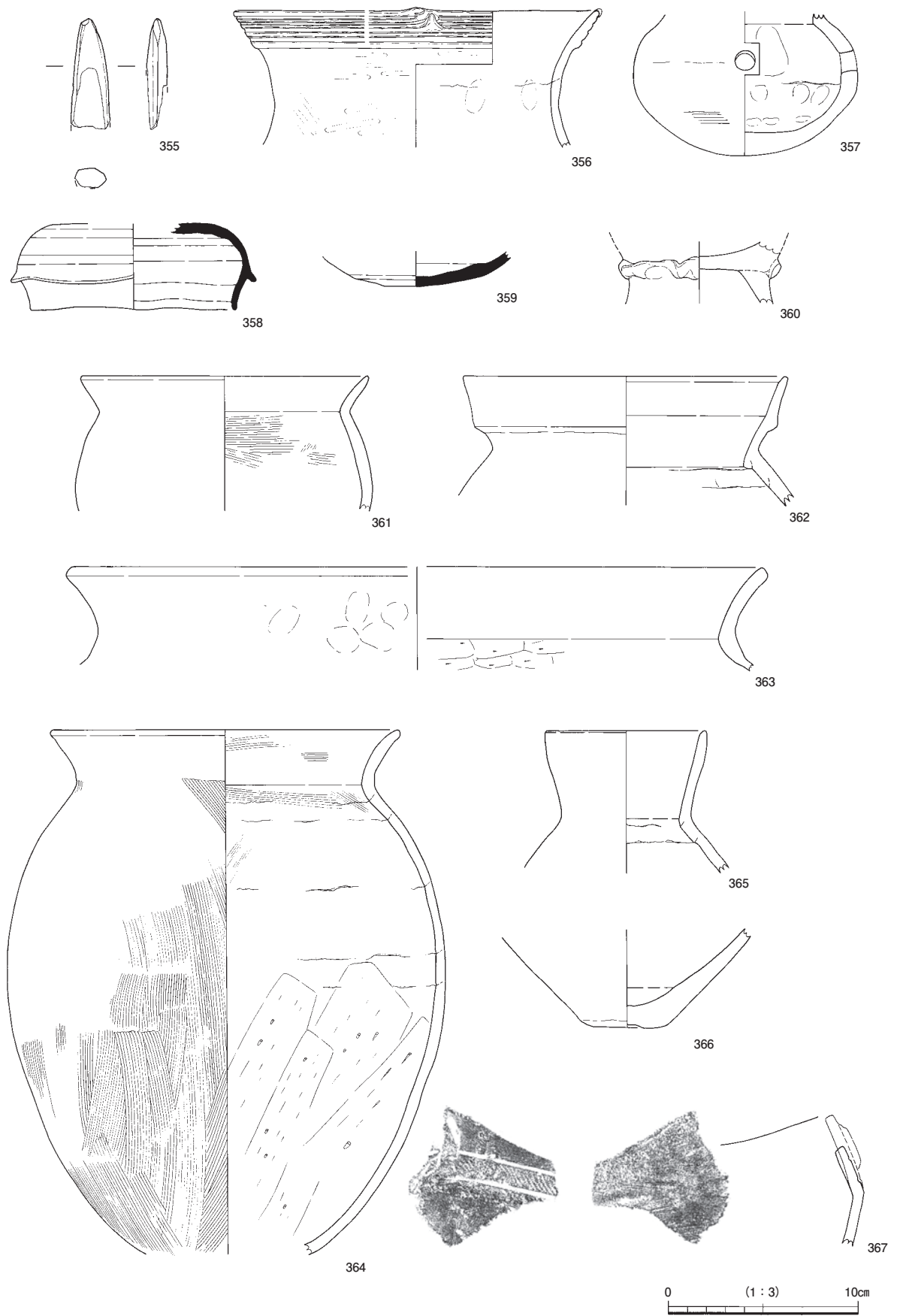
345



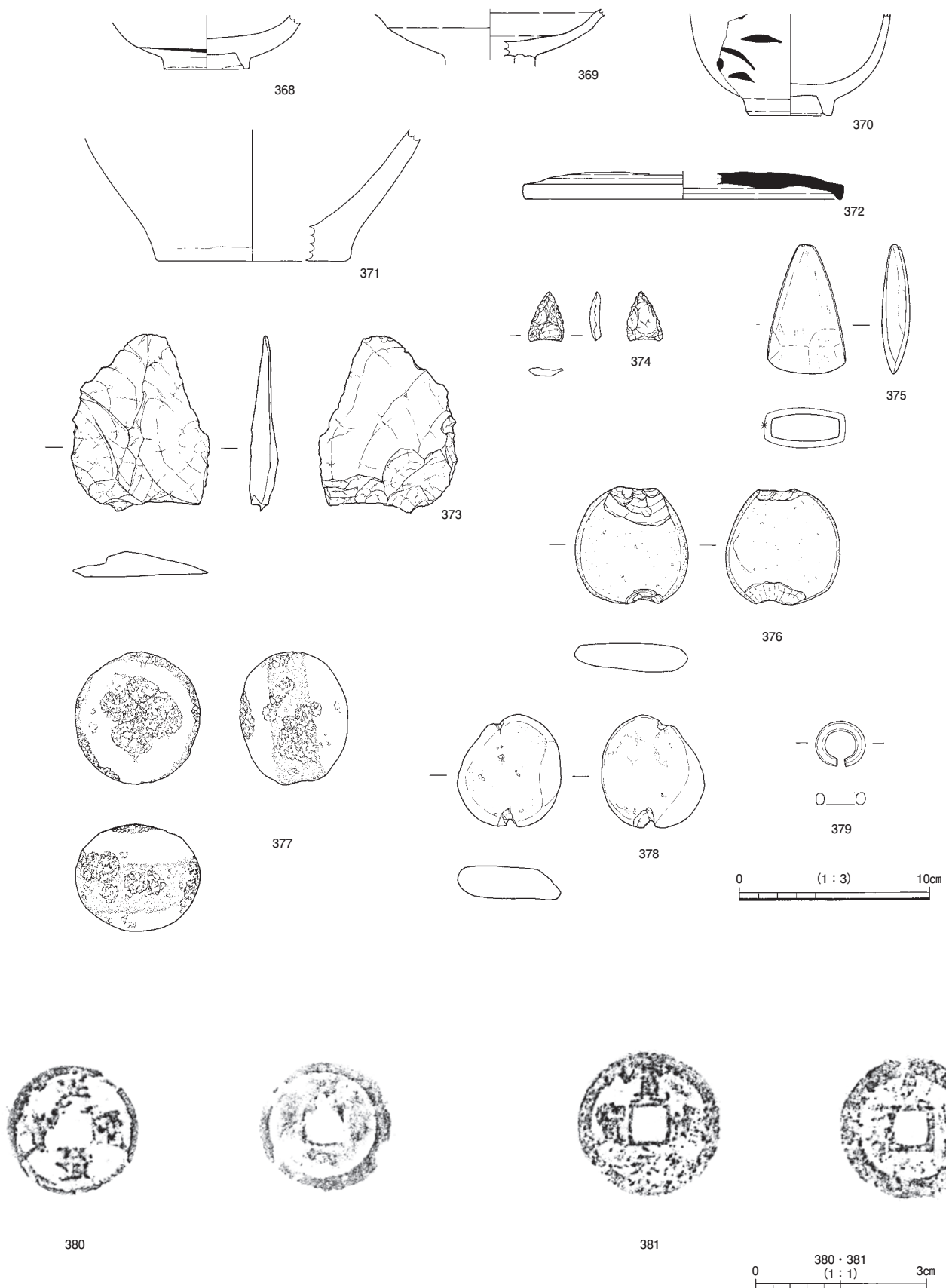
第58図 第2次調査 出土遺物実測図14



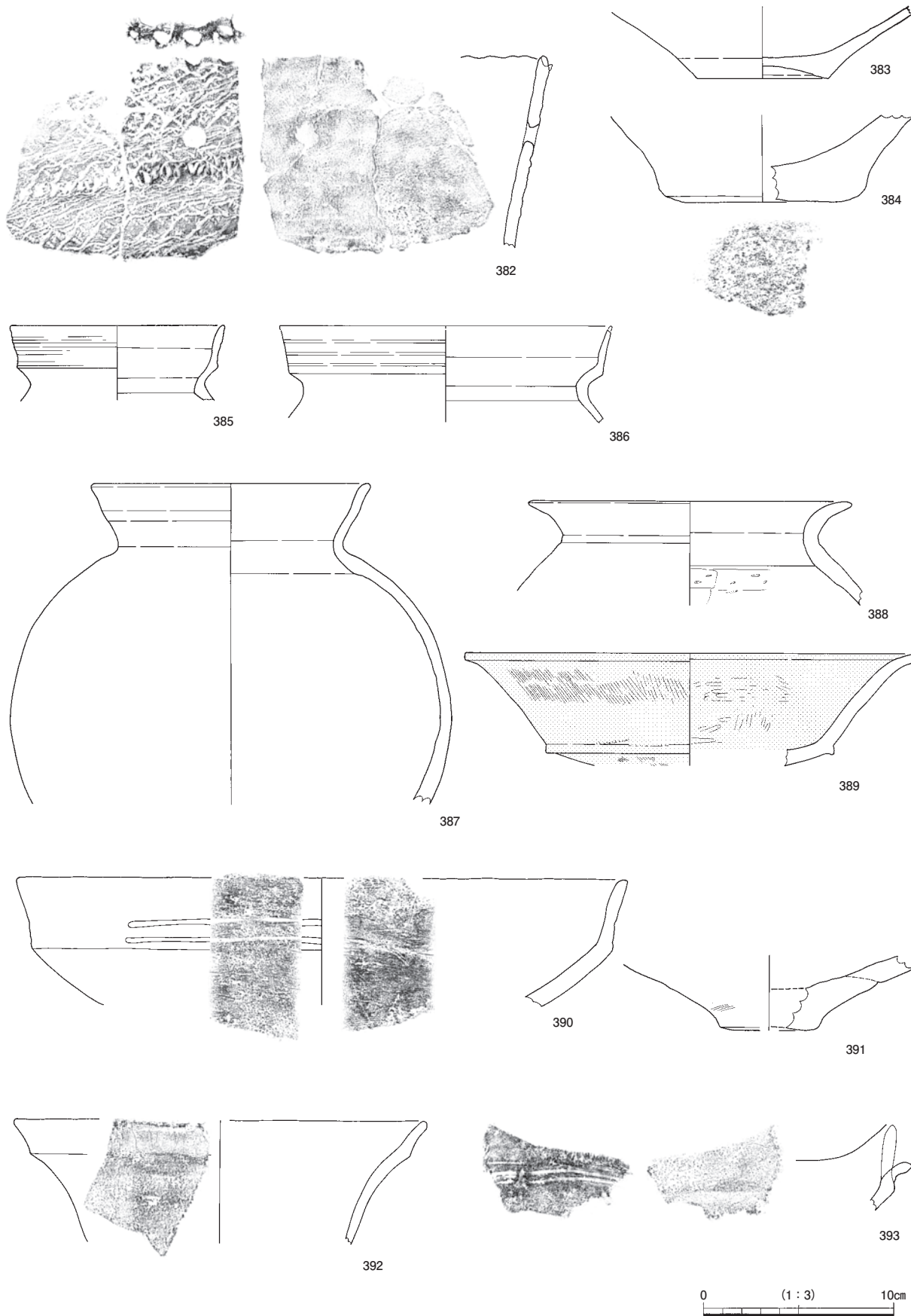
第59図 第2次調査 出土遺物実測図15



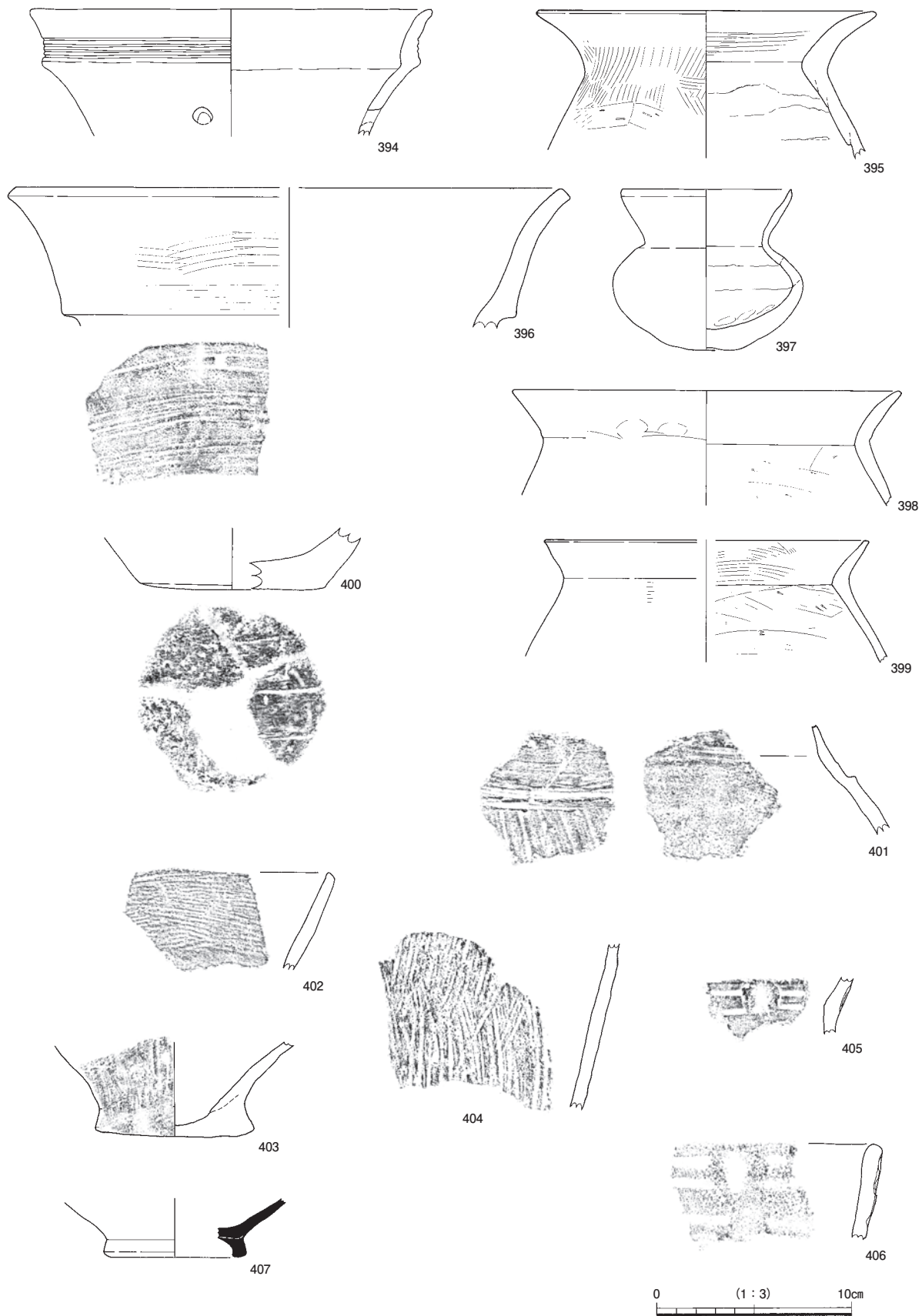
第60図 第2次調査 出土遺物実測図16



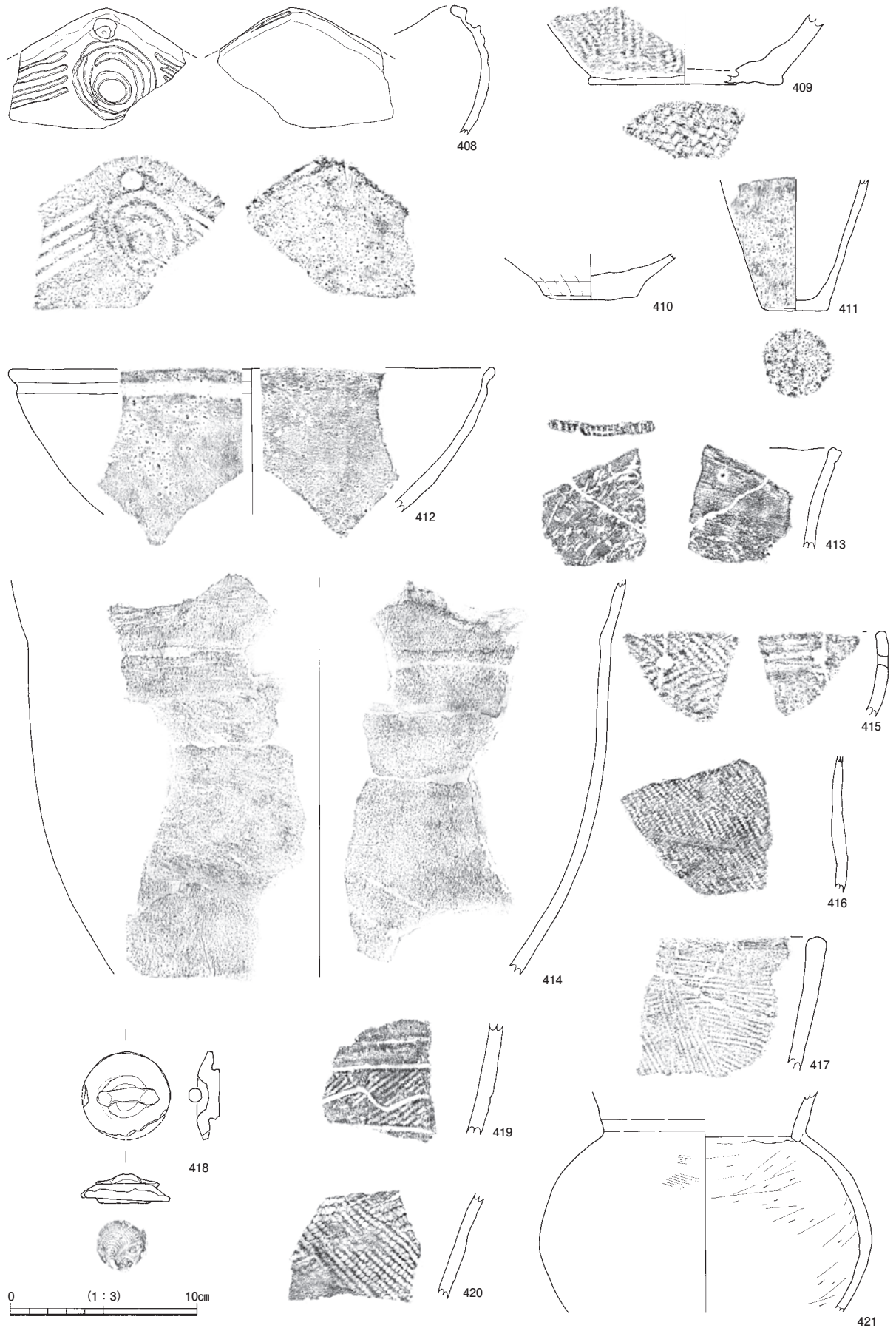
第61図 第2次調査 出土遺物実測図17



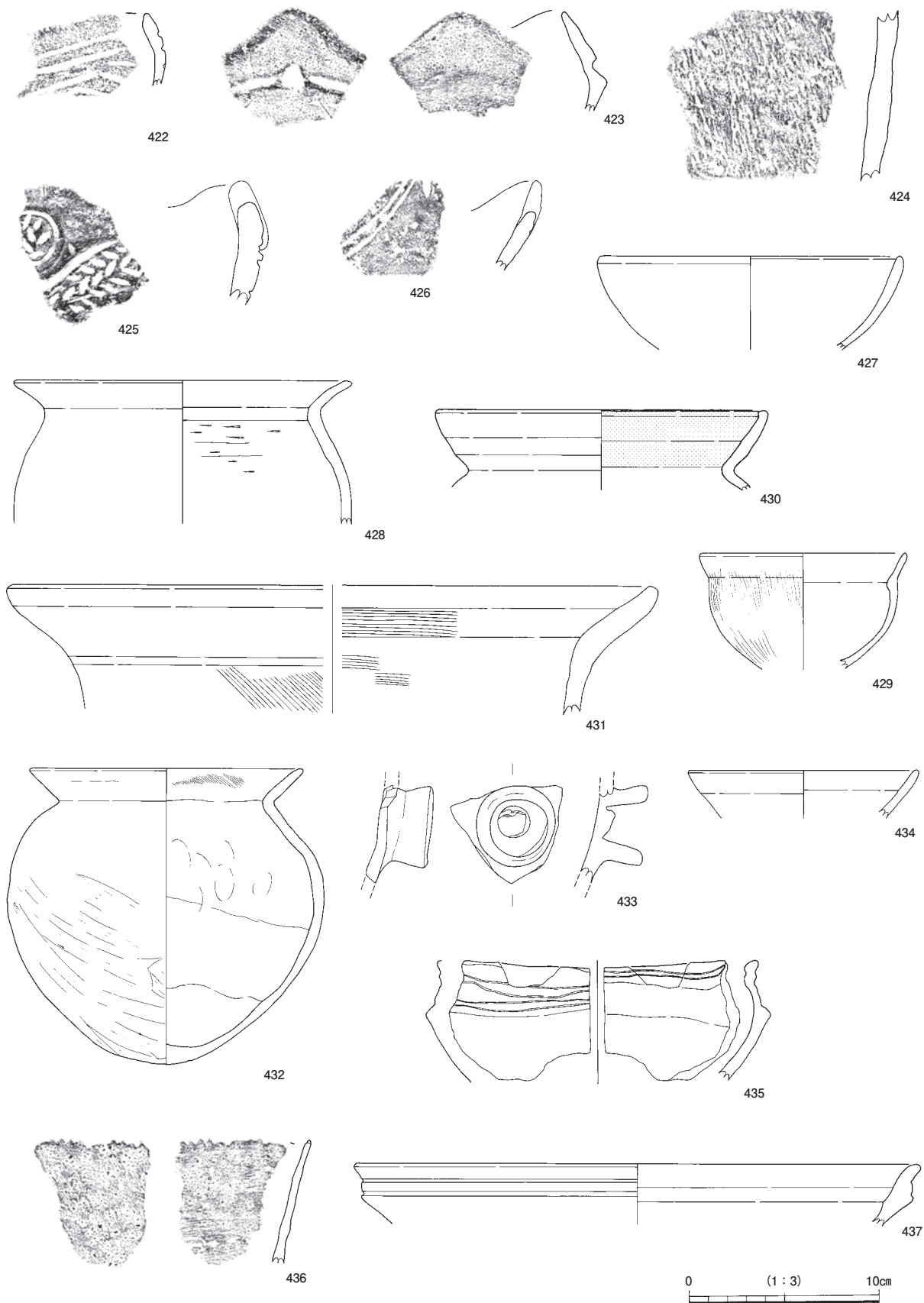
第 62 図 第 3 次調査 出土遺物実測図 1



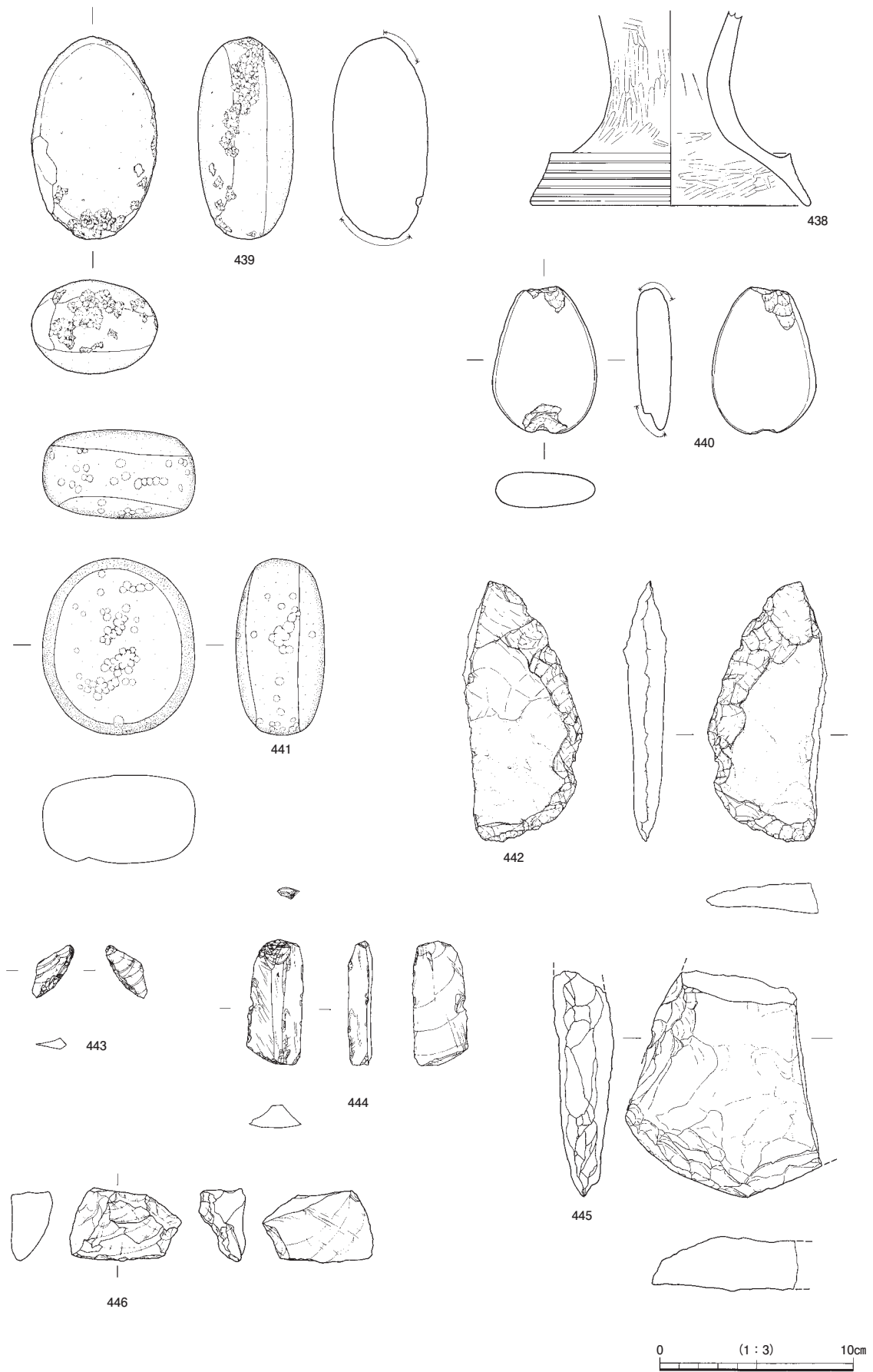
第63図 第3次調査 出土遺物実測図2



第64図 第3次調査 出土遺物実測図3



第65図 第3次調査 出土遺物実測図4



第 66 図 第 3 次調査 出土遺物実測図 5

第1表 土器・陶磁器観察表1

報告 番号	実測 番号	年次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
1	D7	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層 No.7	製塩 土器	平底		7.8	(2.9)	橙	橙	砂粒多	ハケ	ケズリ、ナデ	底部4/12	
2	D5	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	製塩 土器	平底		8.4	(2.9)	淡橙	橙	砂粒多、小礫	ハケ	指ナデ、指頭 圧痕、ケズリ	底部9/12	
3	D9	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	製塩 土器	平底		13.6	(3.9)	橙	橙	砂粒多	ハケ	指頭圧痕	底部3/12	
4	D8	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	製塩 土器	平底		11.0	(4.4)	橙	橙	砂粒多	ナデ、ハケ	指頭圧痕		
5	D6	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	製塩 土器			18.4	(8.8)	黄橙	黄橙	砂粒多、赤色粒	指頭圧痕、 ハケ	ナデ、指ナ デ、指頭圧痕	口縁1/12	
6	D12	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	土師器	支脚		8.0	(6.9)	橙	橙	細砂、砂粒	横方向のケ ズリ	ミガキ	底部3/12	
7	D17	1次	第1トレ 中央～東 青灰砂上層～中層	須恵器	蓋		16.4	(3.0)	黄灰	灰		ロクロナデ	ケズリ、 ロクロナデ	口縁2/12	重ね焼き痕
8	D199	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.17	土師器	甕		16.0	(9.0)	橙	橙	砂粒多	ハケ	ハケ	口縁1/12	
9	D23	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	高坏		16.2	(4.6)	黄橙	黄橙	細砂少	不明	ヨコナデ、雑 なナデ	口縁1/12	
10	D26	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.20	須恵器	坏身		14.2	(4.3)	暗灰	暗灰	砂粒、石英	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ?	口縁2/12	
11	D25	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.20	須恵器	高坏		10.0	(4.4)	暗灰	灰	細砂多	ロクロナデ	ロクロナデ	底部3/12	
12	D19	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	注口 鉢		21.0	11.0	黄	黄褐	砂粒	横方向のナ デ	ナデ、ハケ	口縁4/12	
13	D194	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	甕		7.0	(4.2)	灰白	黄橙	砂粒、焼土塊	ナデ	ナデ、ケズリ	底部3/12	
14	D10	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	支脚		6.2	(5.4)	橙	褐	砂粒多	ナデ、 指頭圧痕	指頭圧痕	底部2/12	
15	D11	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	支脚		6.0	(3.9)	橙	橙	細砂多	不明	指頭圧痕	底部2/12	
16	D195	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.20	土師器			5.3	8.8	灰白	灰白	砂粒多、焼土塊	工具による ナデ?	工具による ナデ?		ヘラ記号あり、ゆがみあり
17	D192	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.20	土製品	土錘					灰白	砂粒、透明粒		指ナデ		最大長7.1cm最大幅4.3cm最大 厚4.1cm孔径1.4cm、重量123g
18	D179	1次	第1トレ 中央 青灰粗砂 NO.29	土師器	土錘					にぶい橙	粗砂並				最大長6.8cm、最大幅3.8cm、 最大厚3.8cm、口径1.2cm
19	D13	1次	第1トレ 青灰砂下層 東隅一括 No.9	土師器	壺		8.6	(7.1)	橙	黄褐～ 灰褐	砂粒	ナデ	ヨコナデ、 ハケ	口縁2/12	
20	D18	1次	第1トレ 青灰砂下層 東隅一括 No.9	土師器	高坏		11.5	(6.9)	灰黄褐～ 黒	橙	細砂の細砂、赤色 粒	不定方向の ナデ	ミガキ、 ヨコナデ	底部2/12	内面黒斑
21	D22	1次	第1トレ 青灰砂下層 東隅一括 No.8	土師器	器台			(9.1)	黄橙	浅黄	細砂、赤色粒	上下方向の ナデ、不定 方向のナデ	不定方向の ナデ、工具 によるナデ、 ミガキ		外面黒斑
22	D15	1次	第1トレ 東隅 青灰砂粒 No.11	須恵器	坏身			(4.3)	灰黄	黄灰	細砂、赤色粒	ロクロナデ	ロクロナデ	体部1/12	
23	D27	1次	第1トレ 西隅 灰砂粒 No.15	須恵器	盤		11.8	(1.9)	灰	灰	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラ切り	底部2/12	
24	D28	1次	第1トレ 西隅 灰砂粒 No.15	製塩 土器	支脚		7.0	(4.4)	浅黄橙	褐	砂粒多	工具による ナデ、ケズリ	不明	底部1/12	
25	D24	1次	西スミ 青灰砂粒 No.15	製塩 土器			13.6	(9.3)	黄橙	黄橙	砂粒、赤色粒	ナデ、ハケ	ハケ、指ナ デ、ケズリ	口縁2/12	
26	D29	1次	第1トレ 1～4層 青灰砂粒 No.3	製塩 土器	支脚		5.6	(4.8)	橙	橙	砂粒	工具による ナデ	不明		
27	D20	1次	第1トレ 青灰砂下層 No.4	土師器	甕		16.0	(4.8)	黒褐	黒	砂粒	ヨコナデ、縦 方向のナデ	ヨコナデ	口縁3/12	外面煤付着
28	D21	1次	第1トレ 青灰砂下層 No.5	土師器	甕		16.5	(4.1)	黄褐	黄褐	細砂、砂粒少	ヨコナデ、 ケズリ	ヨコナデ	口縁3/12	
29	D16	1次	第1トレ 青灰砂下層 No.5	須恵器	蓋		14.0	(4.2)	灰	灰	砂粒多、小礫	不定方向の ナデ、ロクロ ナデ	回転ケズリ、 ロクロナデ、 沈線	口縁1/12	外面降灰
30	D14	1次	第1トレ 青灰砂下層 No.5	須恵器	壺			(5.5)	灰	灰	砂粒	ヨコナデ、 ロクロナデ	ナデ、沈線、 刻み		
31	D30	1次	第1トレ 青灰砂下層 No.6	土師器	高坏		12.2	(7.8)	黄	黄	砂粒	指によるナ デ、ヨコナデ	工具による調 整、ヨコナデ	底部1/12	
32	D1	1次	第2トレ 50区 最下層 No.24	須恵器	甕			(13.1)	灰	灰	砂粒多	タタキ、ナデ	タタキ、 カキ目、タタキ	小片	外面上部降灰
33	D31	1次	第2トレ 50区 最下層 No.27	土師器	長胴 甕		19.4	(14.5)	橙	橙	細砂多	ヨコナデ、 ロクロナデ	ロクロナデ、 カキ目、タタキ	口縁2/12	
34	D33	1次	第2トレ 51区 最下層 No.29	須恵器	蓋			(4.4)	暗灰	暗灰	砂粒少	ナデ、 ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ		
35	D36	1次	第2トレ 53区 最下層 No.49	須恵器	坏身		11.4	(3.3)	灰	灰	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁2/12	
36	C137	1次	第2トレ 52区 最下層 No.45	土師器	甕		16.8	(9.4)	灰黄	灰黄褐	砂粒多、赤色粒	ナデ、ケズリ	擬凹線、ナ デ、ハケ	口縁2/12	外面煤付着
37	C138	1次	第2トレ 52区 最下層 No.96	土師器	甕		16.6	(5.0)	灰黄	黒	砂粒多	ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハ ケ	口縁2/12	外面煤付着
38	C139	1次	第2トレ 55区 最下層 No.56	土師器	甕		15.6	(6.8)	灰黄褐	黒	砂粒多	ハケ、ケズリ、 指頭圧痕	ナデ、ハケ	口縁1/12	外面煤付着
39	D37	1次	第2トレ 52区 最下層 No.43	土師器	塊		11.0	(3.7)	黄橙	黄橙	砂粒、石英少	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ、 指頭圧痕	口縁1/12	
40	D38	1次	第2トレ 52区 下層 No.37	製塩 土器	支脚		8.7	(6.7)	黄橙	黄橙	砂粒	ケズリ?	工具による縦 方向のナデ	底部3/12	
41	D34	1次	第2トレ 52区 下層 No.37	製塩 土器	支脚		8.3	(7.0)	橙	橙	砂粒	工具によるナ デ回し、ナデ	工具による縦 方向のナデ	底部4/12	
42	D32	1次	第2トレ 52区 下層 No.35	備前	播鉢		35.0	(10.3)	黄橙	黄橙	小礫少	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁2/12	
43	D35	1次	第2トレ 54区 下層 No.50	須恵器	蓋		12.2	(3.7)	灰	灰	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁1/12	

第2表 土器・陶磁器観察表2

報告 番号	実測 番号	年 次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
44	D85	1次	53、2トレ 54区 最下層	土師器	小壺	6.4	4.3	6.4	灰白	灰白	砂粒多、白礫、焼 土塊	ナデ、しぼり	ナデ	口縁1/12 底部6/12	
49	D197	1次	第1トレ 中央 青灰砂粒 No.19	土師器	埴?		8.0	(2.5)	浅黄橙	黄橙	砂粒	工具による ナデ?	ナデ?、ケズ リ、指押さえ	底部4/12	
50	D84	1次	21、1トレ 中央部 青灰砂粒上面	土師器	手捏 ね	7.5	3.1	3.8	橙	橙	砂粒、白礫、 赤色粒	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	完形	
51	C140	1次	第2トレ	土師器	甕	16.8		(10.2)	黄橙	灰黄褐～ 黒	砂粒多、赤色粒	ヨコナデ、 ケズリ	擬凹線、ヨコ ナデ、ハケ	口縁1/12	外面煤付着
52	D3	1次	第3トレ 青灰砂下層 東隅一括 No.10	土師器	高坏	15.3	10.5	10.8	橙	橙	砂粒多、赤色粒	ハケ、ヨコナ デ、ケズリ、 ハケ、ナデ	ヨコナデ、指 頭によるナ デ、ハケ、ナ デ、ヨコナデ	口縁完形 底部4/12	
53	D47	1次	第3トレ 57区 下層 No.62	須恵器	壺蓋	14.0	11.1	4.3	灰	灰	細砂、砂粒多、小 礫少	ロクロナデ、 タタキ状圧 痕	ロクロナデ、 ケズリ、ヘラ 切り後ハケ	口縁 11/12 底部完形	
54	D41	1次	第3トレ 57区 下層 No.65	須恵器	蓋	13.5		4.8	灰	灰	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ、 沈線	口縁6/12	
55	D82	1次	第3トレ 57区 下層 No.62	須恵器	坏身	12.6	7.2	4.4	灰白	灰白、灰	砂粒、白礫	ロクロナデ、 ヘラケズリ	ロクロナデ、 ヘラケズリ、 回転ヘラ切り	口縁 10/12 底部完形	自然釉、ヘラ記号か?
56	C136	1次	第3トレ 57区 下層 No.62	土師器	甕	(21.8)		(6.5)	黄橙	黄橙	砂粒多	ヨコナデ、 ケズリ	擬凹線、ヨコ ナデ、ハケ	口縁1/12	
57	C135	1次	第3トレ 57区 下層 No.62	土師器	甕	13.0		(6.6)	黄橙	灰黄褐	砂粒	ナデ、ケズリ	擬凹線、 ナデ	口縁2/12	
58	D42	1次	第3トレ 57区 下層 No.62	土師器	高坏	15.8		(4.6)			細砂、砂粒多	ミガキ、ハ ケ、ヨコナデ	ミガキ	口縁3/12	
59	D81	1次	第3トレ 58区 下層 No.68	須恵器	坏身	10.8	5.8	4.4	灰白	灰白	砂粒	ロクロナデ、 ナデ?	ロクロナデ、 ヘラケズ リ?、回転ヘ ラケズリ	口縁5/12	
62	D4	1次	第3トレ SX2 土器 No.1、No.59	土師器	甕			(21.0)	黄橙	黄橙	砂粒多、小礫少	ヨコナデ、し ぼり目、ケズ リ、指頭によ るナデ、ケズ リ	ヨコナデ、ハ ケ、ナデ		外面下部黒斑
63	D48	1次	第3トレ SX02 No.58	土師器	壺			(10.4)	灰黄褐	灰黄	細砂、砂粒、赤色 粒	ミガキ	ミガキ	胴部10/12	
64	D51	1次	第3トレ SX02 No.1 No.58	土師器	高坏	15.8		(4.8)	灰黄	灰黄	細砂多、砂粒、赤 色粒	ミガキ、 ヨコナデ	ミガキ、 ヨコナデ	口縁2/12	
65	D50	1次	第3トレ SX02 No.1 No.58	須恵器	無台 坏		9.2	(2.1)	黄橙	黄灰	細砂、砂粒	ロクロナデ、 不定方向ナ デ	ロクロナデ、 ヘラ切り	底部4/12	
66	D52	1次	SX02 No.182	須恵器	高坏	11.4	9.7	8.3	灰白	灰白	細砂、石英	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナデ、 ケズリ	坏部4/12、 脚部4/12	
67	D53	1次	第3トレ SX02周辺 No.61	土師器	甕	17.0		(17.7)	橙	橙	砂粒、石英	指頭圧痕、 ケズリ	ヨコナデ、 ハケ	口縁4/12	
68	D44	1次	第4トレ 1号土坑内 No.124	縄文 土器	深鉢			(8.3)	灰黄褐	黒褐	砂粒多、小礫多、 赤色粒		半截竹管、 縄文、ナデ	小片	
69	B7	1次	第4トレ 1号土器 溜まり No.90	縄文 土器	深鉢	26.2		(7.5)	灰黄	浅黄橙	砂粒、小礫、赤色 粒	条痕、ナデ	条痕	口縁1/12	外面煤付着、口縁波状
70	B6	1次	第4トレ 1号土器 溜まり No.98	縄文 土器	深鉢	35.0		(7.9)	黄橙	浅黄橙	砂粒	ナデ	条痕	口縁1/12	口縁波状
71	B5	1次	第4トレ 2号土器 溜まり No.72	縄文 土器	深鉢	34.0		(10.1)	褐灰	褐灰	砂粒、小礫多	条痕、ナデ	条痕	口縁1/12	外面煤付着
73	C130	1次	第4トレ 2号土器 溜まり No.1、No.91	弥生 土器	有台 鉢		9.9	(4.9)	灰黄	灰黄	砂粒多	ケズリ、 指頭圧痕	ハケ、 指頭圧痕	底部 10/12	
74・ 75	C133	1次	第4トレ 2号土器 溜まり No.9、No.100	土師器	甕	17.0	3.1	(8.5+ .6)	灰黄	灰黄	砂粒多、赤色粒	ケズリ	ヨコナデ、ハ ケ	口縁3/12 底部完形	外面黒斑
76	C128	1次	第4トレ 2号土器 溜まり No.3、No.94	土師器	壺	15.2		(14.9)	黄橙	黄橙	砂粒多、小礫少	ハケ目、ナ デ	ハケ目、一部 ナデ、ヨコナ デ	口縁2/12	
77	D76	1次	第4トレ 2号土器 溜まり下層 No.103	縄文 土器	鉢		9.5	(3.6)	暗灰黄	暗灰黄	砂粒多、礫砂粒	条痕、 ナデ?	条痕? ナデ?	底部完形	
78	C123	1次	第4トレ 1号溝 No.107	弥生 土器	甕	16.2		(4.4)	黄灰	黄灰	砂粒多	ヨコナデ、 ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナ デ	口縁2/12	
79	D77	1次	第4トレ 1溝 No.113	土師器	甕	15.8		(9.7)	褐灰、 黄橙	黒、褐灰	砂粒、透明粒	ヨコナデ、 ケズリ	ヨコナデ、 ハケ	口縁1/12	
80	C124	1次	第4トレ 1号溝 No.116	土師器	壺	14.6		(3.1)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、赤色粒少	ミガキ	ミガキ	口縁2/12	
81	D105	1次	第4トレ 1号溝 No.114	土師器	甕	16.2		(5.0)	黄橙	黄橙	砂粒、焼土塊	不明	不明	口縁2/12	
82	D93	1次	第4トレ 1号溝 No.108	土師器	甕	14.2		(6.0)	黄橙	黄橙	砂粒、礫少、赤色 粒少	ヨコナデ、 ナデ?	ヨコナデ、 ナデ?	口縁2/12	
83	C126	1次	第4トレ 1号溝 No.114	土師器	器台		14.9	(4.5)	黄橙	橙	砂粒多、赤色粒少	ナデ	ナデ	底部3/12	
84	D73	1次	第4トレ 1溝 No.109	土師器	埴	14.6	6.0	5.7	浅黄橙、 褐灰	浅黄橙、 褐灰	砂粒、透明粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転糸切り	口縁2/12 底部完形	
85	D78	1次	第4トレ 1溝 No.113	須恵器	無台 坏	12.0	6.2	3.3	灰	灰	砂粒多、白礫少	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラ切 り	口縁1/12 底部完形	
86	D103	1次	第4トレ 1号溝 No.114	須恵器	有台 坏		9.2	(1.3)	灰	青灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラ切 り	底部3/12	
87	D104	1次	第4トレ 1号溝 No.109	土師器	埴		5.2	(2.0)	灰白	橙	砂粒、透明粒、 赤色粒少	ロクロナデ	ロクロナデ	底部完形	
89	D67	1次	第4トレ 西隅 1号溝 床土および縄文層 No.120	縄文 土器	深鉢			(9.2)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、礫少、透明 粒	ナデ	半截竹管	小片	
90	C125	1次	第4トレ 4、1号溝東部 屈曲部溝底 No.121	土師器	高坏		12.4	(8.2)	淡黄	淡黄	砂粒少、細砂多、 赤色粒少	しぼり目、 ケズリ、 ハケ目、ナデ	ミガキ	底部4/12	

第3表 土器・陶磁器観察表3

報告 番号	実測 番号	年 次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
91	C129	1次	第4トレ 土器溜まり No.5、No.96	土師器	甕	19.9		(6.9)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、小礫、 赤色粒	不明	不明	口縁6/12	
92	D100	1次	第4トレ 土器溜まり No.73	土師器	甕	16.8		(4.9)	黄橙	黒、黄橙	砂粒、焼土塊	ココナデ、 ナデ	ココナデ	口縁1/12	外面煤付着？
93	C134	1次	第4トレ 土器溜まり No.75	土師器	甕		9.8	(3.8)	灰黄褐	灰黄	砂粒多、赤色粒	ケズリ	ハケ、ナデ	底部完形	外面黒斑
94	C127	1次	第4トレ 周辺 土器溜まり No.82	土師器	甕	18.4		(4.0)	黄橙	黄橙	砂粒多、小礫多	ココナデ？	ココナデ	口縁 10/12	
95	C131	1次	第4トレ 土器溜まり 周辺 No.82	土師器	甕	15.2		(7.7)	黄橙	黄橙	砂粒多	ナデ、ハケ、 ナデあげ	ハケ、ナデ	口縁1/12	
96	C132	1次	第4トレ 土器溜まり 周辺 No.82	土師器	高坏			(8.0)	浅黄橙	浅黄橙	細砂、赤色粒	ナデ	キザミ、 ミガキ		三方透かし
97	D75	1次	第4トレ 土器溜まり 周辺 No.89	縄文 土器	深鉢		7.6	(4.4)			砂粒多、礫少、 焼土塊	ナデ、条痕	ナデ、条痕	底部完形	
98	D210	1次	第4トレ 縄文 No.3 No.162	縄文 土器	深鉢	25.2		(6.0)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、小礫	ナデ、 指押さえ	条痕	口縁1/12	
99	D207	1次	第4トレ 西スミ 暗褐色 土層下の砂層 (縄文層) No.166	縄文 土器	深鉢				黄褐	褐灰	砂粒、少礫	工具による ナデ？	工具による ナデ？ナデ	小片	外面煤付着
100	B8	1次	第4トレ 西スミ 暗褐色 土層下の砂層 (縄文層) No.168	縄文 土器	浅鉢	16.7		(6.2)	黒褐	黒褐	砂粒	ナデ	ナデ	口縁1/12	外面煤付着
101	D90	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.169	縄文 土器	深鉢			(6.3)	黄橙	黄橙	砂粒、礫砂粒、 焼土塊	ナデ？条 痕？	条痕、 爪形文？		
102	D89	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.169	縄文 土器	鉢？			(11.3)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、礫砂粒、 焼土塊	工具による ナデ？	条痕		
103	D40	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 No.165	縄文 土器	浅鉢			(3.7)	黒褐	黒褐	砂粒	刺突文、 平行沈線 4条	ナデ、 刺突文		
104	D91	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.166、168	弥生 土器	壺	19.6		(2.9)	黄橙	黄橙	砂粒、礫少、焼土 塊	条痕、ナ デ、貝殻腹 縁 刺突文	ナデ、 貝殻腹縁 刺突文	口縁2/12	
105	D209	1次	第4トレ 西スミ 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.169	縄文 土器	深鉢				暗灰黄	暗灰黄	砂粒、透明粒	工具による ナデ？	縄文	小片	外面煤付着
106	D200	1次	第4トレ 西スミ 暗褐色 粘土層砂層 (縄文層) No.166	縄文 土器	鉢	25.2		(6.3)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、透明粒	工具による ナデ	ナデ、 指押さえ	口縁1/12	
107	D98	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.165、166	縄文 土器	鉢？	8.8		(3.7)	暗灰黄	暗灰黄	砂粒、礫少	条痕？ 工具による ナデ？	縄文、網代	底部6/12	
108	D92	1次	第4トレ 西隅 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.165	縄文 土器	鉢？	6.8		(5.0)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、礫少、 透明粒	条痕？	条痕、 ナデ、 爪形文	底部完形	
110	D43	1次	第4トレ 縄文 No.2 No.161	縄文 土器	深鉢	25.6		(8.0)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	ココナデ	条痕	口縁1/12	
111	D46	1次	第4トレ 縄文 No.2 No.161	縄文 土器	深鉢			(5.8)	黒褐	黒	砂粒多	ナデ	ココナデ、 条痕	小片	外面煤付着
112	D206	1次	第4トレ 西スミ 暗褐色 粘土層下の砂層 (縄文層) No.166	縄文 土器	深鉢	20.1		(5.6)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、少礫、透明 粒	工具による ナデ？	工具による ナデ？ 条痕？	口縁1/12	
113	D45	1次	第4トレ 縄文 No.3 No.161	縄文 土器	深鉢			(17.8)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多、小礫多	ナデ	条痕	小片	
114	D39	1次	第2トレ 51区 最下層 No.34	須恵器	甕			(17.6)	灰	灰	砂粒、石英	タタキ	タタキ		
115	D99	1次	第4トレ 1～3層 No.140	土師器	甕			(4.9)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、黒雲母	ロクロナデ	ロクロナデ		
116	D87	1次	第4トレ 中央部含層 No.132	須恵器	坏身	13.9	8.0	3.4	灰白	灰白	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 ナデ、回転 ヘラ切り後ナデ	口縁1/12 底部3/12	
117	D49	1次	第4調査区トレ 北側第6.7層 No.154	土師器	壺	12.0		(9.8)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、赤色粒	指頭圧痕	ハケ	口縁3/12	外面煤付着
118	D193	1次	第4トレ 4～5層 No.150	土師器	甕	14.4		(4.7)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒	ココナデ、ケ ズリ	ココナデ、ハ ケ	口縁3/12	
119	D86	1次	第4トレ 包含層 No.131	土師器	大型 壺	28.4		(9.3)			砂粒多、小礫少、 透明粒、焼土塊	ココナデ	ココナデ	口縁1/12	
120	D88	1次	第4トレ 西隅 包含層 No.135	弥生 土器	壺	17.8		(5.7)	黄灰	黄灰	砂粒、礫砂粒、 透明粒	条痕？	条痕？ナ デ？	口縁1/12	
121	D68	1次	SX01 No.176	須恵器	蓋	12.2		3.9	灰白	灰白	砂粒、白礫	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁4/12	ゆがみあり
122	D70	1次	SX01 No.174	須恵器	蓋	11.8		4.4			砂粒多、白礫	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁5/12	
123	D71	1次	SX01 No.174	須恵器	坏身	9.8		(2.7)	灰白	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラ切り	口縁2/12	
124	D72	1次	SX01 No.174	須恵器	坏身	11.0		(3.8)	灰白	灰白	砂粒多、 赤色酸化粒多	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラ切り	口縁3/12	ヘラ記号か？
125	D101	1次	SX01 No.174	須恵器	臑	12.6		(7.8)	灰	暗灰、灰白	砂粒、白礫	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁3/12	自然釉、ゆがみあり
126	D74	1次	SX01 No.174	須恵器	臑		3.0	(6.3)	灰	灰白、灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラケ ズリ	底部3/12	自然釉
127	D69	1次	SX01 No.176	須恵器	蓋	12.6		3.9			砂粒、白礫	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラ切り		ヘラ記号あり、ゆがみあり、 自然釉
128	D97	1次	SX01 No.170	土製品	土錘				橙、灰白		砂粒、焼土塊		指によるナ デ		最大長7.0cm最大幅5.2cm最大 厚5.1cm孔径1.6cm重量160g
129	D102	1次	SX01 No.174	土師器	甕	23.7		(6.5)	黄橙	黄橙	砂粒	ココナデ、ケ ズリ	ココナデ、ハ ケ	口縁4/12	
130	D2	1次	SX01 No.174	須恵器	甕	18.8	10.8	20.3	灰白	灰白	砂粒多	ロクロナデ、 指頭による ナデ、ケズリ	ロクロナデ、 カキ目、ケズ リ、指押さえ	ほぼ完形	
131	D80	1次	SD2周辺 No.172	土師器	皿	9.7	4.6	2.1	灰白	灰白	砂粒、赤色粒少	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転糸切り？		赤彩か？(摩耗)

第4表 土器・陶磁器観察表4

報告 番号	実測 番号	年次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
132	D79	1次	SD2周辺 No.172	須恵器	有台 坏		7.0	(3.2)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転糸切り	底部6/12	
133	B9	1次	No.206	縄文 土器	深鉢	31.0		(25.8)	灰黄褐	灰黄	砂粒多	ケズリ、条痕、 一部ミガキ	ミガキ、条痕	口縁1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
134	D57	1次	No.21	土師器	皿	12.6	9.6	2.6	灰白	灰白	砂粒僅、赤色粒少	不明	不明	口縁2/12	
135	D198	1次	4層 青灰砂 No.2	土師器	甕	18.8		(3.7)	黄橙	黄橙	砂粒	ロクロナデ、 カキ目	ロクロナデ、 カキ目	口縁1/12	
136	D94	1次	No.211	土師器	壺	18.8		(6.2)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒少、赤色粒	不明	不明	口縁3/12	
137	D64	1次	No.210	土師器	甕	14.6		(4.3)	黄灰	黄灰	小礫少、砂粒	粗いハケ、 ナデ	粗いハケ	口縁4/12	
138	D59	1次	No.210	土師器	壺	14.8		(6.7)	灰白	黄橙	砂粒	ハケ、指頭 圧痕、ヨコ方 向のナデ	ハケ	口縁2/12	
139	D208	1次	No.210	土師器	甕	12.0		(3.2)	褐灰	褐灰	砂粒多	ヨコナデ、 ケズリ	ヨコナデ、 ケズリ	口縁1/12	
140	D60	1次	No.210	土師器	器台	9.4		(6.9)	灰白	灰白	焼土塊、赤色粒、 砂粒多	不明	ハケ	坏部3/12	孔数不明
141	D58	1次	No.210	土師器	壺	16.8		(6.4)	灰白	灰白	細砂、赤色粒少	ハケ、ケズリ	ハケ	口縁2/12	
142	D63	1次	表探 No.196	縄文 土器	深鉢				黒褐	黒褐	小礫多	ナデ	ヨコ方向の ナデ、条痕	小片	外面煤付着、口縁波状
143	D55	1次	No.187 56~57表土	須恵器	蓋	11.8		2.8	灰白	灰白	細砂少、 赤色酸化粒多	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナデ、 ロクロナデ後へ ラ工具による 調整?	口縁2/12	外面自然釉
144	D56	1次	No.86~187 56~57 表土	須恵器	坏身	11.0		(3.0)	灰	灰	石英細片、 赤色酸化粒	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナデ、 ナデ	口縁3/12	
145	D96	1次	50~55 表土 No.186	土製品	土鍾						砂粒、細砂、石英 少		指によるナ デ	ほぼ完形	最大長6.0cm最大幅3.2cm最 大厚3.3cm孔径1.2cm 重 量66g、黒斑
146	D95	1次	50~55 表土 No.186	土製品	土鍾					橙	砂粒、小礫少、 赤色粒少		指によるナ デ	完形	最大長10.8cm最大幅4.2cm 最大厚4.0cm孔径1.3cm 重量108g
147	D204	1次	表探 No.196	縄文 土器	深鉢				暗褐	暗褐	砂粒多	ナデ	縄文	小片	
148	D201	1次	表探 No.196	縄文 土器	深鉢				明灰黄	明灰黄	砂粒	ナデ	条痕	小片	
149	D202	1次	採集(全線区) No.203	縄文 土器	深鉢				黒褐	黒褐	砂粒	ミガキ		小片	
150	D203	1次	表探 No.196	弥生 土器	甕				黄褐	黄褐	砂粒	ナデ	キザミ、 波状文	小片	
151	D66	1次	No.208	縄文 土器	深鉢				黄橙	黄橙	砂粒少、赤色粒	ナデ	縄文、竹管状 具による沈 線、貼付隆起 帯に貝殻、擦 糸後波状文	小片	
152	D205	1次	表探 No.196	縄文 土器	深鉢				黄褐	黄褐	砂粒少	ナデ		小片	口縁波状
153	D62	1次	表探 No.196	縄文 土器	壺	11.0		(6.0)	灰褐	灰褐	細砂、砂粒	雑なナデ、 指によるヨコ ナデ、ハケ	条痕後雑な ミガキ	口縁3/12	外面煤付着
154	D196	1次	表探 No.198	土師器	器台	8.1		(4.3)	橙	橙	砂粒少	不明	不明	口縁5/12	
155	D65	1次	表探 No.178	土師器	甕	15.4		(8.3)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	不明	不明	口縁1/12	
156	D54	1次	表探 No.144	土師器	無頸壺		1.4	7.9	灰白	灰白	砂粒多	ハケ	ケズリ		
157	D83	1次	川向い山斜面? No.215	土師器	壺	10.3	1.0	7.3	浅黄橙	浅黄橙	砂粒少、焼土塊	ナデ?	不明	口縁 4/12、 底部完形	ゆがみあり
158	D61	1次	59区下層 No.184	須恵器	蓋	11.6		(3.3)	灰白	灰白	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁2/12	
159	D156	2次	2区 SD2021	土師器	支脚		6.1	(5.5)	灰白、橙	橙	砂粒	不明	不明	底部6/12	
160	D154	2次	2区 SD2021	須恵器	坏身	11.3		(2.7)	灰白	灰白	砂粒、白色砂	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁1/12	
161	D155	2次	G-7区 SK2402(1層)	須恵器	甕	13.8		(5.3)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、 沈線		ゆがみあり
162	D127	2次	G-7区 SK2402 最下層床面	青磁	香炉	9.0		(6.6)						口縁1/12	釉:透明がかったオリーブ やや厚い均一 気泡あり 貫入あり
163	D117	2次	H-4区 SK2401 灰色砂	唐津	皿	10.6	4.6	3.7						ほぼ完形	釉:内面灰オリーブ、外面淡 黄、灰オリーブ 均一にかかっ ていない 気泡あり 貫入なし 素地:橙
164	D121	2次	G-3区 2層	須恵器	蓋	(11.8)		(3.8)	灰	灰	砂粒、白色砂	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ	口縁1/12	
165	D166	2次	E-11区 2層	土師器	甕	12.0		(8.4)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	不明	不明	口縁1/12	外面に煤付着、黒斑
166	D159	2次	2区 1b~2層	土師器	甕	17.6		(6.1)	橙	橙	砂粒、小礫、透明 粒子、焼土塊	ヨコナデ、ケ ズリ	ヨコナデ		
167	D122	2次	1-2区 タチワリ (2層 以下)	土師器	甕	14.3		(7.5)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、焼土塊	不明	不明	口縁3/12	
168	D171	2次	F-3区 2層 (P2409下層)	土師器	甕	17.7		(5.0)	明黄褐	黄褐	砂粒多、赤色酸化 粒少	不明、ナデ	不明、ヨコナ デ	口縁1/12	
169	C110	2次	2区 SD2034	土師器	高坏	16.3		(6.6)	黄橙	浅黄橙、 褐灰	砂粒、透明粒子、 焼土塊	ヨコナデ	ヨコナデ、ハ ケ	口縁 1/12	
170	D114	2次	F-4区 2層~ 岩盤直上	製塩土 器	平底		9.0	(2.1)	明赤褐	明赤褐	砂粒	ナデ	ナデ	底部2/12	
171	D173	2次	F-3区 2層	製塩土 器	平底		11.0	(1.6)	橙	橙	砂粒多	ナデ、指お さえ	ナデ、指お さえ	底部2/12	
172	D113	2次	G-7区 2層	製塩土 器	平底		13.4	(2.2)	浅黄橙	橙	砂粒少、透明粒 子、焼土塊	ナデ	ナデ	底部2/12	
173	D168	2次	F-2区 2層	製塩土 器	支脚		6.3	(5.0)	橙	橙	砂粒多、小礫少	ナデ	ナデ	底部2/12	
174	D153	2次	2区 1e層下	土師器	小型 土器			(3.0)			砂粒、透明粒子	ナデ、指頭 圧痕、しぼり 目	ナデ	口縁 2/12、底 部完形	

第5表 土器・陶磁器観察表5

報告 番号	実測 番号	年 次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他		
									内	外		内	外				
175	D115	2次	G-5区 2層	製塩 土器	脚部					橙	砂粒、焼土塊				最大長(5.4)cm最大幅 3.5cm最大厚3.0cm		
176	D128	2次	F-2区 2層	弥生 土器	壺			(4.2)	赤褐	赤褐	砂粒少、透明粒子	ナデ			ミガキ、貝殻 復縁刺突 文?沈線	タマギ貝	
177	D157	2次	2区 1c層か	須恵器	壺			(7.2)	灰	灰	砂粒、白色砂	ロクロナデ			ロクロナデ、 沈線		
178	D116	2次	G-3区 2層	須恵器	甕			(5.3)	灰	灰	砂粒、礫	ロクロナデ			ロクロナデ、カ キメ、ケズリ?	外面一部に自然釉?	
179	D165	2次	F-1区 2層	須恵器	蓋	13.1		(2.7)	灰白	黄灰	砂粒少	ロクロナデ			ロクロナデ、回 転ヘラケズリ	口縁2/12 降灰	
180	D172	2次	F-1区 2層	須恵器	甕			(5.8)	灰	灰	砂粒少	ロクロナデ、 タタキ			ロクロナデ、 タタキのちカ キメ	口縁小片	
184	C18	2次	F-41区 SD2022f	土師器	甕	16.0		(5.2)	灰白	褐灰	砂粒、焼土塊	ヨコナデ、ナ デ?			ヨコナデ、ハ ケ?		
185	C15	2次	F-41区 SD2022h	土師器	甕	19.1		(16.3)	橙	橙	砂粒、焼土塊	ヨコナデ、ナ デ?			ヨコナデ、ハ ケ?	口縁1/12	
186	C14	2次	F-41区 SD2022g	土師器	高坏	17.1		(4.5)	橙	橙	砂粒、焼土塊	不明			不明	口縁4/12	
187	C17	2次	E-41区 SD2022d	土師器	高坏	20.8		(5.5)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、小礫、赤色 酸化粒	ヨコナデ			ハケ?	口縁1/12	
188	C16	2次	F-41区 SD2022h	土師器	高坏			(8.7)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、焼土塊	不明			不明	孔推定4ヶ所	
190	C13	2次	E-42区 SD2023a	土師器	甕	19.0		(4.3)	灰白	橙	砂粒、焼土塊多	ヨコナデ、ケ ズリ			ヨコナデ?	口縁2/12	
191	C10	2次	E-41区 SD2023	土師器	甕	12.8		(7.0)	灰白	灰白	砂粒、焼土塊	不明			不明	口縁3/12 外面煤付着?	
192	C8	2次	E-41区 SD2023	土師器	甕	14.9		(5.2)	灰黄褐	橙	砂粒、焼土塊	ヨコナデ? ケズリ?			ヨコナデ? ハケ?	口縁1/12	
193	C11	2次	E-41区 SD2023c	土師器	壺	11.8		(11.4)	橙	橙	砂粒、小礫少、焼 土塊	不明			不明	口縁1/12	
194	C9	2次	E-41区 SD2023c	土師器	高坏		12.7	(7.7)	橙	橙	砂粒、焼土塊	ナデ、工具 によるナデ			ミガキ?	底部4/12 透かし孔4ヶ所	
195	C31	2次	B-47区 SK2001	土師器	甕	19.2		(2.9)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒	不明			不明	口縁2/12	
196	C32	2次	B-47区 SK2001	土師器	甕	(34.0)		(5.1)	黄橙	黄橙	赤色酸化粒、砂粒	不明			不明	口縁1/12	
197	C19	2次	F-41区 SX2005	土師器	高坏	12.6		(4.3)	浅黄橙	浅黄橙	赤色酸化粒、砂粒	不明			不明	坏部のみ 完形	
198	C30	2次	E-41区 SK2007	土師器	甕	21.0		(5.7)	灰白	黄橙	赤色酸化粒、細砂	ケズリ			擬凹線	口縁1/12	
199	C28	2次	F-40区 SK2121	土師器	甕	17.2		(3.7)	橙	橙	赤色酸化粒、砂粒	不明			不明	口縁1/12	
200	C29	2次	E-41区 SK2008	土師器	高坏	18.4	15.6	(11.0)	浅黄橙	浅黄橙	細砂	不明			不明	脚部ほぼ 完形	三方透かし
201	C27	2次	F-40区 SK2012	土師器	高坏		12.6	(8.4)	赤褐	赤褐	細砂少	ハケ			ミガキ	脚部1/12 三方透かし	
202	C2	2次	F-40区 SD2044	土師器	甕	21.8		(3.4)	灰白	灰白、黒	砂粒	ナデ			ナデ、ハケ	口縁1/12 外面煤付着	
204	C7	2次	D-42区 SD2024	土師器	甕			(14.2)	灰白、橙	橙、黒	砂粒、透明粒子、 焼土塊	ヨコナデ、ナ デ、ケズリ			ヨコナデ、ハ ケ		
205	C6	2次	E-42区 SD2024	土師器	手捏 ね?	8.7	2.2	4.8	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、透明粒子、 焼土塊	ナデ?指頭 圧痕			ナデ?指頭 圧痕	口縁 1/12、底 部完形	ゆがみあり
206	C3	2次	D-43区 SD2028	土師器	壺	14.2		(6.5)	橙	橙	砂粒、焼土塊	指頭圧痕?			不明	口縁3/12	
207	C5	2次	D-43区 SD2028	土師器	高坏	12.4		(6.8)	灰白	灰白	砂粒、焼土塊	不明			不明	口縁5/12	
208	C4	2次	D-43区 SD2028	土師器	高坏		9.8	(7.8)	橙	橙	砂粒、礫少、焼土	不明			指頭圧痕?	底部6/12	
209	D131	2次	F-41区 SD2046	土師器	甕	18.8		(4.1)	浅黄	橙~黒	砂粒	ヨコナデ、ナ デ、ケズリ			ナデ、ハケ、 ケズリ	口縁4/12 外面煤付着	
210	C1	2次	F-41区 SD2046	土師器	甕	17.7		(4.5)			砂粒、礫、赤色酸 化粒	ナデ、ケズ リ?			ヨコナデ、擬 凹線	口縁1/12 外面煤付着?	
211	C21	2次	F-41区 P2012	土師器	甕	15.8		(4.8)	黄橙	浅黄橙	礫、砂粒、焼土塊	ハケ、ケズリ			不明	口縁1/12	
212	C34	2次	F-41区 SX2004	土師器	壺			(5.3)	橙	橙	赤色酸化粒、砂粒	不明			不明	小片	
213	C24	2次	C-46区 P2030	土師器	小壺	10.2		(4.2)	灰白	灰白	砂粒多	不明			不明	口縁1/12	
214	D108	2次	E-42区 P2053	土師器	壺	12.2		(5.8)			砂粒、小礫	不明			ハケ?		
215	C20	2次	F-40区 P2127	土師器	高坏	22.2		(5.0)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、赤色酸化粒	不明			不明	口縁2/12	
216	C22	2次	D-44区 P2093	土師器	高坏			(2.6)	浅黄橙	浅黄橙	赤色酸化粒、砂	不明			不明	口縁2/12	
217	C25	2次	E-41区 P2027	土師器	高坏			(3.5)	浅黄橙	浅黄橙	焼土塊、砂粒	不明			不明	口縁2/12	
218	C33	2次	E-41区 SX2011	土師器	高坏	(15.4)		(2.4)	橙	橙	細砂	不明			不明	口縁2/12	
219	C26	2次	E-42区 P2021	土師器	器台			(6.2)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、石英	不明			不明	口縁2/12	
220	C23	2次	C-43区 P2034	土師器	高坏or 器台		10.0	(7.1)	赤褐	赤褐	細砂	不明			一部に粗い ハケ		
221	D135	2次	B-4区 2層アゼ	須恵器	甕	25.4		(2.5)	灰	灰	砂粒少	ロクロナデ			ロクロナデ	口縁1/12	
223	C73	2次	E-42区 2層	土師器	甕	16.9		(3.9)	橙	黄橙	砂粒多	ヨコナデ、ケ ズリ			擬凹線、ヨコ ナデ	口縁2/12	
224	C65	2次	E-41区 2層	土師器	甕	17.2		(5.4)	黄橙	黄褐	細砂多	不明			不明	口縁1/12	
225	C49	2次	D-43区 2層	土師器	壺	17.3		(5.7)	浅黄橙	黄橙	砂粒多、赤色酸化	ナデ			ヨコナデ	口縁2/12	
226	C57	2次	E-41区 2層	土師器	甕	15.6		(6.7)	橙	橙	細砂多	不明			不明	口縁4/12	
227	D160	2次	B-46区 2層	土師器	甕	20.5		(7.9)	橙	浅黄橙	砂粒、小礫、焼土	不明			不明	口縁1/12	
228	C61	2次	E-41区 2層	土師器	甕	14.4		(5.7)	淡黄	灰白	砂粒	ケズリ			ハケ	口縁2/12	
229	D167	2次	E-41区 2層	土師器	甕	15.0		(4.1)	橙	橙	砂粒、小礫	ハケのちヨコ ナデか?ケ ズリ			ヨコナデ	口縁3/12	
230	C38	2次	C-44区 2層	土師器	甕	15.4		(9.2)	浅黄	黄灰	砂粒多、赤色酸化 粒	不明			ハケ	口縁9/12	
231	C55	2次	E-41区 2層	土師器	壺	20.2		(4.8)	黄橙	浅黄橙	砂粒	不明			不明	口縁2/12	
232	D152	2次	E-41区 2層	土師器	甕	23.4		(3.6)	橙	橙	砂粒	ヨコナデ、ケ ズリ			ヨコナデ	口縁1/12	
233	C68	2次	E-41区 2層	土師器	甕			(5.5)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	指おさえ痕			不明	口縁1/12	
234	C71	2次	E-42区 2層	土師器	甕	(43.8)		(5.4)	黄橙	黄橙	砂粒多	不明			不明	小片	
235	C56	2次	D-42区 2層	土師器	甕	18.0		(7.0)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、赤色酸化 粒	ヨコナデ、ケ ズリのち指 おさえ			ヨコナデ、ハ ケ	口縁1/12	
236	C62	2次	D-42区 2層	土師器	甕	17.0		(11.9)	灰	灰白	砂粒多	指おさえ、不 明			不明	口縁1/12	
237	C58	2次	E-41区 2層	土師器	甕	14.4		(15.3)	橙	橙	砂粒多	指頭圧痕、 ハケ			不明	口縁9/12	
238	C72	2次	E-42区 2層	土師器	壺	11.8		(3.7)	橙	橙	砂粒少	不明			不明	口縁4/12	

第6表 土器・陶磁器観察表6

報告 番号	実測 番号	年 次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
239	C64	2次	E-41区 2層	土師器	壺	12.8		(3.8)	浅黄橙	浅黄橙	赤色酸化粒、細砂	不明	刻み	口縁2/12	赤彩
240	C51	2次	D-44区 2層	土師器	小型 壺	7.4		8.5	黄橙	黄橙	砂粒、小礫、礫	不明、指頭 によるナデ 上げ	不明	口縁2/12、 底部ほぼ 完形	外面一部に黒斑
241	C59	2次	E-41区 2層	土師器	壺	17.3		(5.7)	灰白	浅黄橙	砂粒、赤色酸化	不明	不明	口縁1/12	
242	C67	2次	E-41区 2層	土師器	壺	21.4		(6.9)	灰白	浅黄橙	砂粒	不明	不明	口縁1/12	
243	C37	2次	C-45区 2層下面	土師器	高坏	16.0		(4.3)	浅黄橙	浅黄橙	細砂	不明	不明	口縁2/12	
244	C60	2次	E-41区 2層	土師器	高坏			(3.2)	浅黄橙	浅黄橙	小礫わずか	不明	不明		
245	C50	2次	D-43区 2層	土師器	高坏	15.7		(4.0)	浅黄橙	灰白	砂粒少、赤色酸化 粒少	ミガキ	不明	口縁5/12	外面一部に黒斑
246	C52	2次	D-44区 2層	土師器	高坏	17.2		(5.4)	橙	赤橙	砂粒多、赤色酸化 粒多	不明	不明		
247	C39	2次	D-44区 2層	土師器	高坏			(12.1)	橙	橙	砂粒多	不明	不明		
248	C12	2次	E-41区 2層	土師器	高坏		20.0	(7.2)	褐灰	橙	砂粒、焼土塊	不明	不明	口縁3/12	ゆがみあり
249	C48	2次	D-43区 2層	土師器	高坏	14.6		(7.8)	明黄褐	浅黄橙	砂粒多、雲母、 小礫少	不明	不明		
250	C66	2次	E-41区 2層	土師器	高坏		11.2	(8.2)	浅黄橙	黄橙	細砂多	ケズリ	ミガキ、ハケ?	底部1/12	
251	C53	2次	E-41区 2層	土師器	高坏or 器台脚 部		9.7	(5.9)	橙	橙	砂粒少	不明	不明	脚部3/12	
252	D161	2次	C-44区 2層	土師器	高坏			(7.8)	橙	橙	砂粒、礫、焼土塊	不明	不明		孔2カ所
253	C47	2次	2区 2層か	土師器	高坏			(6.8)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、小礫少、 赤色酸化粒	不明	ミガキ		三方透かし
254	D150	2次	D-44区 2層	土師器	高坏			(8.4)	橙	橙	砂粒、小礫、焼土 塊	不明	不明		
255	C70	2次	E-42区 2層	土師器	高坏		11.0	(6.4)	灰白	灰白	砂粒多、赤色酸化 粒	不明	ミガキ	底部5/12	
256	C40	2次	C-44区 2層	土師器	高坏			(8.0)	橙	橙	小礫、礫、細砂	不明	不明		
257	D147	2次	D-42区 2層	土師器	壺	10.5	1.5	6.0	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、小礫、焼土 塊	不明	不明	口縁3/12、 底部完形	
258	C54	2次	E-41区 2層	土師器	蓋			(5.4)	淡黄	淡黄	細砂	不明	指頭圧痕? 指おさえ		つまみ径4.1
259	C74	2次	E-42区 2層	土師器	器台		12.8	(7.8)	橙	橙	細砂多	不明	不明	底部8/12	三方透かし
260	D151	2次	D-42区 2層	土製品	土鐘				橙	橙	砂粒、小礫、焼土 塊	不明	指頭圧痕		最大長7.4cm最大幅4.6cm最大厚 4.5cm穴径2.2cm 重量115g
261	C75	2次	E-42区 黄褐色層上	土師器	甕	17.0		(8.2)	灰白	灰白	細砂多	不明	不明	口縁7/12	口縁は楕円
262	D106	2次	E-42区 黄褐色層上	土師器	壺	14.3		(8.0)	浅黄橙	橙	砂粒、白色粒、焼 土塊	ヨコナデ、ナ デ、ケズリ	ヨコナデ、ハ ケ	口縁9/12	外面に煤付着
263	C76	2次	EF-41区 断ち割り	土師器	甕	18.0		(8.4)	灰白	淡黄	砂粒多	指おさえ	不明	口縁2/12	内面煤付着
264	C77	2次	EF-41区 断ち割り	土師器	甕	20.8		(6.8)	黄橙	黄橙	砂粒多	不明	不明	口縁3/12	
265	D181	2次	F-39区 1e層下層	土師器	甕	17.5		(9.9)	浅黄橙	橙	砂粒、小礫	ナデ	ヨコナデ、ハ ケ	小片	
266	D174	2次	F-39区 1e層下層	土師器	甕	16.2		(4.5)	灰黄	橙	砂粒多	不明、ナデ、 指頭圧痕	不明	口縁2/12	
267	D182	2次	F-39区 1e層下層	須恵器	坏蓋			(2.4)	灰	褐灰	砂粒多	ロクロナデの ちナデ	ロクロナデ、 回転ヘラケ ズリ	小片	降灰
268	D164	2次	F-39区 1e層下層	須恵器	坏身	10.0		4.8	灰白	灰	砂粒、小礫多	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転ヘラケ ズリ	4/12	重ね焼き痕、降灰、口縁ゆ がみ
269	D180	2次	F-39区 1e層下層	須恵器	台付 塊or高 坏		8.1	(3.2)	灰	灰	砂粒多	ロクロナデの ちナデ、ロク ロナデ	ロクロナデ	底部9/12	降灰、ゆがみあり
270	D169	2次	F-39区 1e層下層	須恵器	甕	25.7		(16.6)	灰白	灰白	砂粒	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ	小片	
271	D158	2次	F-40区 1層	須恵器	甕	16.0		(9.0)	灰白	灰白	砂粒	ロクロナデ、 タタキ	ロクロナデ、タ タキ、カキメ	口縁1/12	
273	D175	2次	F-40区 1e~2層	土師器	壺			(5.1)	橙	橙	砂粒多、赤色酸化 粒	不明	ヨコナデ	小片	
274	D134	2次	F-40区 1e~2層	土師器	壺	10.8		(7.2)	淡黄	淡黄	砂粒多	ケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハ ケ	口縁2/12	
275	C80	2次	F-40区 1e~2層	土師器	壺	19.0		(6.1)	橙	橙	砂粒、小礫、赤色 酸化粒	不明	不明、ハケ、 擬凹線かす かに5条	口縁2/12	
276	C81	2次	F-40区 1e~2層	土師器	甕	17.8		(13.7)	浅黄橙	黄橙	砂粒、小礫、赤色 酸化粒	ナデか	不明	小片	口縁部黒斑
277	C82	2次	F-40区 1e層下	土師器	高坏			(6.7)	橙、淡橙	橙	砂粒多、小礫少、 赤色酸化粒	ミガキ、ケズ リ	ミガキ		
278	C83	2次	F-40区 1e層下	土師器	器台		11.2	(7.4)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、赤色酸化	不明	不明	底部1/12	三方透かし
279	D183	2次	F-40区 1e~2層	須恵器	高坏	14.4		(4.9)	灰	灰	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ、波 状文、ケズリ	小片	降灰、ゆがみあり
280	D178	2次	F-40区 1e~2層	須恵器	無台 坏		6.8	(2.4)	灰白	灰白	砂粒、小礫	ロクロナデの ちナデ、一 部ケズリ	ロクロナデ、 ヘラ切り	底部6/12	降灰、内面滑らか
281	D177	2次	F-40区 1e~2層	須恵器	坏身	11.7		(3.2)	灰	灰	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ、回 転ヘラケズリ	口縁2/12	降灰
282	D176	2次	F-40区 1e~2層	須恵器	坏身	14.6		(3.3)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ、 ロクロナデの ちナデ	ロクロナデ、 回転ヘラケ ズリ	口縁1/12	
283	D184	2次	F-40区 1e~2層	須恵器	転用	(13.7)	10.3	1.5	橙	灰白	砂粒	タタキ	タタキ		
284	D170	2次	F-39区 1e層下層	須恵器	甕			(17.8)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ、 タタキ	ロクロナデ、 タタキ	小片	降灰
285	C78	2次	F-40区 2層	土師器	壺	7.7		8.0	橙	橙	砂粒、小礫少	不明	ミガキ	口縁1/12、 底部完形	外面底部黒斑
286	D132	2次	F-41区 2層	土師器	壺	10.4		(4.2)	黄橙	橙	細砂粒	不明	指頭圧痕	口縁4/12	
287	C84	2次	F-40区 2層	土師器	壺	20.3		(5.1)	黄橙	灰白	砂粒多、小礫少	不明	不明	口縁1/12	
288	C89	2次	F-41区 2層	土師器	壺	13.8		(6.9)	淡黄	淡黄	砂粒多	ヨコナデ、ナ デ	ヨコナデ、ハ ケのちナデ	口縁 11/12	
289	C79	2次	F-40区 2層	土師器	甕			(14.3)	橙	黄橙	砂粒多	ヨコナデ、ナ デ、ケズリ	ヨコナデ、ハ ケ、ナデ、ケ ズリ		外面黒斑

第7表 土器・陶磁器観察表7

報告 番号	実測 番号	年次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
290	C88	2次	F-41区 2層	土師器	甕	18.3		(6.7)	黄橙	黄橙	砂粒多、小礫、赤色酸化粒少	不明	ヨコナデ		
291	D133	2次	F-41区 2層	土師器	甕			(8.4)	黄橙	黄橙	細砂多、砂粒多、赤色酸化粒	ケズリ	ハケ		
292	D186	2次	F-41区 2層	土師器	甕	17.0		(7.7)	黄橙	黄橙	細砂多、砂粒多、小礫	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	口縁3/12	
293	D129	2次	F-41区 2層	土師器	高坏			(6.9)	浅黄橙	橙	細砂、砂粒少	ハケ	ミガキ		三方透かし?
294	C87	2次	F-41区 2層	土師器	高坏or器台		12.6	(7.2)	橙	橙	砂粒、小礫、赤色酸化粒	ケズリ、不明	不明	底部8/12	内外面一部に黒斑
295	D130	2次	F-41区 3層下位	土師器	器台	8.7	11.8	8.4	橙~黄橙	橙	細砂、砂粒少、小礫、赤色酸化粒	ミガキ、ナデ	ミガキ	口縁完形、底部3/12	三方透かし?
296	C69	2次	F-41区 3層	土師器	壺	13.4		(7.5)	浅黄橙	橙	砂粒多	ヨコナデ、ケズリ後指によるナデ	ヨコナデ、ハケ	小片	
297	C85	2次	F-41区 3層	土師器	甕	15.5		(11.8)	灰黄	橙	砂粒多、小礫	不明	不明	口縁9/12	
298	D138	2次	F-41区 3層	土師器	甕	15.0		(5.6)	黄橙	黄橙	細砂多、砂粒	不明	不明	口縁3/12	黒斑
299	D187	2次	F-41区 3層	土師器	皿	22.8		(4.3)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、赤色酸化	不明	不明	口縁1/12	
302	C107	2次	G-20区 2層下(暗灰シルト)	土師器	甕	18.0		(5.4)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、小礫多、赤色酸化粒	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、擬凹線5条	口縁2/12	
303	C109	2次	G-38区 3層下(暗灰色シルト)	土師器	高坏			(5.0)	橙	橙	砂粒、焼土塊	ナデ	ミガキ		孔:上下二つで3方
305	D143	2次	G-39区 1e層下	土師器	手捏ね	6.4	5.7	3.2	灰黄	黄灰	細砂	指頭圧痕	指頭圧痕、不明	口縁わずか、底部完形	外面黒斑
306	C108	2次	G-39区 1e層下	土師器	壺		2.6	(2.9)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、焼土塊少	ナデ、ケズリ	ハケ	底部完形	
307	D136	2次	G-39区 1e層下	土師器	甕	15.8		(5.1)	橙	橙	砂粒多	不明	ヨコナデ	口縁2/12	外面煤付着
308	D145	2次	G-39区 1e層下	土師器	甕	19.0		(5.7)	黄橙	黄橙	砂粒多	指頭圧痕、ケズリ	指頭圧痕、ハケ	口縁1/12	口縁外面に波上に粘土紐が貼り付けてある
309	C103	2次	G-39区 1e層下	土師器	鉢	29.1		(6.3)	橙	橙	砂粒、焼土塊	工具によるナデ、ヨコナデ	工具によるナデ、ヨコナデ、ハケ		
310	C102	2次	G-39区 1e層下	土師器	甕	17.7	3.5		灰白	灰、黒	砂粒、透明粒子	ナデ、工具によるナデ	ハケ	口縁1/12、底部完形	器高 口縁部(4.6cm) 胴部(10.0cm)
311	D144	2次	G-39区 1e層下	土師器	小型甕	12.8		(5.7)	褐灰	橙~黄橙		指頭圧痕、ハケ	ハケ	口縁3/12	内面黒斑
312	C104	2次	G-39区 3層(暗灰シルト)	土師器	高坏		14.2	(6.5)	橙	灰白	砂粒、小礫、焼土塊	ナデ	ナデ	底部完形	4方透かし
314	D119	2次	G-39区 3層下位	縄文土器	鉢	28.2		(9.4)	浅黄橙、黒褐	浅黄橙、黒褐	砂粒、小礫、透明粒子、焼土塊	不明	条痕	口縁2/12	
315	C101	2次	G-40区 1e層下	土師器	高坏	20.0		(5.5)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、透明粒子、焼土塊	ヨコナデ、ナデか	不明	口縁5/12	
316	D137	2次	G-40区 1e層下	須恵器	甕			(10.4)	灰	灰	砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ、沈線、カキメ、刻み	底部完形	降灰
317	D139	2次	G-40区 1e層下	須恵器	甕	16.6		(6.7)	灰白	灰白	細砂多	ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ、タタキ	口縁小片	
318	D188	2次	G-40区 1e層下	須恵器	坏身	12.5		(3.0)	灰	灰	細砂、赤色酸化粒	不明	不明	口縁1/12	
319	D189	2次	G-40区 1e層下	須恵器	蓋	12.8		(2.6)	灰	灰	細砂	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	口縁1/12	
320	D140	2次	G-40区 2層	土師器	高坏	12.0	10.6	8.8	橙	橙	細砂、赤色酸化粒	しぼり目	ミガキ、ハケ	口縁小片、底部4/12	
321	D141	2次	G-40区 2層	土師器	鉢			(6.2)	黒	黒	細砂、砂粒、赤色	不明	ミガキ		内黒
322	C91	2次	G-40区 2層~3層(暗灰シルト)	弥生土器	甕	21.9		(7.0)	灰白	黄橙	砂粒、小礫	ハケのちナデ	ヨコナデ、ハケ、口縁刻み	口縁5/12	煤付着
323	C99	2次	G-40区 2層	土師器	甕	18.2		(9.6)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、赤色酸化	ケズリ	不明	口縁3/12	
324	C95	2次	G-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	甕	20.0		(7.5)	浅黄橙	橙	砂粒、小礫多	ハケ、ケズリ	ハケ	口縁6/12	
325	C100	2次	G-40区 2層	土師器	甕	17.6		(7.2)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、礫	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケ	口縁2/12	
326	C96	2次	B-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	甕			(15.6)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、小礫	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケのちナデ、擬凹線8条		
327	C112	2次	G-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	甕	20.4		(4.5)			砂粒、透明粒子、焼土塊	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁1/12	外面煤付着
328	C98	2次	G-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	甕(小型)	13.7	4.5	9.8	褐灰	褐灰	砂粒多、小礫	ハケ、指頭によるナデ上げ	ハケのちナデ、ハケのち指おさえ	口縁9/12、底部完形	
329	C94	2次	G-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	土製品				橙	橙	砂粒	ミガキ	ミガキ	ほぼ完形	最大長8.5cm 最大幅11.8cm 最大厚3.7cm、外面一部に黒斑 貝殻状の形態を呈する
330	D120	2次	G-40区 2層下(暗灰シルト)	土師器	壺	9.3	3.0	6.1	黄橙	橙	砂粒、小礫、赤色酸化粒	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	口縁10/12 底部完形	
331	D190	2次	G-40区 2層下	土師器	甕	18.8		(5.0)	黄橙	褐	砂粒多、赤色酸化粒	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁2/12	外面煤付着
332	C92	2次	G-40区 2~3層	縄文土器	深鉢	27.9		(4.9)	黄橙	黄橙	砂粒	ナデ	ナデのち条痕	小片	
333	D118	2次	G-40区 2~3層	縄文土器	深鉢			(6.3)	浅黄橙	灰	砂粒	ナデ	縄文、結節状浮線		福浦上層式第2型式
334	D142	2次	G-40区 2~3層	土師器	有孔		5.4	(4.7)	黄橙	明褐灰	細砂、砂粒	指頭圧痕、ハケ	ハケ	底部	底部に孔あり
335	C106	2次	G-40区 2~3層上面	土師器	壺	20.8		(8.1)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、小礫、焼土塊	ヨコナデ、ケズリ?	ヨコナデ、ハケ	口縁7/12	

第8表 土器・陶磁器観察表8

報告 番号	実測 番号	年次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
337	C93	2次	G-40区 3層上面	弥生土器	壺	29.6		(7.8)	浅黄橙	淡黄	砂粒、小礫	ミガキ、赤彩	ヨコナデ、ミガキ、ハケ、斜格子文、円形刺突文、円形浮文、綾杉文	口縁4/12	
338	D111	2次	G-40区 3~4層か	縄文土器	甕		10.5	(4.6)	灰黄褐	灰黄	砂粒、透明粒子	ナデ	縄文、網代	底部3/12	
339	D109	2次	G-40区 3~4層か	弥生土器	壺 or 鉢	26.0		(5.5)	黄橙	黄橙	砂粒、透明粒子、赤色酸化粒	ナデ、ハケによるナデ	綾杉文、ナデ、ハケ	口縁1/12	
340	C105	2次	G-40区 3層	土師器	甕	19.0		(24.4)	灰黄	灰黄褐	砂粒多、小礫、赤色酸化粒	ケズリ	ヨコナデ、ハケ	口縁11/12	外面煤付着
341	C111	2次	G-40区 3~4層か	土師器	高坏	20.8		(10.6)	浅黄橙	浅黄橙、黄灰	砂粒、小礫少、焼土塊	不明	不明	口縁4/12	ゆがみあり
343	D191	2次	G-40区 3~4層か	弥生土器	深鉢	28.0		(3.3)	灰白	灰白	砂粒、透明粒子	ナデ	半截竹管	口縁1/12	
344	D107	2次	G-41区	土師器	甕	17.4		(6.0)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、小礫、赤色酸化粒	工具によるナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	口縁6/12	
345	C97	2次	G-40区 土層ベルト2層	土師器	鉢	38.0			橙	橙	砂粒、小礫多	ハケのちナデ、ケズリのちナデ	ハケのちナデ	口縁5/12	器高 口縁部(10.0cm) 胴部(18.8cm)
346	D112	2次	H-39区 断ち割り1e~3層か	縄文土器	鉢?			(5.4)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、小礫	ナデ	ナデ、縄文、半截竹管?	口縁1/12	
347	C44	2次	1区 A断面2・3層	土師器	壺			(8.1)	浅黄橙	浅黄橙	細砂少	不明	不明		
348	C43	2次	1区 A断面2・3層	弥生土器	壺			(9.3)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	不明	刻みのある貼り付け突帯		
350	C42	2次	1区 排水溝	土師器	壺	14.6		(8.6)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒、礫	ハケ	不明	口縁4/12	
351	D162	2次	1区 排水溝	土師器	壺	9.0	1.4	9.6	灰白	浅黄橙	砂粒、小礫、焼土	不明	不明	口縁1/12	
352	D163	2次	1区 2層上面	土師器	壺		1.5	(6.1)	灰白	灰白	砂粒	指頭圧痕、	ナデ?	底部完形	ゆがみあり
353	C36	2次	1区 2層上面	土師器	壺	20.6		(3.7)	橙	橙	砂粒多	不明	不明	口縁2/12	内外面一部に黒斑
354	C45	2次	1区 2層上面	土師器	甕			(5.5)	褐灰	褐灰	砂粒多	ハケのちナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ		
356	C90	2次	2区 (F・G-40区)2層	弥生土器	壺	19.1		(7.4)	灰白	暗褐	砂粒、小礫	ナデ	ミガキ	口縁1/12	波状口縁
357	C41	2次	2区 1e層下	土師器	甕			(7.7)	灰白	灰白	砂粒	指によるナデおさえ	不明	胴部のみ6/12	
358	D146	2次	2区 1b~2層	須恵器	蓋	10.9		(4.6)	灰	灰	砂粒、白色粒	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	口縁5/12	ゆがみあり
359	D148	2次	2区 3層(4層砂上層)	須恵器	坏身		1.9	(1.9)	灰白	灰白	砂粒、白色粒	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラ切り		
360	C63	2次	2区 2層か	弥生土器	高坏型土器			(3.4)	灰白	灰白	砂粒	有刻突帯	ナデ	小片	
361	D149	2次	2区 3層(4層砂上層)	土師器	甕	15.0		(7.2)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒、焼土塊	ヨコナデ、ハケ	不明	口縁1/12	
362	C35	2次	42区 2層上面	土師器	甕	17.0		(6.8)	灰白	灰黄	赤色酸化粒、砂粒	不明	不明	口縁2/12	
363	D185	2次	41区 3層上位	土師器	甕	(36.6)		(5.5)	黄橙	褐	砂粒多	ケズリ	指頭圧痕	口縁1/12	
364	C46	2次	3層か(4層砂状層)	土師器	甕	18.3		(28.0)	灰白	浅黄橙	砂粒多、小礫、赤色酸化粒	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	口縁5/12	
365	D211	2次	1C区排水溝	土師器	壺	(8.4)		7.3	灰白	灰白	粗砂並 6mm位の礫、焼土塊含む	ヨコナデ? ナデ	ヨコナデ? ハケ	口縁1/12	
366	D212	2次	G-39区 3層上位 黒色砂へシルト	土師器	甕?		4.5	(5.3)	灰黄~黄灰	浅黄橙	1~2mm砂粒多く含む	不明	不明	底部12/12	
367	D213	2次	GH-39 3層下位	縄文土器	深鉢			6.0	灰黄褐	褐灰	粗砂並	ナデ	浮線、沈線、縄紋、ナデ		
368	D125	2次	2区 表採	染付	碗		4.5	(2.9)							釉:透明 均一にみられるが、底部は均一でない 気泡あり密、貫入あり
369	D124	2次	排土中	唐津	皿			(2.7)							釉:内外面オリーブ灰 均一にかかる 白濁している 気泡あり密 貫入あり 素地:オリーブ灰
370	D126	2次	1区 崖下攪乱土	陶胎染付	碗	4.4		(5.0)						底部6/12	釉:透明 やや均一 気泡あり密、貫入あり 素地:鈍い褐
371	D110	2次	1区 試掘南側下層包含層	弥生?	甕		10.0	(7.0)	灰白、橙	浅黄橙	砂粒多、小礫、透明粒子、赤色酸化粒	ナデ? 条痕?	条痕?	底部1/12	
372	D123	2次	1区 排土中	須恵器	蓋	16.6		(1.5)	灰	暗青灰	砂粒、白色粒、透明粒子	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラ切り	口縁1/12	
382	D130	3次	I-36区 P2220	縄文土器	深鉢口縁			(10.3)	黒褐	浅黄橙	砂粒多 海綿骨針	ナデ		口縁部小片	
383	D131	3次	E-42区 P2212	縄文土器	浅鉢		7.0	(3.9)	淡黄	橙	砂粒多 海綿骨針	ナデ	ナデ 不明	底部完形	
384	D132	3次	G-40区 P2135	縄文土器	鉢 底部		10.2	(4.6)	灰褐	暗灰黄	砂粒多、長石	ナデ	不明	底部2/12	
385	C114	3次	B-46区 SX2201	弥生土器	小型壺	11.15		(4.0)	橙	橙	砂粒多、礫少		擬凹線	口縁2/12	
386	C115	3次	B-46区 SX2201	弥生土器	甕			(4.9)	橙	橙	砂粒多 礫少 シャーモット		擬凹線		
387	C113	3次	B-46区 SX2201	土師器	甕	14.5		(17.05)	淡黄	浅黄橙	砂粒多 礫や多	不明	不明	口縁6/12	
388	D138	3次	B-46区 SX2201	土師器	甕口縁	17.1		(5.5)	灰白	灰白	砂粒多	ナデ ケズリ	ハケ ナデ	口縁1/12	
389	C116	3次	B-46区 SX2202	弥生土器	高坏	28.75		(7.0)	赤	赤	砂粒多、礫多 シャーモット	ミガキ ヨコナデ	ハケ ヨコナデ	口縁部2/12	
390	C117	3次	F-41区 SX2014	縄文土器	浅鉢	32.4		(6.75)	浅褐	浅褐	砂粒多、礫多 海綿骨針	ナデ	沈線 ナデ	小片	
391	D140	3次	E-41区 SX2014	土師器	壺 底部	5.2	4.0		灰黄褐	褐灰	砂粒多、海綿骨針	ナデ	ナデ ハケ	底部2/12	
392	D141	3次	F-41区 SX2014	縄文土器	浅鉢口縁	21.3		(6.6)	灰黄褐	浅黄橙	砂粒多	ナデ	ナデ		
393	D142	3次	F-41区 SX2014	縄文土器	浅鉢口縁			(4.6)	褐灰	浅黄橙	砂粒多	ナデ	ナデ		

第9表 土器・陶磁器観察表9

報告 番号	実測 番号	年 次	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	調整		遺存度	その他
									内	外		内	外		
394	D139	3次	E-41区 SX2014	縄文 土器	壺	20.6		(6.6)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	ミガキ	ミガキ	口縁2/12	
395	C118	3次	C-47区 3層	弥生 土器	壺口縁	28.2		(7.3)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多、礫多	不明	ナデ ハケ	口縁1/12 以下	
396	C119	3次	C-46区 3層	弥生 土器	甕	17.2		(7.7)	灰黄・橙	橙	砂粒多	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ ケズリ	口縁2/12	接合痕
397	D145	3次	D-44区 3層	土師器	小型	8.7		(8.4)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ヨコナデ ナデ	不明	ほぼ完形	
398	D147	3次	C-46区 3層	土師器	甕	19.8		(6.0)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多 礫多 シャーモット	ナデ ケズリ	ナデ	口縁1/12	
399	D148	3次	C-46区 3層	土師器	甕	16.6		(6.35)	浅黄橙	灰黄褐	砂粒多 礫多 シャーモット 海綿 骨針	ハケ ケズリ	ナデ	小片	
400	D168	3次	E-40区 3層	縄文 土器	鉢 底部		9.5	(3.2)	橙	赤	砂粒多	不明	板状圧痕	底部 12/12	
401	D173	3次	E-42区 3層	縄文 土器	深鉢			(6.4)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ			
402	D174	3次	E-42区 3層	縄文 土器	鉢			(5.1)			砂粒多	ハケ	条痕		
403	D175	3次	E-42区 3層 (黄褐シルト)	縄文 土器	鉢		8.2	(5.0)	浅黄褐	灰黄褐	砂粒多 礫多	ナデ	ナデ 条痕	底部ほぼ 完形	
404	D176	3次	E-42区 3層 (黄褐シルト)	縄文 土器	鉢 胴部			(8.7)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多 礫多 赤 色粒 海綿骨針	ナデ	条痕	胴部小片	
405	D143	3次	D-44区 4層	縄文 土器	深鉢			(3.1)	灰白	浅黄橙	砂粒多 石英少	ナデ	ナデ		
406	D144	3次	D-44区 4層 (流土)	縄文 土器	深鉢 口縁			(5.0)	浅黄橙	灰白	砂粒多	ナデ			
407	D146	3次	C-46区 4層 (流土)	須恵器	有台 坏		7.4	(3.1)	灰白	灰白	砂粒多 長石多	ロクロナデ	ロクロナデ	底部1/12	
408	B4	3次	E-42区 4層(流土) No.1	縄文 土器	深鉢			(6.5)	黄橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ	沈線		
409	D166	3次	G-39区 4層(流土)	縄文 土器	鉢		10.4	(3.8)	灰黄	浅黄橙	砂粒多	ナデ	縄文 ナデ		底面 網状圧痕
410	D150	3次	I-36区 4層(流土)	縄文 土器	甕 底部		5.0	(2.5)	灰黄	黄灰	細砂多	ナデ	ナデ 指頭 圧痕	底部8/12	
411	B3	3次	E-42区 4層	弥生 土器	鉢		3.5	(7.1)	淡黄	褐灰	砂粒多 海綿骨針	ナデ	無文	底部完形	
412	D167	3次	F-42区 4層(流土)	縄文 土器	鉢	26.0		(7.9)	黒褐	浅黄	砂粒多 礫多	ナデ	無文	口縁3/12	
413	D149	3次	I-36区 4層(流土)	縄文 土器	深鉢			(5.5)	浅黄橙	黄灰	砂粒少	ナデ			
414	B1	3次	G-41区 4層(流土)	縄文 土器	深鉢			(21.6)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	ナデ	無文		
415	D164	3次	G-39区 4層(流土)	縄文 土器	深鉢			(4.6)	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	ナデ	縄文		穿孔
416	D165	3次	G-39区 4層(流土)	縄文 土器	深鉢			(6.9)	灰黄	灰褐	石英粒多	ナデ	縄文		能登か
417	D172	3次	E-44区 斜面	縄文 土器	深鉢			(7.3)	浅黄	浅黄	砂粒多	ナデ	条痕		
418	D171	3次	E-44区 斜面	陶器	蓋	4.8		1.65	浅黄橙	浅黄橙		ナデ	縄文	口縁6/12	産地 瀬戸
419	D160	3次	G-41区(付近) 斜面	縄文 土器	鉢			(5.9)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ	縄文		
420	D161	3次	G-41区(付近) 斜面	縄文 土器	鉢			(5.7)	褐灰	褐灰	砂粒少	ナデ	縄文		
421	C121	3次	G-42区 斜面下土器 集中	弥生 土器	壺			(11.9)	浅橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ ケズリ	ハケ	頸部4/12	口縁端部欠損
422	D162	3次	G-41区 盛土(整地)	縄文 土器	浅鉢			(3.5)	灰白	灰白	砂粒多	ナデ			
423	D163	3次	G-41区 盛土(整地)	縄文 土器	深鉢			(5.2)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ			
424	D177	3次	H-40区 セクション6層	縄文 土器	鉢 胴部			(8.95)	灰黄	灰黄	砂粒少 細砂	ナデ	条痕	胴部 小 片	
425	D151	3次	H-40区 セクション5層	縄文 土器	深鉢			(5.55)	灰白	灰白	砂粒少 礫少	ナデ			
426	D152	3次	H-40区 セクション5層	縄文 土器	深鉢			(4.7)	灰黄	灰黄	砂粒多	ナデ			
427	D153	3次	H-40区 セクション4層	土師器	鉢	15.6		(4.9)	浅黄	浅黄	砂粒多 礫多	ナデ	ナデ	口縁2/12	
428	D154	3次	H-40区 セクション4層	土師器	甕	17.2		(7.5)	淡黄	淡黄	砂粒多	ナデ ケズリ	ナデ	口縁3/12	
429	D155	3次	H-40区 セクション4層	土師器	小型 鉢	10.7		(6.1)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ナデ	ハケ		
430	D156	3次	H-40区 セクション2層	弥生 土器	甕	17.0		(4.2)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁4/12	
431	D157	3次	H-40区 セクション2層	土師器	甕	33.1		(6.9)	淡黄	灰黄	砂粒多 礫多	ナデ ハケ	ナデ ハケ	口縁1/12	
432	C120	3次	H-40区 セクション2層	土師器	甕	14.2		(15.5)	浅黄橙	浅黄橙	砂粒多 礫少 シャーモット	ハケ ナデ	ナデ ケズリ	ほぼ完形	
433	D158	3次	H-40区 セクション2層	土師器	取手	4.2		(5.1)	淡黄	灰白	砂粒多	ナデ	ナデ		
434	D159	3次	H-40区 セクション1層	須恵器	坏	11.9		(2.5)	灰白	灰白	砂粒少	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁1/12	
435	B2	3次	F-41区 断割	縄文 土器	浅鉢	18.5		(6.3)	黄褐	浅黄	砂粒多	ナデ	ナデ	口縁 2/12	
436	D169	3次	F-41区 断割 No.1	縄文 土器	深鉢			(6.5)	黒褐	褐灰	砂粒多	ナデ ハケ	無文		
437	D170	3次	F-41区 断割 No.1	縄文 土器	深鉢 口縁	29.2		(3.2)	灰褐	黄褐	砂粒多	ロクロナデ	ロクロナデ		
438	C122	3次	G-41区 断割 (整地層)	弥生 土器	器台 裾部	14.3		(10.15)	灰白	浅黄橙	砂粒多 礫多 赤色粒多	ケズリ ミガキ	ミガキ ナデ 沈線	口縁3/12	

第10表 石器観察表

報告番号	実測番号	年次	出土地点	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
45	石器4	1次	表採 No.197	石器	磨製石斧	6.3	3.5	0.8	29.5	蛇紋岩	有溝石錘への転用か
46	石器2	1次	表土 60～67 No.192	石器	磨製石斧	6.7	5.8	2.6	163	蛇紋岩	
47	石器3	1次	第1トレ 東辺部 青灰砂粒中層 No.22	石器	滑石製有孔円盤	3.0	3.0	4.0	6.0	滑石	模造品
48	石器1	1次	第2トレ 52区 最下層 No.39	石器	有溝砥石	10.9	10.4	4.3	269	粗粒砂岩	
60	石器7	1次	第3トレ 58区 下層 No.67	石器	石鏃	3.5	3.1	0.9	7.6	玉髓	
61	石器6	1次	第3トレ 60区 下層 No.69	石器	磨製石斧	4.2	2.7	1.0	16.0	蛇紋岩	
72	石器27	1次	第4トレ 2号土器溜まり No.2、No.93	石器	石核	8.6	9.0	4.1	416	不明	チャートか
88	石器8	1次	第4トレ 1溝	石器	打製石斧	13.9	5.5	1.9	207	凝灰岩か	
109	石器5	1次	第4トレ 西隅 暗褐色粘土層 下の砂層 (縄文層) No.169	石器	磨製石斧	7.6	4.4	2.3	118.3	黒色頁岩	
181	石器21	2次	E-10区 2層	石器	磨石類	9.8	7.6	5.0	571	砂岩	磨面・敲痕跡あり
182	石器9	2次	G-3区 2層	石器	打製石斧	15.9	9.8	2.4	360	角礫凝灰岩	
183	石器15	2次	G-4区 SK2041	石器	行火の蓋	(13.0)	15.6	3.7	540	凝灰岩	O型、シャクダニ石
189	石器10	2次	F-41区 SD2022d	石器	打製石斧	15.7	13.4	4.7	1054	花崗岩か	
203	石器28	2次	F-40区 SD2044	石器	磨石類	8.3	7.3	4.2	365	不明	磨面・敲痕跡あり
222	石器25	2次	F-41区 P2022	石器	管玉	2.8	0.8	0.7	1.9	緑色凝灰岩	
272	石器18	2次	F-40区 1層	石器	打製石斧未製品 か	11.2	18.4	3.3	506	凝灰岩	
300	石器29	2次	F-41区 3層下位	石器	打製石斧	7.7	5.8	2.3	136	流紋岩か	縄跡見られる
301	石器19	2次	F-41区 3層下位	石器	磨石類	14.2	9.5	7.7	1436	不明	磨面あるか
304	石器12	2次	G-38区 断ち割り	石器	横刃型石器	9.5	13.7	1.2	135	安山岩	
313	石器23	2次	G-39区 3層 (暗灰シルト)	石器	両極剥離剥片	7.4	3.2	1.9	17.1	凝灰岩	
336	石器22	2次	G-40区 3層上面	石器	磨石類	8.2	8.3	6.6	506	安山岩	敲打痕顕著
342	石器13	2次	G-40区 3～4層	石器	すり石?	14.8	5.8	2.6	321	凝灰岩	
349	石器11	2次	1区 A断面 2～3層	石器	打製石斧	19.4	15.1	5.5	1781	凝灰岩	
355	石器14	2次	2区 SK2009 焼石	石器	石棒	5.9	2.1	1.0	14.9	黒色頁岩	
373	石器26	2次	2区 排土	石器	二次加工のある 剥片	9.4	7.2	1.3	80.8	安山岩	(リタッチドフレイク)
374	石器17	2次	1・2区 排土	石器	石鏃	2.6	2.9	0.5	2.8	安山岩	
375	石器16	2次	3層	石器	磨製石斧	6.9	4.1	1.5	59.9	蛇紋岩	
376	石器24	2次	2区 3層	石器	石錘	6.3	6.0	1.5	74.7	砂岩	
377	石器20	2次	出土地点不明	石器	磨石類	7.1	6.6	5.7	353	安山岩か	敲痕跡あり
378	石器30	2次	出土地点不明	石器	石錘	6.0	5.5	1.8	71.1	凝灰岩か	
439	石器50	3次	H-38区 4層 (流土)	石器	敲打石	10.55	6.55	4.95	457.5	安山岩か	
440	石器46	3次	H-38区 4層 (流土)	石器	石錘	7.7	5.4	1.85	80.7	凝灰岩	
441	石器48	3次	G-39区 4層 (流土)	石器	敲打石	9.2	7.9	3.6	54.9	安山岩	
442	石器58	3次	H-42区 3層	石器	打製石斧	13.6	5.2	2.3	170.4	流紋岩	
443	石器53	3次	H-41区 4層 (流土)	石器	削片	27.5	21.5	6.6	2.16	凝灰岩	同化面灰色 軟質
444	石器36	3次	F-41区 SD2204	石器	石刃	64.7	27.8	11.8	30.03	頁岩又は 凝灰岩	硬質 同化面灰白色 背面 研磨 微細剥離痕 黒色粒 子含む 頭部調整みられる
445	石器55	3次	H-40区 8層 (流土)	石器	打製石斧	11.8	10.15	3.15	421.1	角礫凝灰岩	
446	石器39	3次	F-41区 SD2014	石器	両極剥離剥片	3.9	5.1	2.4	4.9	凝灰岩	

第11表 金属製品観察表

報告番号	実測番号	年次	出土地点	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
379	金属1	2次	2区 2層か	耳環(銅)	2.7	2.7	0.7	12.9		
380	銅銭1	2次	F-40区 1b層	銭貨	洪武通寶	2.3	2.3	0.2	0.9	孔径0.6cm、錆化著しい
381	銅銭2	2次	4区 南端表採	銭貨	寛永通寶(文銭)	2.5	2.6	0.2	3.6	孔径0.6cm



遺跡の垂直空中写真（上が北）



遺跡近景（南から）



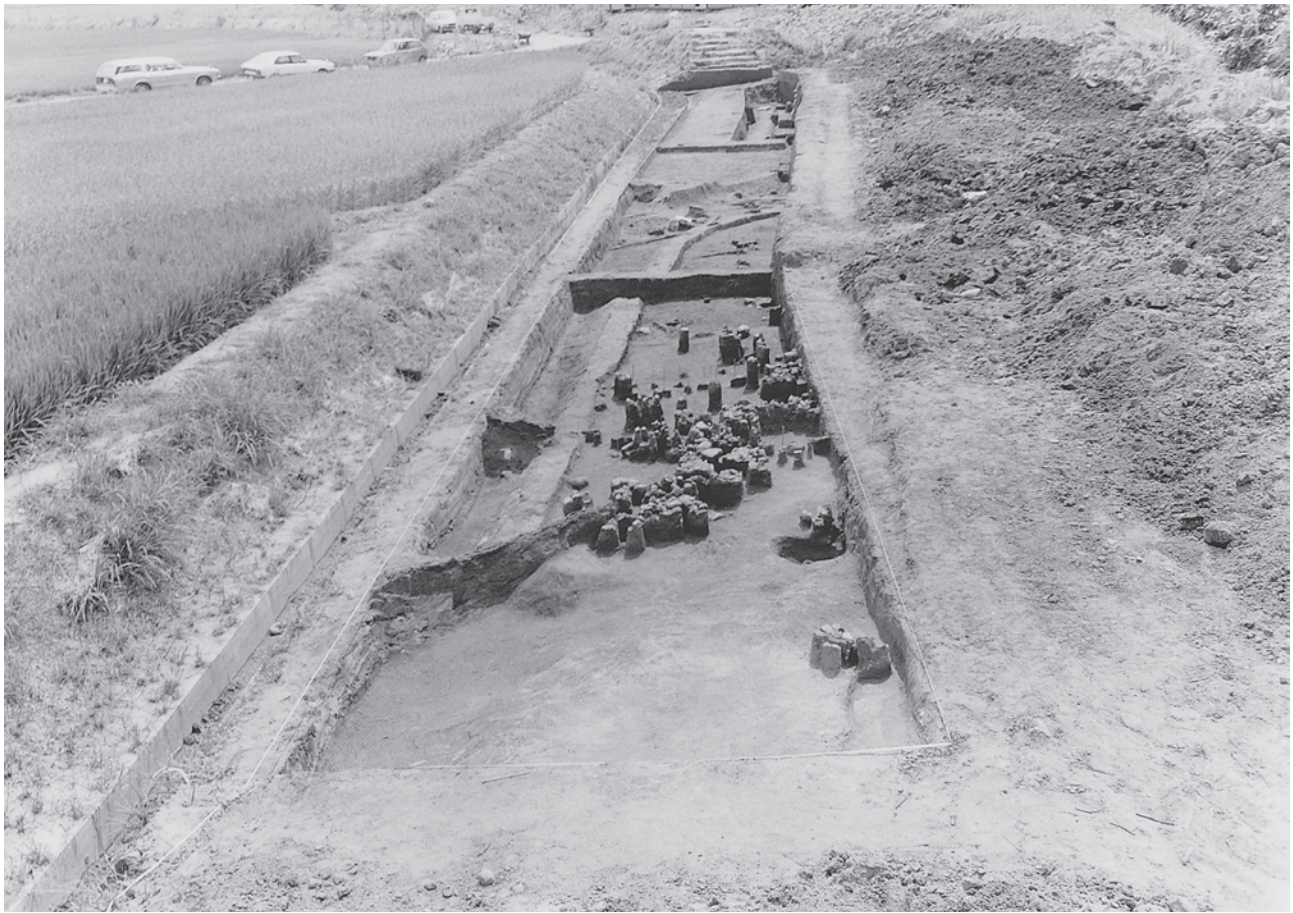
三木の集落より調査区を望む（東から）



調査着手前（北から）



表土掘削の様子



第1次調査完掘状況（北から）



遺物出土状況（北から）



第1次調査完掘状況（北から）



第1次調査完掘状況（南から）



第 2 次調査 4 区完掘状況（上が南）



4区北端 (F1・F2区) SX2401、SX2402 土器細片検出状況



4区北壁土層断面 (4_1-4_2断面 南から)



4 区遺構検出状況（北から）



4 区調査の様子



4区完掘状況（南から）



4区完掘状況（北から）



4 区完掘状況 (南から)



SK2403 (H12 区) 土層断面



4区土層断面 (4_5-4_6断面 北から)



4区 SD2405 周辺土層断面 (4_11-4_12断面 南から)



3区調査状況



3区遺構検出状況



第2次調査1・2区完掘状況（上が南）



1・2区（1面目）遺構検出状況



1・2区（1面目）遺構検出状況



1・2区（1面目）完掘状況（北から）



1・2区（1面目）完掘状況（南から）



1・2区（1面目）完掘状況（D45区周辺）



SK2002（C45区）



1・2区（2面目）遺構検出の様子（北から）



SD2028（D43区）土器出土状況



SD2022 (E41 区) 土器出土状況



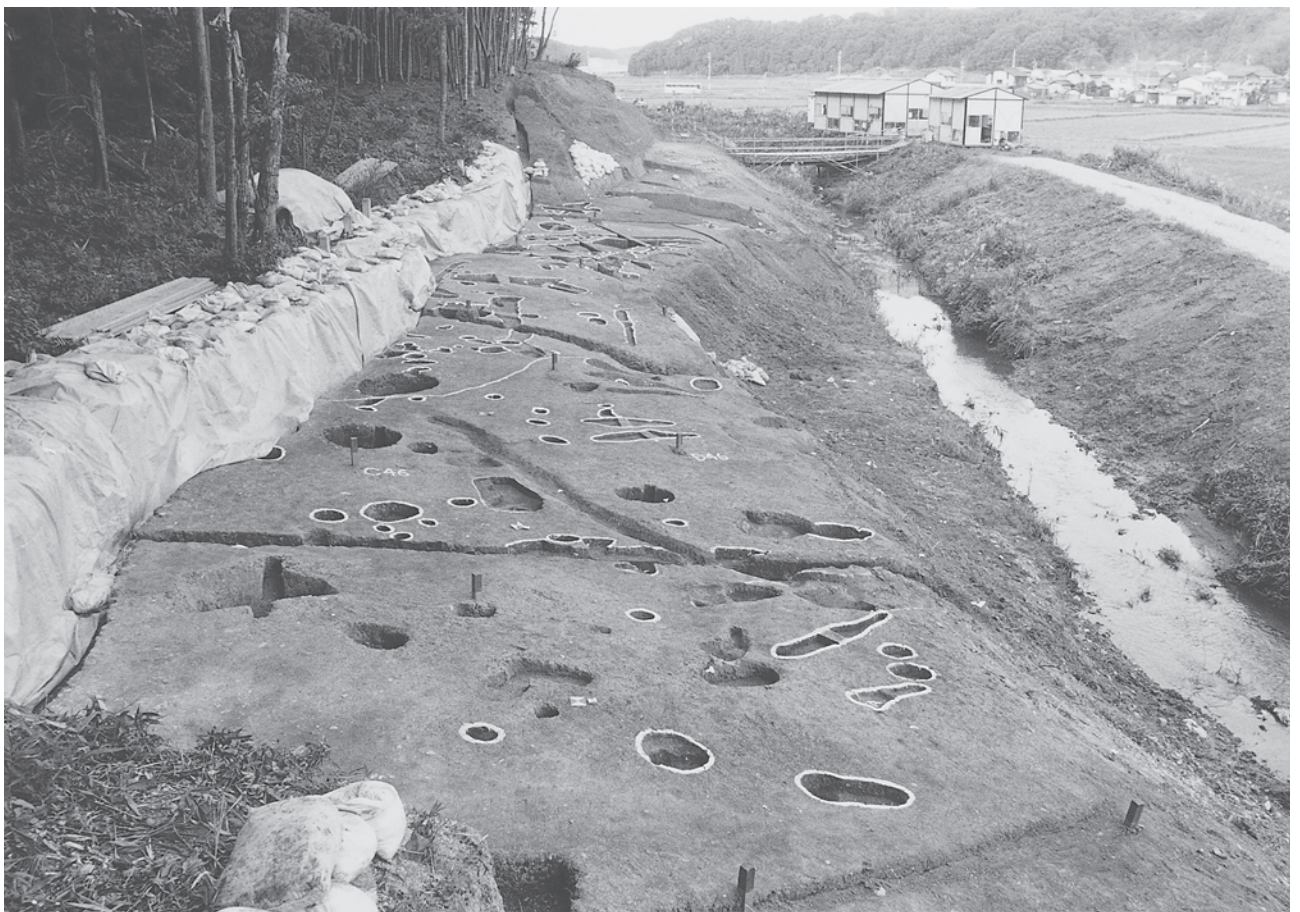
SD2022 土器出土状況



SD2022 調査状況



1・2区（2面目）完掘状況（北から）



1・2区（2面目）完掘状況（南から）



1・2 区 (3 面目) 完掘状況 (北から)



SD2020 (C46 区) 完掘状況 (北から)



第3次調査完掘状況（北から）



第3次調査完掘状況（南から）

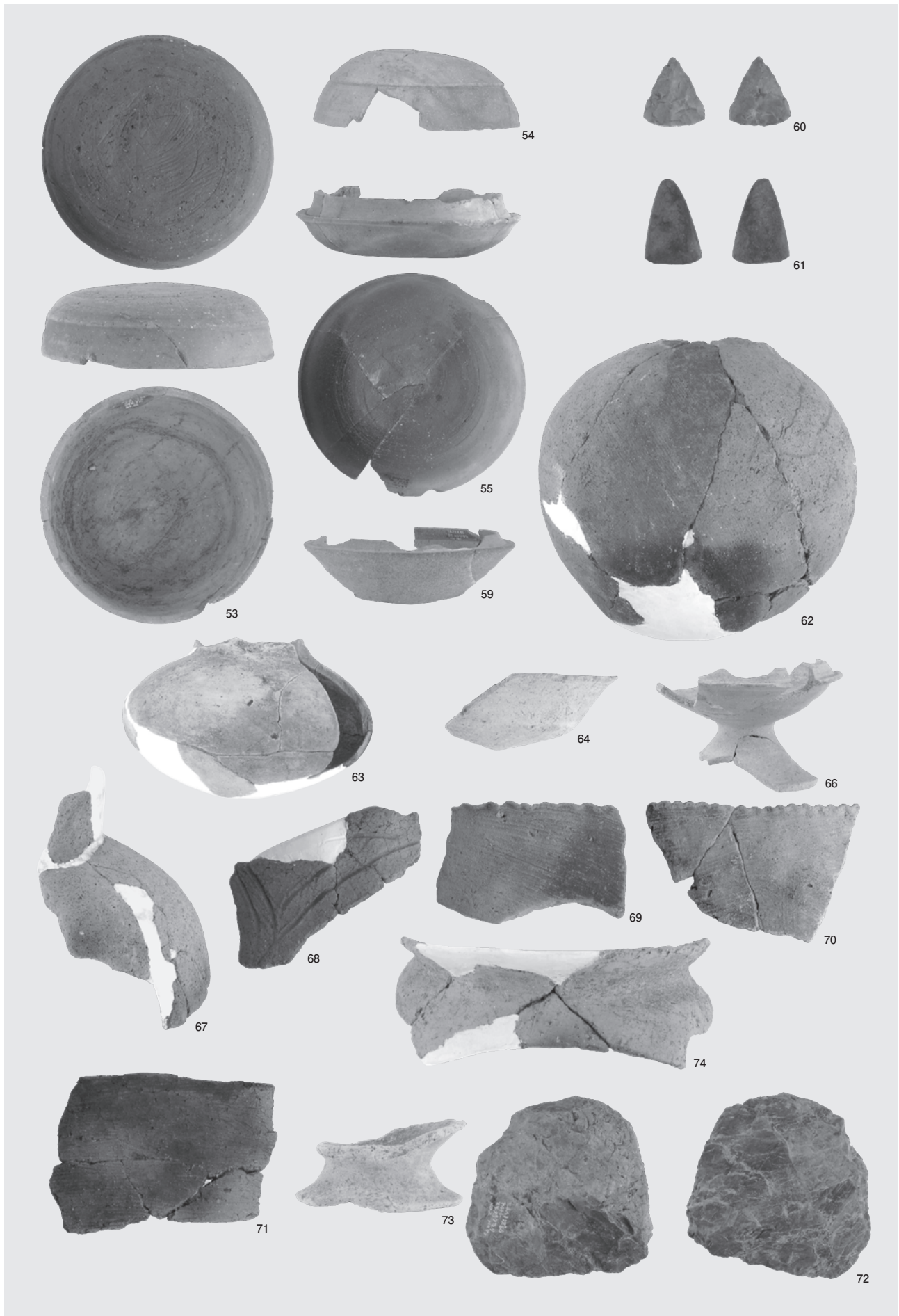


第3次調査完掘状況（北から）



SD2204 完掘状況（北から）

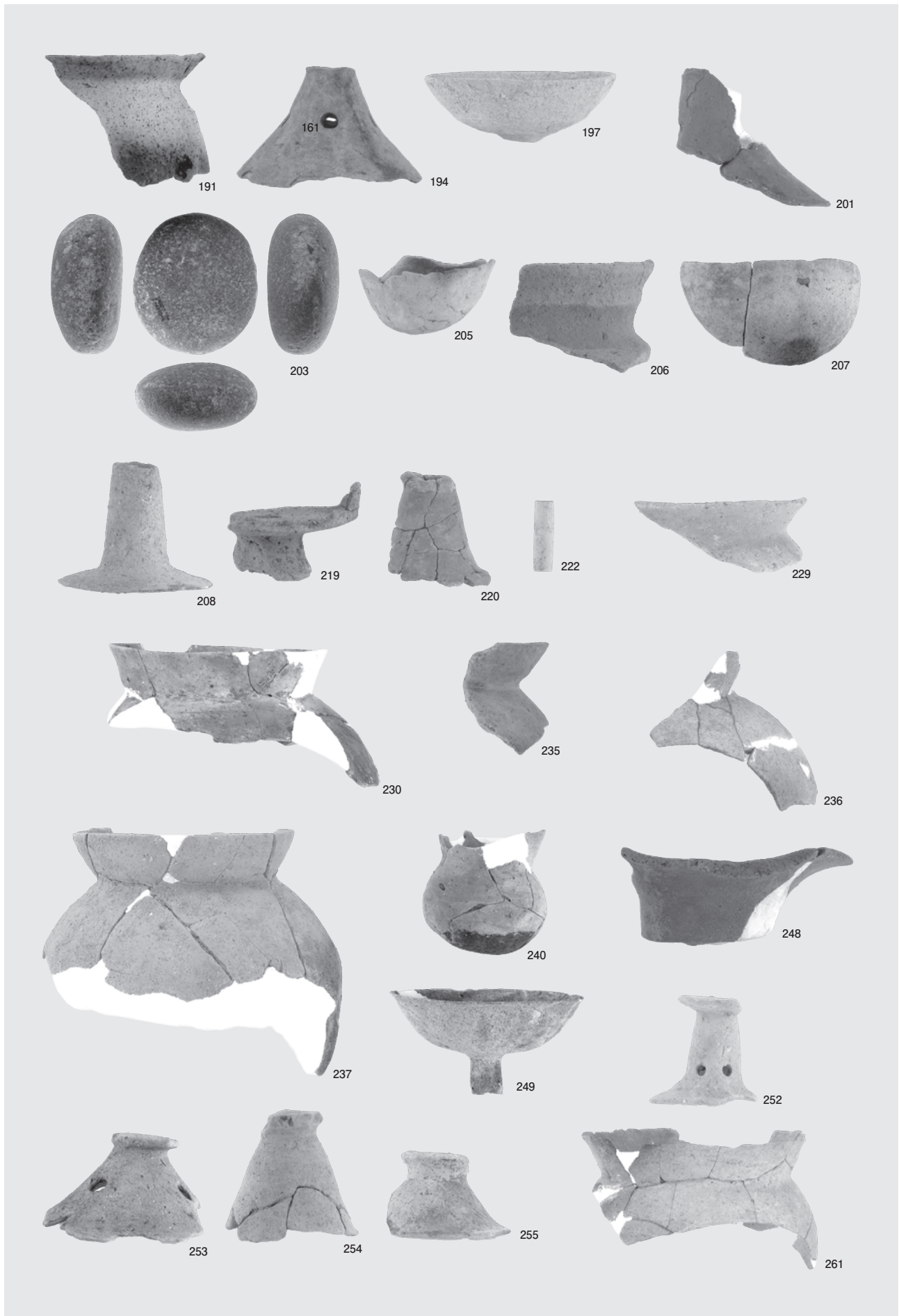


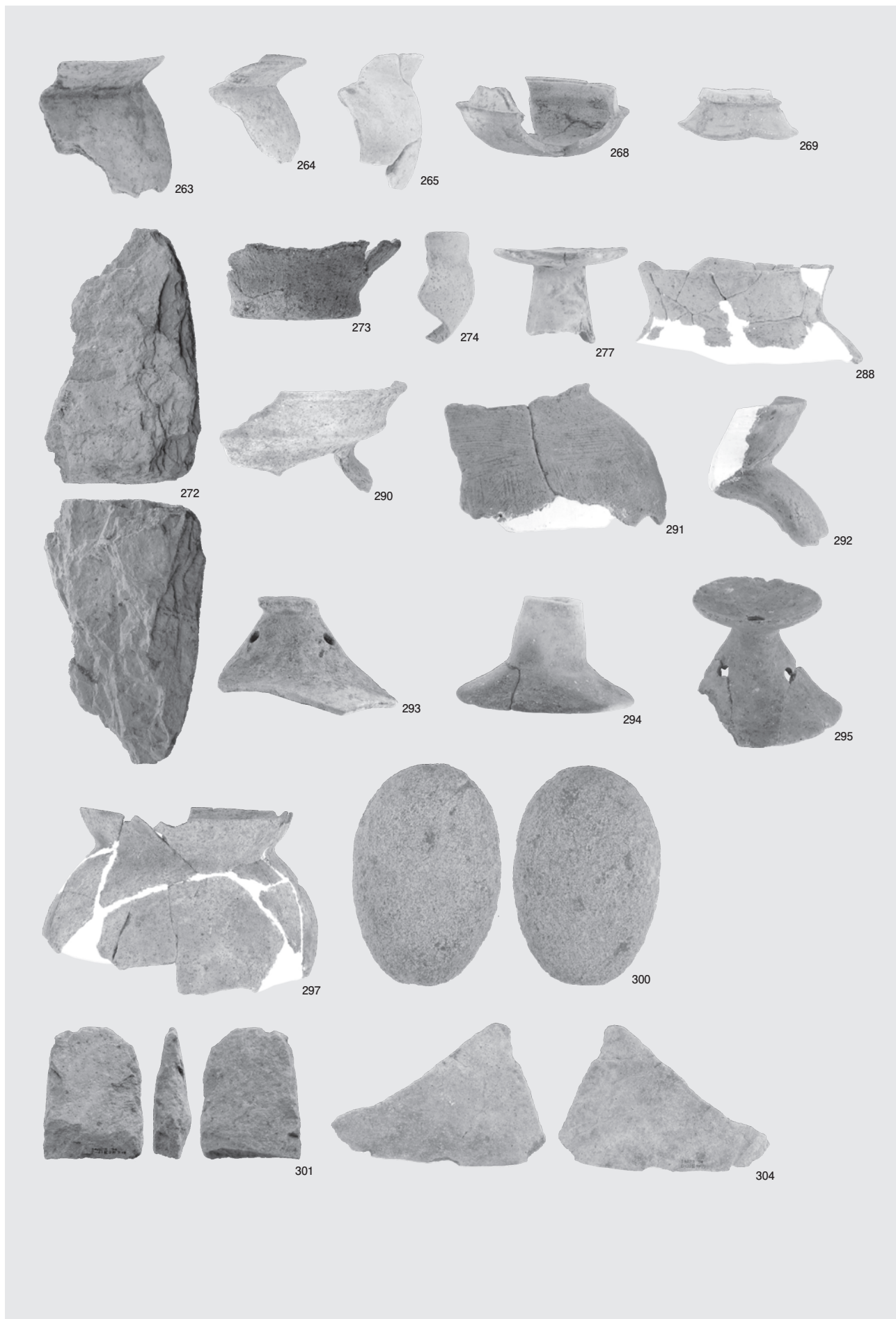


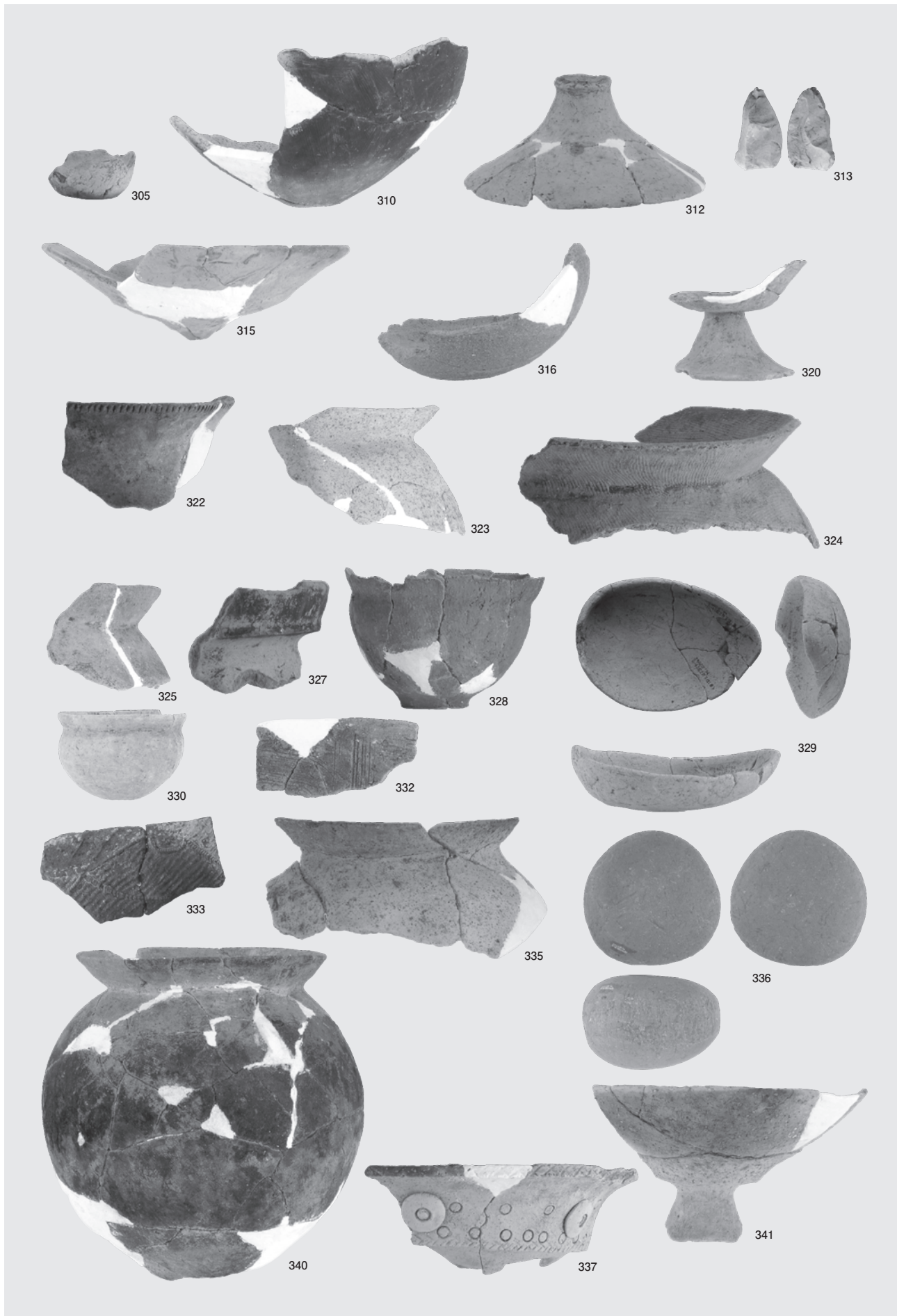


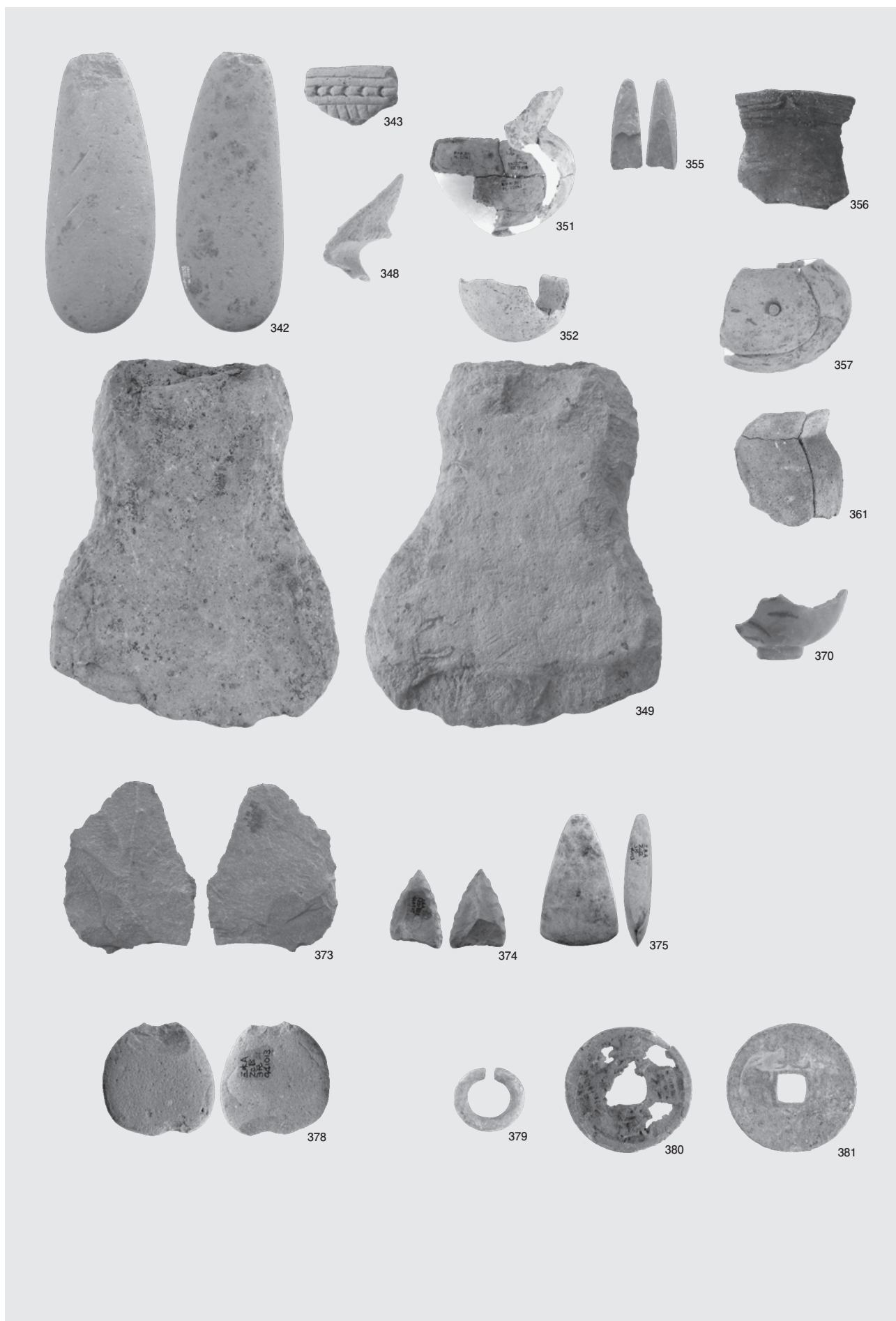


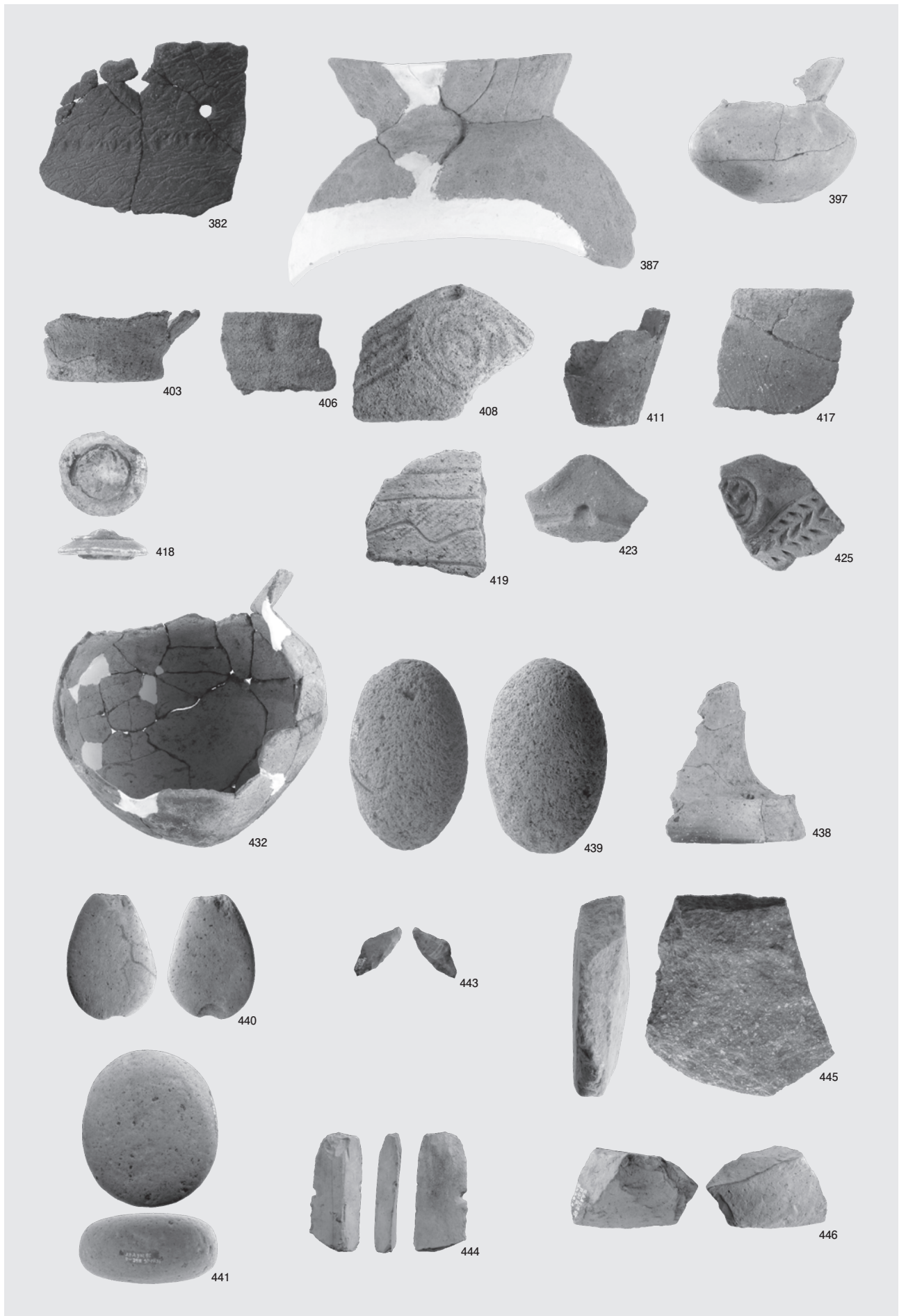












ふりがな	かがし みきAいせき							
書名	加賀市 三木A遺跡							
副書名	河川局部改良事業二級河川奥の谷川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	垣内光次郎、端 猛、加藤克郎							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2009年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
みきいせき 三木A遺跡	いしかわけん 石川県 かがし 加賀市 みきまち 三木町	17206	06011	36度 17分 44秒	136度 16分 50秒	19860515～ 19860924	700㎡	河川局部 改良事業 二級河川 奥の谷川
						19940701～ 19941107	800㎡	
						19950731～ 19950913	400㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
三木A遺跡	集落跡	旧石器時代、 縄文時代、 弥生時代、 古墳時代、 古代、中 世、近世	柱穴、土坑、 溝、畝溝状遺構	縄文土器、弥生土 器、土師器、須恵器、 製塩土器、陶磁器、 石鏃、磨製石斧、 管玉、滑石製模造 品、耳環、銭貨				
要 約	<p>遺跡は大聖寺川支流である奥の谷川の下流域、加賀市三木町地内の丘陵裾部に所在する。第1面（古代～中世）、第2面（古墳時代）、第3面（弥生時代）の3つの遺構面を確認した。最下層では縄文土器を含む層を確認したが、明確な遺構面は存在せず、丘陵上からの流れ込みの遺物と推定される。</p> <p>とりわけ10～12世紀代とみられる製塩土器の大量出土については注目されるが、炉跡などの煎熬作業に関する遺構は確認していない。「PDF」あり。</p>							

加賀市 三木A遺跡遺跡

発行日 平成21（2009）年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 鶴川印刷株式会社

〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地